
埼玉県深谷市埋蔵文化財発掘調査報告書 第123集

幡 羅 遺 跡 VII

— 遺跡南西部の調査 —

下 郷 遺 跡 V

— 周辺集落の調査 —

2011.3

深谷市教育委員会

埼玉県深谷市埋蔵文化財発掘調査報告書 第123集

は ら い せき
幡 羅 遺 跡 VII

— 遺跡南西部の調査 —

しも ごう い せき
下 郷 遺 跡 V

— 周辺集落の調査 —

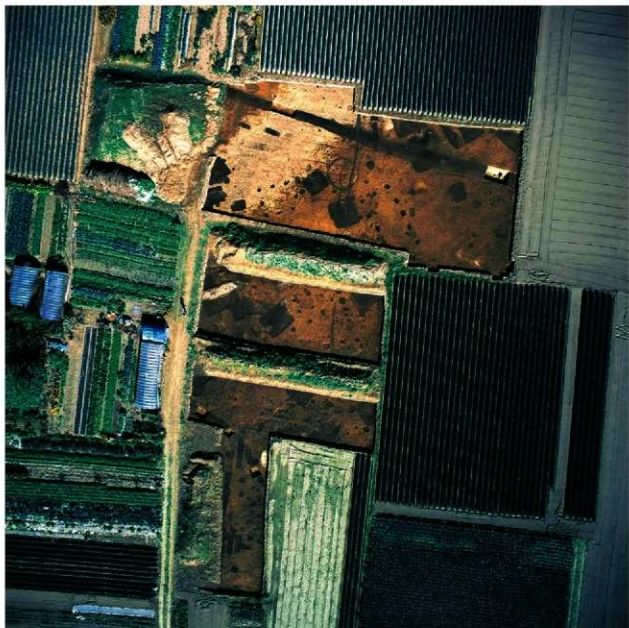
2011.3

深谷市教育委員会



幡羅遺跡第20次調査区遠景

卷頭図版 2



幡羅遺跡第20次調査区全景



幡羅遺跡第28次調査区遠景



幡羅遺跡第28次調査区全景

卷頭図版 4



下郷遺跡第9次調査第1号竪穴建物跡



下郷遺跡第13次調査区全景

序

幡羅遺跡（古代幡羅郡家跡）の調査は、平成13年から継続して行なわれ、その全体像を現しつつあります。地域の歴史、ひいてはわが国の歴史を理解する上で欠くことのできない遺跡であり、それを裏付ける様々な遺構や遺物が出土しています。核となる郡家跡の周辺には、集落跡が広大な範囲に広がっており、いかにこの地が栄えていたのかを物語っています。

大化の改新以降、様々な改革が行なわれ、約半世紀をかけて日本という国家が整えられていきます。幡羅遺跡はそうした時代の中で形成され、200年以上という非常に長期間にわたり幡羅郡の中心であり続けました。こうした地域史の中でも中核となる遺跡が、ほとんど無傷で残っている例は全国的に見ても稀であり、地域で誇れるものです。そのため、深谷市教育委員会では、幡羅遺跡範囲内容確認調査を行ない、この貴重な遺跡を末永く保存していく所存です。

今回の調査報告書は、遺跡南西部及び郡役所の周囲に広がる集落域の調査成果についてまとめたものです。この成果を広く市民の皆様にご紹介することで、日本の歴史の中に息づく地域の歴史や文化について、ご理解を深めていただきたいと存じます。また、この報告書が学術研究はもとより、学校、社会教育などの生涯学習活動を通じて、皆様が歴史を考えるための資料として役立てば、望外の喜びです。

最後に、地権者の方々をはじめとして、発掘調査および報告書作成にあたり深いご理解とご協力をいただきました関係者の皆様に心から感謝を申し上げます。序にかえます。

平成23年3月

深谷市教育委員会
教育長 小柳光春

例 言

1. 本書は、埼玉県深谷市東方に所在する幡羅遺跡及び下郷遺跡の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は、重要遺跡の範囲内容確認調査であり、国庫補助金、県費補助金の交付を受け、深谷市教育委員会が実施した。
3. 調査にあたっては、文化庁文化財部記念物課、埼玉県教育局市町村支援部生涯学習文化財課、幡羅遺跡・西別府遺跡群検討委員会の指導を受けた。
4. 今回報告するのは、範囲内容の確認を目的として平成16・18・19年度に行った幡羅遺跡第20・22・28次調査、下郷遺跡第3・4次調査、開発に伴って行なった下郷遺跡第5・9・13次調査及び確認調査である。範囲内容確認調査における各調査区の地権者・地番・面積・調査担当者・調査期間は第1表の通りである。
5. 発掘調査及び出土遺物の整理、報告書の執筆は知久裕昭が担当した。
6. 遺跡の基準点測量は、株式会社東京航業研究所、中央航業株式会社に委託した。
7. 出土遺物は、深谷市教育委員会が保管している。
8. 本遺跡における概要は一部公表されているが、本書をもって正報告とする。
9. 発掘調査から報告書作成に至るまで、次の諸氏のご指導・ご協力を賜った。記して謝意を表したい。

文化庁 埼玉県生涯学習文化財課

赤熊浩一	浅野晴樹	新井 端	荒井秀規	板橋正幸	出浦 崇	出縄康行
井上尚明	今井 宏	江口 桂	大橋泰夫	大谷 徹	書上元博	金子正之
神谷佳明	川口武彦	川原秀夫	木戸春夫	木下 良	木本雅康	栗岡真理子
小林 高	小宮 豪	小宮俊久	齋藤直美	齋藤欣延	酒井清治	坂井秀弥
坂爪久純	坂本和俊	酒寄雅志	佐藤康二	佐藤 信	寺社下博	篠原英政
末木啓介	菅谷浩之	鈴木靖民	須田 勉	高島英之	高橋一夫	竹野谷俊夫
田中広明	田中弘志	辻 史郎	富田和夫	中島広顕	中島 宏	中村太一
禰宜田佳男	根本 靖	原 京子	坂野和信	平野 修	昼間孝志	深谷 昇
藤木 海	前澤和之	松田 哲	松本太郎	水口由紀子	宮瀧交二	村木志伸
村田晃一	室伏 徹	山路直充	山中敏史	吉野 健	渡辺 一	(敬称略)

凡 例

1. 図面中の方位は、全て国家方眼座標の北を表示している。
2. 遺物の実測図は、須恵器の断面を黒塗りて表現した。また、軸のかかる範囲や赤彩部分については、適宜スクリーントーンで表した。
3. 遺物観察表の記載は、以下の通りである。
 - ・計測値の単位は cm である。
 - ・器径、器高で（ ）を付したものは推定値である。
 - ・種別は土師器をH、須恵器をS、ロクロ土師器をR、灰釉陶器をK、緑釉陶器をYとした。
 - ・胎土は、肉眼で確認できた範囲での含有物を、以下のアルファベットで表した。
A…白色粒子、B…赤色粒子、C…黒色粒子、D…石英、E…角閃石、F…片岩
G…白色針状物質、H…砂礫、I…雲母
4. 遺構の略号は、次の通りである。
建物跡…S B、竪穴建物跡…S J、溝…S D、土坑…S K、特殊土坑…S X
5. 遺構・遺物実測図の縮尺は、適宜スケールで示した。
6. 土層説明中の色調については、『新版標準土色帖』によった。

年度	調査区	調査期間	地権者	地番	調査面積	調査通知	担当者
平成16	下郷3次	H16.4.21～5.27	持田 博勝	東方字辻3091、3092	1,000㎡	H16.4.19付深教生発第1440号	知久 裕昭
	下郷4次	H16.6.22～6.30	中嶋 米子	東方字辻3072-1	1,000㎡	H16.6.15付深教生発第4597号	知久 裕昭
平成18	第20次	H18.9.4～11.13	根岸 友一 江本 啓司 堀口 好司	伊丹2829-1 2829-4 2831-4	2,000㎡	H18.9.1付深教生発第466号	知久 裕昭
平成19	第22次	H19.6.14～6.26	村岡 行雄	東方字伊丹 2809-2	370㎡	H19.5.25付深教生発第223号	知久 裕昭
	第28次	H19.7.3～9.26	鶴田 武也	東方字伊丹 2809-1,2811-1	1,350㎡	H19.5.25付深教生発第223号	知久 裕昭

第1表 調査区一覧表

発掘調査の組織

発掘調査・整理作業（平成16～22年度）

教育長	青木 秀夫（平成16・17年度）
	猪野 幸男（平成18～21年度）
	小柳 光春（平成22年度）
教育長職務代理者	石田 文雄（平成21年度）
教育次長	古川 国康（平成16～18年度）
	石田 文雄（平成19～21年度）
	塚原 寛治（平成22年度）
次長	大澤 芳正（平成16・17年度）
	中村 信雄（平成18～20年度）
	島崎 保（平成21年度）
	澤出 晃越（平成22年度）
事務局 深谷市教育委員会生涯学習課 課長	山口 清（平成16・17年度）
	澤出 晃越（平成17～21年度）
	小林 毅（平成22年度）
主幹兼課長補佐	澤出 晃越（平成17年度）
	武井 茂（平成18・19年度）
課長補佐	原 常博（平成16・17年度）
	猪野塚 昇（平成16・17年度）
	萩原 昭一（平成17年度）
	大谷 住雄（平成18・19年度）
	吉場 厚仁（平成20～22年度）
文化財保護係長	土屋 次雄（平成16年度）
	青木 克尚（平成17年度）
	古池 晋禄（平成18・19年度）
	鳥羽 政之（平成20年度）
	村松 篤（平成21・22年度）
主査	高村 敏則（平成18・19年度）
	鳥羽 政之（平成19年度）
	森下昌市郎（平成19・20年度）
	宮本 直樹（平成20～22年度）
	知久 裕昭（平成22年度）

主 任	青木 克尚 (平成16年度)
	畦元 直大 (平成16～18年度)
	荻野 直美 (平成17～22年度)
	知久 裕昭 (平成17～21年度)
主 事	荻野 直美 (平成16年度)
	知久 裕昭 (平成16年度)
	幾島 審 (平成20～22年度)
	飯島 峻輔 (平成22年度)
主 事 補	幾島 審 (平成19年度)
	飯島 峻輔 (平成21年度)
臨時職員	永井 智教 (平成16～18年度)
	吉野 智貴 (平成18年度)
	栗原貴世実 (平成18～20年度)

調査参加者

阿部ルリ子	伊藤 昌	江原佳与子	大澤 大美	大島 周子
小野寺和子	久米 紀子	倉上多美子	小沼 和子	齋藤 舞
島崎 祐子	砂田伊久子	関口由美子	高田 秀子	滝田 悦子
田代さち子	田中香代子	富田もえみ	根岸 紀次	浜野 光子
菱田 晃彦	丸山 和枝	棟安 祥子	除村 敦子	横山 明美
吉野九の枝	吉野真由美			

目 次

序	
例言	
凡例	
発掘調査の組織	
I 発掘調査の経過	1
1 調査に至る経過	1
2 調査方法	1
3 調査の経過	1
II 遺跡の環境	3
1 地理的環境	3
2 歴史的環境	4
III 幡羅遺跡（遺跡南西部の調査）	9
1 第20次調査区	9
a 概要	9
b 縄文土器	9
c 建物跡	9
d 竪穴建物跡	12
e 溝	17
f 円形周溝遺構	22
2 第22次調査区	22
a 概要	22
b 竪穴建物跡	22
c 溝	23
3 第28次調査区	24
a 概要	24
b 縄文土器	24
c 竪穴建物跡	26
IV 下郷遺跡（周辺集落の調査）	33
1 下郷遺跡第3次調査区	33
a 概要	33
b 竪穴建物跡	33
2 下郷遺跡第4次調査区	51
a 概要	51
b 竪穴建物跡	51
c 溝	55

3	下郷遺跡第5次調査区	55
a	概要	55
b	遺構と遺物	55
4	下郷遺跡第9次調査区	57
a	概要	57
b	遺構と遺物	58
5	下郷遺跡第13次調査区	73
a	概要	73
b	遺構と遺物	75
6	下郷遺跡試掘・確認調査	82
V	調査のまとめ	84

報告書抄録

挿 図 目 次

第1図	グリッド分割図	2	第32図	下郷遺跡第3次調査区出土遺物(5)	42
第2図	埼玉県の地形図	3	第33図	下郷遺跡第3次調査区出土遺物(6)	43
第3図	幡羅遺跡周辺の遺跡	5	第34図	下郷遺跡第3次調査区出土遺物(7)	44
第4図	幡羅遺跡周辺の地籍図	6	第35図	第1号溝	52
第5図	幡羅遺跡の範囲と周辺遺跡	7	第36図	下郷遺跡第4次調査区出土遺物	53
第6図	幡羅遺跡全体測量図	8	第37図	下郷遺跡第5次調査区及び確認調査地点	55
第7図	第20次調査区全体測量図	10	第38図	下郷遺跡第5次調査区遺構測量図	56
第8図	第59号建物跡	11	第39図	下郷遺跡第5次調査区出土遺物	57
第9図	第60号建物跡	12	第40図	下郷遺跡第9次調査区	58
第10図	第61号建物跡	13	第41図	下郷遺跡第9次調査区全体測量図	59
第11図	第50号溝	14	第42図	第1・2号竪穴建物跡	60
第12図	第53号溝	15	第43図	第1号竪穴建物跡土層断面	61
第13図	第1号円形周溝遺構	16	第44図	第1号竪穴建物跡遺物出土状況	62
第14図	第20次調査区出土遺物(1)	18	第45図	第1号竪穴建物跡掘方	63
第15図	第20次調査区出土遺物(2)	19	第46図	第1号竪穴建物跡出土遺物(1)	64
第16図	第20次調査区出土遺物(3)	20	第47図	第1号竪穴建物跡出土遺物(2)	65
第17図	第22次調査区全体測量図	23	第48図	第1号竪穴建物跡出土遺物(3)	66
第18図	第53号溝	24	第49図	第1号竪穴建物跡出土遺物(4)	67
第19図	第22次調査区出土遺物(1)	25	第50図	第1号竪穴建物跡出土遺物(5)	68
第20図	第22次調査区出土遺物(2)	26	第51図	第1号竪穴建物跡出土遺物(6)	69
第21図	第28次調査区全体測量図	27	第52図	第1号土坑	72
第22図	第28次調査区出土遺物(1)	28	第53図	第1号溝	73
第23図	第28次調査区出土遺物(2)	30	第54図	下郷遺跡第9次調査区出土遺物	73
第24図	第28次調査区出土遺物(3)	31	第55図	下郷遺跡第13次調査区全体測量図	74
第25図	下郷遺跡第3・4次調査区全体測量図(1)	34	第56図	第1号建物跡	76
第26図	下郷遺跡第3・4次調査区全体測量図(2)	35	第57図	下郷遺跡第13次調査区出土遺物(1)	77
第27図	第14・15号竪穴建物跡	37	第58図	下郷遺跡第13次調査区出土遺物(2)	78
第28図	下郷遺跡第3次調査区出土遺物(1)	38	第59図	下郷遺跡第13次調査区出土遺物(3)	79
第29図	下郷遺跡第3次調査区出土遺物(2)	39	第60図	下郷遺跡確認調査概要図	82
第30図	下郷遺跡第3次調査区出土遺物(3)	40	第61図	金属製品集成図	83
第31図	下郷遺跡第3次調査区出土遺物(4)	41	第62図	竪穴建物時期別分布図(1)	85
			第63図	竪穴建物時期別分布図(2)	86

表 目 次

第1表	調査区一覽表	第12表	下郷遺跡第3次調査区出土遺物観察表(5)
第2表	第20次調査区出土遺物観察表(1) …… 21		…………… 49
第3表	第20次調査区出土遺物観察表(2) …… 22	第13表	下郷遺跡第4次調査区出土遺物観察表 …… 54
第4表	第22次調査区出土遺物観察表 …… 25	第14表	下郷遺跡第5次調査区出土遺物観察表 …… 57
第5表	第28次調査区出土遺物観察表(1) …… 29	第15表	第1号竪穴建物跡出土遺物観察表(1) …… 69
第6表	第28次調査区出土遺物観察表(2) …… 32	第16表	第1号竪穴建物跡出土遺物観察表(2) …… 70
第7表	第28次調査区出土遺物観察表(3) …… 33	第17表	第1号竪穴建物跡出土遺物観察表(3) …… 71
第8表	下郷遺跡第3次調査区出土遺物観察表(1)	第18表	第1号竪穴建物跡出土遺物観察表(4) …… 72
	…………… 45	第19表	下郷遺跡第9次調査区出土遺物観察表 …… 73
第9表	下郷遺跡第3次調査区出土遺物観察表(2)	第20表	下郷遺跡第13次調査区出土遺物観察表(1)
	…………… 46		…………… 80
第10表	下郷遺跡第3次調査区出土遺物観察表(3)	第21表	下郷遺跡第13次調査区出土遺物観察表(2)
	…………… 47		…………… 81
第11表	下郷遺跡第3次調査区出土遺物観察表(4)	第22表	金属製品一覽表 …… 84
	…………… 48		

図 版 目 次

- 巻頭図版1 幡羅遺跡第20次調査区遠景
巻頭図版2 幡羅遺跡第20次調査区全景
巻頭図版3 幡羅遺跡第28次調査区遠景 幡羅遺跡第28次調査区全景
巻頭図版4 下郷遺跡第9次調査第1号竪穴建物跡 下郷遺跡第13次調査区全景
- 図版1 幡羅20次調査区遠景 幡羅20次調査A区(1) 幡羅20次調査B・C区
図版2 幡羅20次調査A区(2) 幡羅20次第59号建物跡 幡羅20次第60号建物跡
図版3 幡羅20次調査B区 幡羅20次第61号建物跡 幡羅20次調査C区(1)
図版4 幡羅20次第59号建物跡P4 幡羅20次第59号建物跡P5 幡羅20次第60号建物跡P6
幡羅20次第61号建物跡P1 幡羅20次第61号建物跡P2 幡羅20次第50号溝(1)
幡羅20次第50号溝(2) 幡羅20次第50号溝(3)
図版5 幡羅20次調査C区(2) 幡羅20次調査C区(3) 幡羅20次第53号溝(1)
幡羅20次第53号溝(2) 幡羅20次第53号溝(3) 幡羅20次調査A区中央部 幡羅20次調査風景
幡羅22次調査区東部
図版6 幡羅22次調査区南部(東から) 幡羅22次調査区南部(西から) 幡羅22次第53号溝(1)
幡羅22次第53号溝(2) 幡羅22次第53号溝(3) 幡羅22次調査風景 幡羅28次調査区(1)
幡羅28次調査区(2)
図版7 幡羅28次調査区南部 幡羅28次調査区北東部 幡羅28次調査区北部 下郷3次調査区(1)
下郷3次調査区(2) 下郷3次第3～6号竪穴建物跡 下郷3次第13～20号竪穴建物跡
下郷3次第14号竪穴建物跡遺物出土状況
図版8 下郷3次第7～9号竪穴建物跡 下郷3次第26～33号竪穴建物跡(1)
下郷3次第26～33号竪穴建物跡(2) 下郷3次調査風景 下郷4次調査区(1) 下郷4次調査区(2)
下郷5次調査区 下郷5次東壁
図版9 下郷9次調査区(1) 下郷9次第1号竪穴建物跡 下郷9次第1号竪穴建物跡遺物出土状況(1)
図版10 下郷9次第1号竪穴建物跡カマド(1) 下郷9次第1号竪穴建物跡掘方(1)
下郷9次第1号竪穴建物跡掘方(2)
図版11 下郷9次調査区(2) 下郷9次第1号竪穴建物跡遺物出土状況(2)
下郷9次第1号竪穴建物跡遺物出土状況(3) 下郷9次第1号竪穴建物跡カマド(2)
下郷9次第1号竪穴建物跡カマド(3) 下郷9次第1号竪穴建物跡カマド(4)
下郷9次第1号竪穴建物跡掘方(3) 下郷9次第1号土坑
図版12 下郷9次第1号溝 下郷9次調査風景(1) 下郷9次調査風景(2) 下郷9次調査風景(3)
下郷13次調査区遠景
図版13 下郷13次調査区 下郷13次第1号建物跡P2(1) 下郷13次第1号建物跡P2(2)
下郷13次第1号建物跡
図版14 下郷13次調査区北壁跡ビット 下郷13次第1号竪穴建物跡 下郷13次調査区南東部
下郷13次調査区西部 下郷13次調査区南部 下郷13次調査区南西部 下郷遺跡確認調査(1)
下郷遺跡確認調査(2)

- 図版15 幡羅20次調査区出土縄文土器 第14図8 (幡羅20次S B59) 第14図17 (幡羅20次S J 103)
 第15図9 (幡羅20次S J 114) 第15図10 (幡羅20次S J 114) 第15図12 (幡羅20次S J 114)
 第16図6 (幡羅20次S D50) 第16図7 (幡羅20次S D50) 第16図10 (幡羅20次S D53)
 第19図1 (幡羅22次S J 133) 第19図11 (幡羅22次) 第19図12 (幡羅22次)
 第19図13 (幡羅22次) 第19図14 (幡羅22次)
- 図版16 第20図1 (幡羅22次) 第20図2 (幡羅22次) 第20図3 (幡羅22次) 第20図4 (幡羅22次)
 第20図5 (幡羅22次) 第22図17 (幡羅28次S J 161) 第22図19 (幡羅28次S J 161)
 第23図14 (幡羅28次S J 162) 第23図27 (幡羅28次S J 162) 第23図28 (幡羅28次S J 161)
 第23図31 (幡羅28次S J 162) 第23図34 (幡羅28次S J 162) 第24図3 (幡羅28次S J 162)
 第24図14 (幡羅28次S J 167) 第24図18 (幡羅28次S X30)
- 図版17 第28図3 (下郷3次S J 3) 第28図16 (下郷3次S J 6) 第28図18 (下郷3次S J 7)
 第28図27 (下郷3次S J 8) 第29図11 (下郷3次S J 14) 第29図18 (下郷3次S J 14)
 第29図20 (下郷3次S J 14) 第29図21 (下郷3次S J 14) 第29図23 (下郷3次S J 14)
 第29図28 (下郷3次S J 14) 第29図30 (下郷3次S J 14) 第29図31 (下郷3次S J 14)
 第30図2 (下郷3次S J 14) 第31図2 (下郷3次S J 15) 第31図5 (下郷3次S J 15)
 第31図6 (下郷3次S J 15) 第32図22 (下郷3次S J 26) 第33図7 (下郷3次S J 33)
- 図版18 第33図10 (下郷3次S J 33) 第33図14 (下郷3次S J 38) 第34図4 (下郷3次)
 第34図5① (下郷3次) 第34図5② (下郷3次) 第39図2 (下郷5次S J 1)
 第39図4 (下郷5次S J 1) 第46図7 (下郷9次S J 1) 第46図12 (下郷9次S J 1)
 第46図23 (下郷9次S J 1) 第46図32 (下郷9次S J 1) 第46図33 (下郷9次S J 1)
 第47図68 (下郷9次S J 1) 第48図69 (下郷9次S J 1) 第48図88 (下郷9次S J 1)
 第49図101 (下郷9次S J 1)
- 図版19 第50図102 (下郷9次S J 1) 第50図103 (下郷9次S J 1) 第50図104 (下郷9次S J 1)
 第57図2 (下郷13次S J 1) 第57図3 (下郷13次S J 1) 第57図5 (下郷13次S J 3)
 第57図10 (下郷13次S J 5) 第57図11 (下郷13次S J 5) 第57図13 (下郷13次S J 6)
 第57図15 (下郷13次S J 6) 第58図1 (下郷13次S J 7) 第58図6 (下郷13次S J 8)
 第58図7 (下郷13次S J 8) 第58図13 (下郷13次) 第58図17 (下郷13次)
- 図版20 第59図23 (下郷13次) 土鍾 (幡羅28次、下郷3・4次) 土鍾 (下郷9・13次)
 土製紡錘車 (幡羅28次、下郷3次) 鉄製品 (幡羅20・28次、下郷3・4次)
- 図版21 鉄製品、羽口 (下郷9・13次) 第51図128 (下郷9次S J 1) カマド支脚 (下郷9次S J 1)
 第54図2 (下郷9次)

I 発掘調査の経過

1 調査に至る経過

深谷市は、埼玉県北部に位置し、北を群馬県との境に接する。平成18年1月1日に旧岡部町、旧川本町、旧花園町と合併し、総面積137.58km²、人口約146,500人となった。当地は農業、工業ともに盛んで、古くから深谷ネギの産地としても有名である。

幡羅遺跡は、深谷市の北東部、熊谷市との境に位置する。幡羅遺跡に隣接する熊谷市西別府鹿寺跡の地は、かねてより瓦が採集されることが知られており、寺院跡や窯跡の可能性が指摘されていた。しかし、長らくその詳細が明らかにはされず、熊谷市教育委員会によって平成2年に調査されるに至り、ようやく古代寺院跡であることが明らかとなった。

また、同様に隣接する西別府祭祀遺跡は、昭和38年に大場磐雄、小沢国平らによって調査され、馬形や櫛形等の滑石製模造品や土器等が採集された。遺跡は、台地下の湧水地点周辺にあり、水信仰との関係が強いと考えられる。

西別府における古代寺院跡や祭祀跡の存在は、周辺に官衙遺跡の存在を想定させるものであった。しかし、その所在については、全く不明であった。平成13年1月、遺跡の北端部で開発が行なわれることが明らかとなり、事前の確認調査が実施された。この時点で、古墳の他に大型の倉庫跡が存在することが明らかとなる。立地や周辺の状況は、既に発見されていた権沢部家跡である中宿遺跡に似ており、幡羅部家の正倉跡との見方が強まった。そのため市教育委員会は、事業主体者と、遺跡保存のための協議を行い、設計変更による現状保存をすることで同意した。翌13年度には、更に詳細な確認調査を実施し、2棟の正倉跡と正倉院区画溝を確認している(第1・2次調査)。

市教育委員会では、この成果を受け、遺跡の重要性を認識し、平成14年度から保存目的の範囲内確認調査を開始した。調査は、休耕時に農地を借り上げ、調

査終了後は復旧する方針で行なった。平成14年度は第3次調査、15年度は第4次調査、16年度は第5～12・16・33次調査、下郷遺跡第3・4次調査、17年度は第13～15・17・18次調査、18年度は19・20次調査、19年度は21～29次調査、20年度は30～32・34次調査を実施した。今回の報告分は、この内、遺跡南西部に当たる第20・22・28次調査区、下郷遺跡第3・4次調査区についてである。下郷遺跡第3・4次調査区は、後に幡羅遺跡の範囲内に含めたものである。また、開発に伴い行なった発掘調査及び確認調査(下郷遺跡第5・9・13次調査)についても報告する。

2 調査方法

幡羅遺跡では、平成14年度に作成した、航空測量による地形図に基づいて区割りを行なっている(第1図)。範囲は南北600m、東西700mである。この範囲内に、100×100mの大グリッドを設定し、内部を5×5mの小グリッドに分割した。小グリッドは、北西隅から平行式に1～400と呼称した。

3 調査の経過

今回報告するものの調査経過について、年度毎に説明する。

平成16年度：下郷遺跡第3・4次調査

幡羅遺跡南西部の状況を確認する目的で設定した。確認された主な遺構は、第3次調査区で堅穴建物跡39棟、第4次調査区で堅穴建物跡9棟である。

平成17年度：下郷遺跡第5次調査

個人住宅建設に先立ち、現状保存ができない浄化槽部分について行なった。確認された遺構は、堅穴建物跡2棟、土坑1基である。

平成18年度：幡羅遺跡第20次調査

幡羅遺跡南西部の状況を確認する目的で設定した。

確認された主な遺構は、建物跡3棟、竪穴建物跡17棟、溝2条、円形周溝遺構1基である。

平成19年度：幡羅遺跡第22・28次調査、

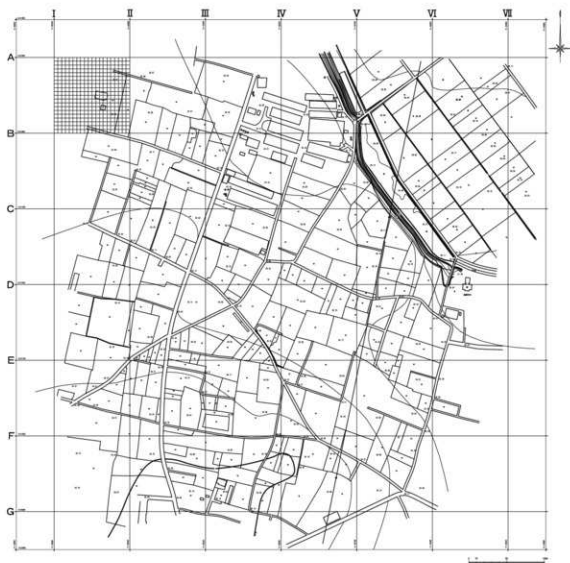
下郷遺跡第9次調査

幡羅遺跡第22・28次調査区は、遺跡南西部の状況を確認する目的で設定した。確認された主な遺構は、第22次調査区が竪穴建物跡3棟、溝1条、第28次調査区が竪穴建物跡12棟である。また、第22次調査では、中世の墓地跡が確認された。

下郷遺跡第9次調査区は、個人住宅及び倉庫建設に先立ち行なった。確認された主な遺構は、竪穴建物跡1棟、土坑1基、溝1条である。

平成22年度：下郷遺跡第13次調査

鉄塔建設に伴う確認調査として行なった。確認された主な遺構は建物跡1棟、竪穴建物跡8棟、特殊土坑1基、溝1条である。なお、鉄塔は無遺構部分に建設されたため、遺構は保存されている。



第1図 グリッド分割図

II 遺跡の環境

1 地理的環境

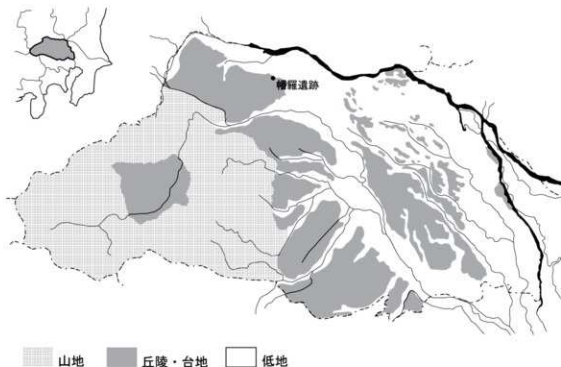
深谷市の地形は、JR高崎線付近を境として、南に櫛挽台地、北に妻沼低地が広がる。櫛挽台地は、荒川によって作られた古い扇状地が浸食されてできた沖積台地で、寄居付近を頂部としている。妻沼低地は、利根川の自然堤防及び沖積低地であり、加須低地と並び利根川の中流低地の一つに数えられる。

櫛挽台地は、構造的には北西側の武蔵野面に比定される櫛挽面（櫛挽段丘）と南東側の立川面に比定される寄居面（御稔ヶヶ原段丘）とで段丘状に形成されている。櫛挽面はほぼJR高崎線沿いの崖線で比高差5～10mをもって妻沼低地と接しているが、寄居面は高崎線より北へ1.5～1.8km程延びていて、比高差2～5mをもって妻沼低地と接している。接線付近での標高は、櫛挽面が40～50m、寄居面が32～36m、妻沼低地が30～31mである。櫛挽面は標高70m付近より発する上唐沢川、押切川、戸田川、唐沢

川等が北流していて、櫛挽面北端部は南北に台地を開析する浅い谷が発達したものと考えられる。末端には所謂先端湧水と認められる池等もある。寄居面にはこうした谷筋はほとんど認められず、妻沼低地と接する台地末端部を除き、水利上は生活に不向きだったと考えられる。

妻沼低地は、利根川右岸に広がる肥沃な低地である。南は熊谷市付近を境として秩父山塊に連なる丘陵や台地と大宮台地に挟まれた荒川低地に続き、東は加須低地に接する。妻沼低地は、現在ではほとんど平坦であるが、利根川の氾濫や流路の変遷等により、自然堤防が発達しているものと考えられる。

幡羅遺跡は、櫛挽台地の先端に位置する。周辺一帯は畑地であり、遺跡の保存状況は非常に良好である。北側の低地部分は、崖の切り崩しや埋め立てを伴う耕地整理が行なわれているが、台地上は土地の改変は無く、明治時代初期の地籍図とほとんど変わらない（第4図参照）。北西の西別府祭祀遺跡には、昭和40年代



第2図 埼玉県地形図

頃まで湧水が豊富にあったが、台地上に工業団地が建設されると、湧水が枯涸したようである。

2 歴史的環境

幡羅遺跡周辺には、数多くの遺跡が存在する。ここでは、郡家成立前の古墳時代後期から平安時代にかけて概観する（第3図）。

遺跡のほとんどは、低地から台地の縁辺部にかけて分布する。古墳時代後期には、低地域に集落、台地縁辺に古墳が築かれる場合が多い。6世紀代の集落は、上敷免遺跡周辺や城北遺跡周辺、一本木前遺跡等で爆発的に増加する。7世紀になると、それらの集落は規模を縮小させるものが多く、城北遺跡は継続しない。新屋敷東遺跡も同様に住居跡の数は減少するものの、7世紀後半或いは8世紀代と推定される大型倉庫跡が確認されており、特筆される。

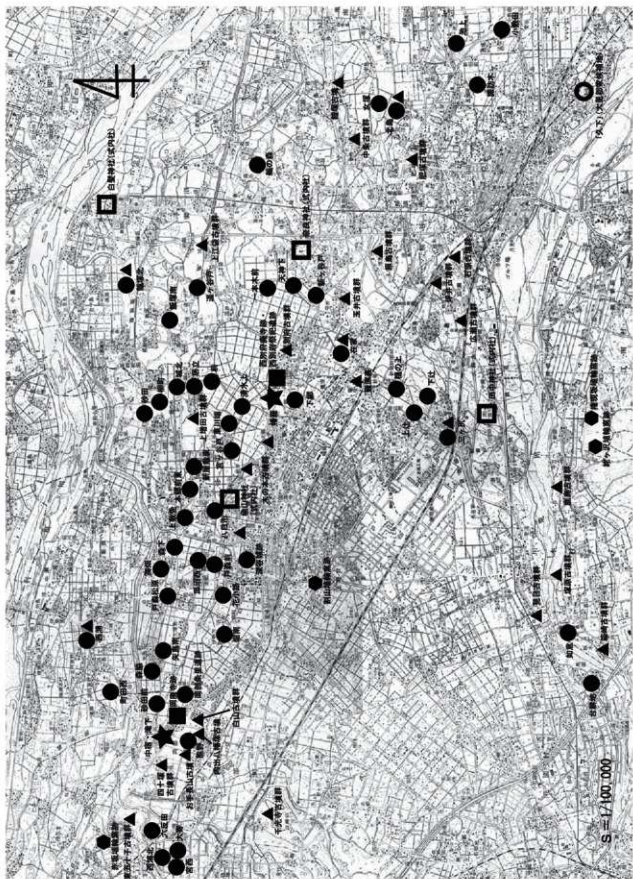
一方、宮ヶ谷戸遺跡、東川端遺跡等、7世紀に入って規模が大きくなる集落も認められる。両遺跡は、幡羅遺跡の成立時期と重なる7世紀後半に入ってから住居数は増加し、関連性が考えられる。西別府祭祀遺跡では、遅くともその頃から、湧水点における祭祀が行なわれるようになる。出土品は石製模造品や墨書土器等で、木製品は今のところ確認されていない。祭祀は11世紀頃まで継続するとされる。また、西別府庵寺跡は8世紀初頭に造営されたと考えられ、基壇建物跡や区画溝、多量の瓦等が出土している。寺院は9世紀後半頃までは確実に機能していたと考えられ、その後は集落化が進む。

次に郡家跡についてみていく。幡羅遺跡は7世紀後半に、それまで墓域であった台地縁辺に出現する。官衙城の南に広がる下郷遺跡は、その周辺に広がる官衙に関連する集落跡で、出現は幡羅遺跡と同時期である。幡羅遺跡が郡家として整備される7世紀末から8世紀になると、住居跡の数が増加する。榛沢郡家跡の熊野・中宿遺跡も同様に7世紀後半、それまでの墓域に出現する。熊野遺跡は初期評家の機能を有していたと考え

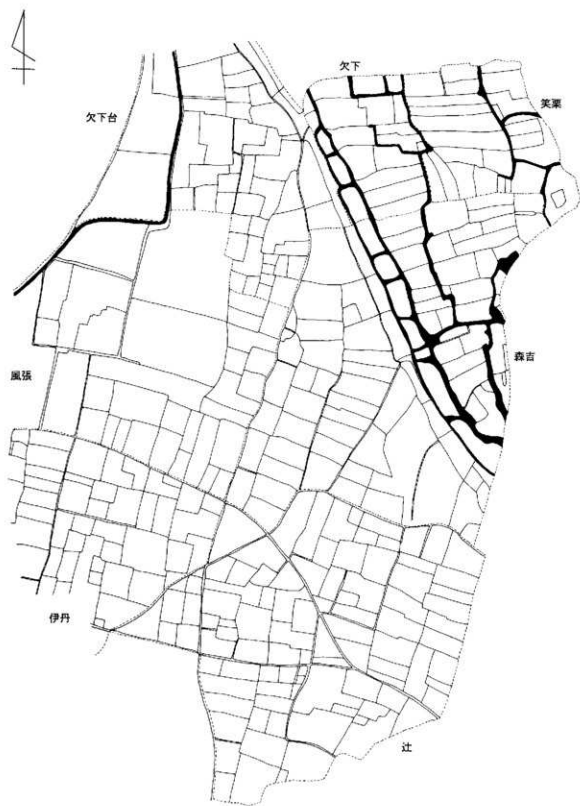
られている。幡羅郡の東の埼玉郡家跡についてはまだ確認されていないが、整然と並ぶ掘立柱建物跡が出土した池上遺跡、出拳木簡が出土した小敷田遺跡、律令期の祭祀跡や9～10世紀の居宅跡が確認された諏訪木遺跡の周辺に想定される。東山道武蔵路のルートは、この付近に推定される。これらの遺跡群のやや北西に位置する大集落である北島遺跡からは、東山道武蔵路から分岐するとみられる道路跡が確認されている。また、幡羅遺跡と熊野遺跡からも道路跡が確認されており、これらを結ぶルートは伝路であった可能性がある。このルートが旧中山道と一部重なっている点は注目すべきであろう。

9世紀以降になると、集落は分散化する傾向があり、小規模な集落が数多く認められる。台地縁辺部に深谷城跡、花小路遺跡、堀南遺跡等の集落が進出するものこの頃である。深谷城跡からは掘立柱建物跡や多量の土器が出土し、灰軸陶器も含まれる。花小路遺跡は、庇を持つ建物跡や、柱掘方の規模が大きい掘立柱建物跡が確認されている。また、飯塚北遺跡、北島遺跡、諏訪木遺跡等で、方一町程度の方形区画施設がみられるようになる。幡羅遺跡においても、ほぼ同規模の方形区画施設が9世紀後半頃出現する。内部の建物跡が未確認のため、施設の性格は不明だが、それらの遺跡との関係から館的な性格の可能性が考えられる。

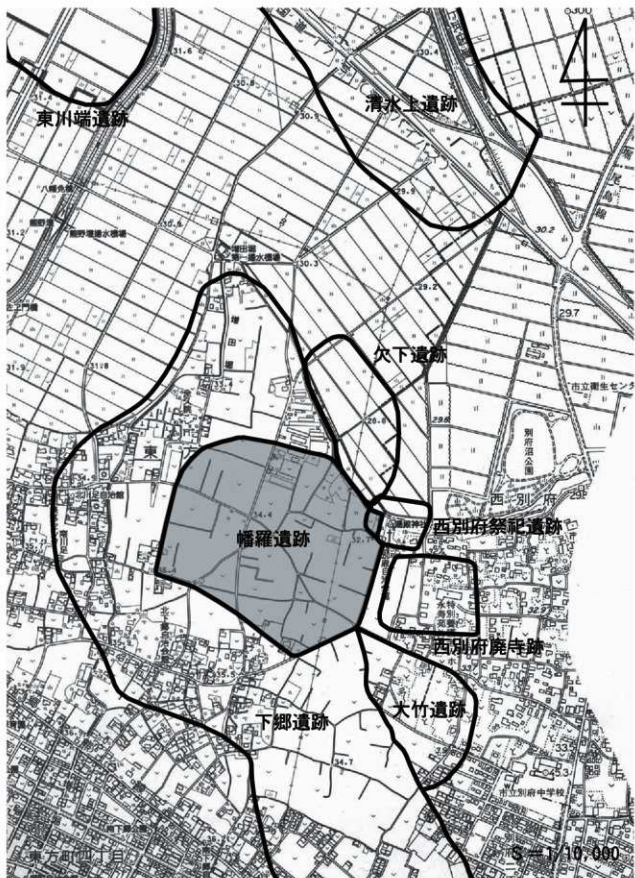
後期古墳は、東は別府古墳群から西は楡山神社付近まで、幾つかのまとまりをもちながら分布している。この地域の古墳群においては、現在のところ、前方後円墳等傑出した古墳は確認されていない。終末期古墳については、幡羅遺跡の南方約2kmにある籠原裏遺跡で、径20m未満の円墳群が確認されている。ここからは、鉄製靱灰金具、銅製双脚金物等が出土しており、古墳群中の幾つかは、八角形墳とする見解もある。また、同じく南東約5kmにある広瀬古墳群中には、上円下方墳といわれる宮塚古墳（径約24m）がある。一方、榛沢郡家跡の熊野・中宿遺跡周辺では、6世紀後半から7世紀にかけての首長墓とみられる4基の古墳があり、その変遷が推定されている。



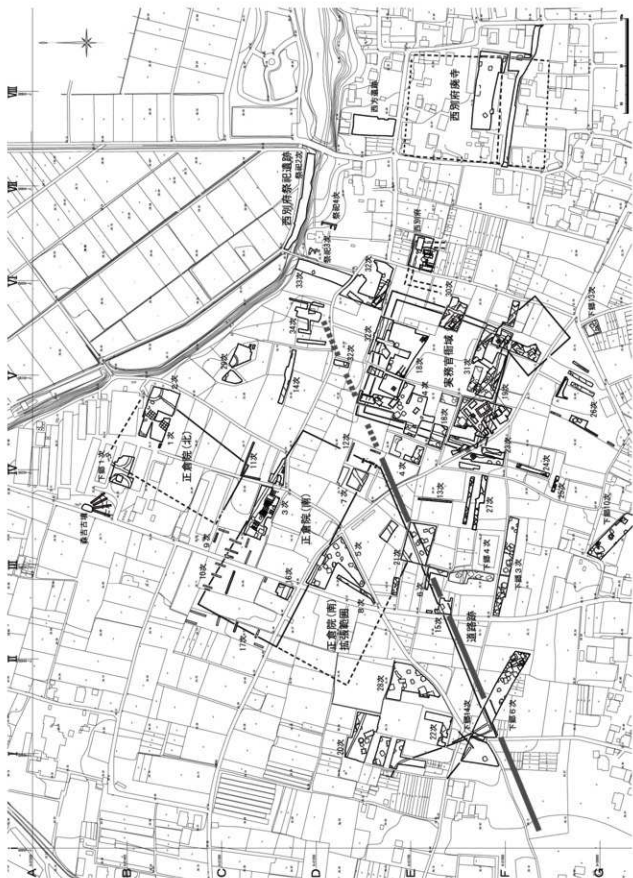
第3図 幡羅遺跡周辺の遺跡（古墳時代後期～平安時代）



第4図 幡羅遺跡周辺の地籍図（明治時代の地籍図をもとに作成）



第5図 幡羅遺跡の範囲と周辺遺跡



第6图 奈良大佛殿遺跡圖

Ⅲ 幡羅遺跡（遺跡南西部の調査）

1 第20次調査区

a 概要

第20次調査区は、郡庁或いは実務的な官衙施設を確認する目的で、遺跡南西部の i-D-140～I-D-364グリッドに設けた。確認された古代の主な遺構は、掘立柱建物跡3棟、竪穴建物跡17棟、溝2条、円形周溝遺構1基等である。

調査区周辺の標高は約34.7mで、確認面までの深さは約40～50cmを測る。A区西部の地山は、硬いブロック状のロームを多く含む。

b 縄文土器

調査区内から出土した縄文土器は、第14図1～7である。1～3は中期後半のものである。1は緩波状口縁である。やや先端のとがった八字文が描かれる。縄文はR Lが施される。2は無文帯とL Rの縄文帯が交互に垂下する。3はR Lの縄文が施された胴部下半である。4～7は後期後半のものと思われる。4～7は口縁部資料である。4は口唇部が肥厚し、幅広の竹管状工具による結節沈線が横位に巡る。その下に縦位の櫛描文と、竹管状工具による弱い刻みが連続して施される。5は強く外反する。口唇部にはL Rの縄文が施され、頸部は無文である。6は口唇部にR Lの縄文が施される。7は胴部屈曲部で、屈曲部に竹管状工具による結節沈線が巡る。胴部は、沈線による弧状の文様内にR Lの縄文が充填される。

c 建物跡

第59号建物跡（第8・14図、第2表）

A区中央部に位置する。側柱式掘立柱建物跡で、桁行4間（10.4m）×梁行2間（4.8m）、柱間は桁行が

北から2.7m-2.4m-2.6m-2.7m、梁行が西から2.25m-2.55mを測る。主軸方位はN-22°-Wである。

柱の掘方は、一辺70～100cmの隅丸方形を基本とする。P4は西側が斜めに立ち上がり、確認面からの深さは50cmを測る。P5は壁がほぼ垂直に立ち上がり、確認面からの深さは40cmを測る。埋土は、ロームを少し含む黒土である。P1・8・10・11は、ロームをやや多く含む。柱は柱痕跡を残し、柱の直径は20～25cmと推定される。

図示できた遺物は、第14図8の須恵器坏である。内面に朱墨痕が認められる。P4から出土した。

遺構の時期は、8世紀と推定される。

第60号建物跡（第9・14図、第2表）

A区南西部に位置する。側柱式掘立柱建物跡で、桁行2間（4.5m）×梁行2間（4.4m）、柱間は桁行が2.25m、梁行が2.2mを測る。主軸方位はN-9°-Wである。

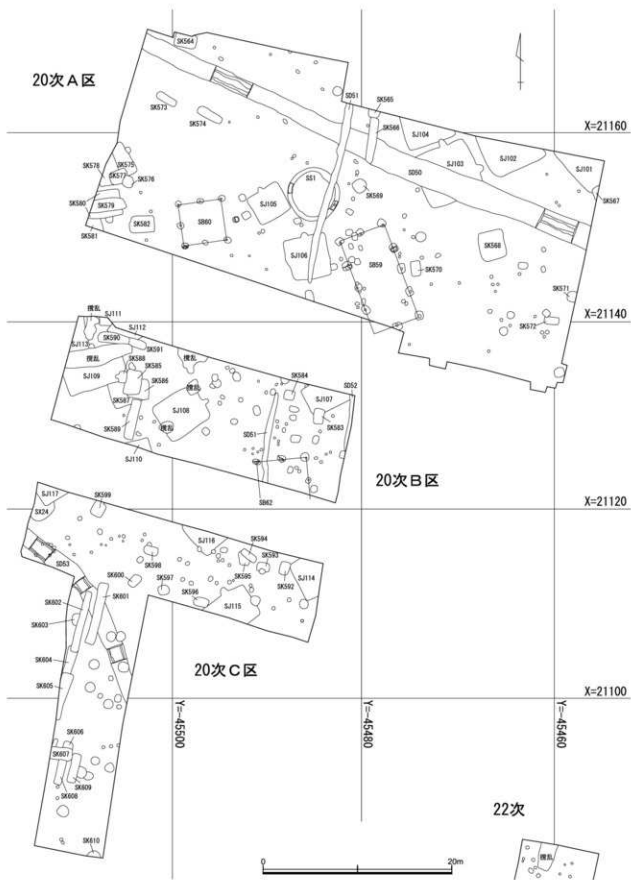
柱の掘方は、一辺50～70cmの隅丸方形を基本とするが、円形に近いものもある。P5は柱筋から大きく逸れ、確認面からの深さは20cmと浅い。柱痕跡は認められなかった。P6は確認面からの深さ35cmを測る。埋土は、ロームを少し含む黒土である。柱はP5・7を除いて柱痕跡を残し、柱の直径は約20cmと推定される。

図示できた遺物は、第14図9の土師器坏である。P5から出土した。

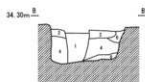
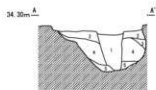
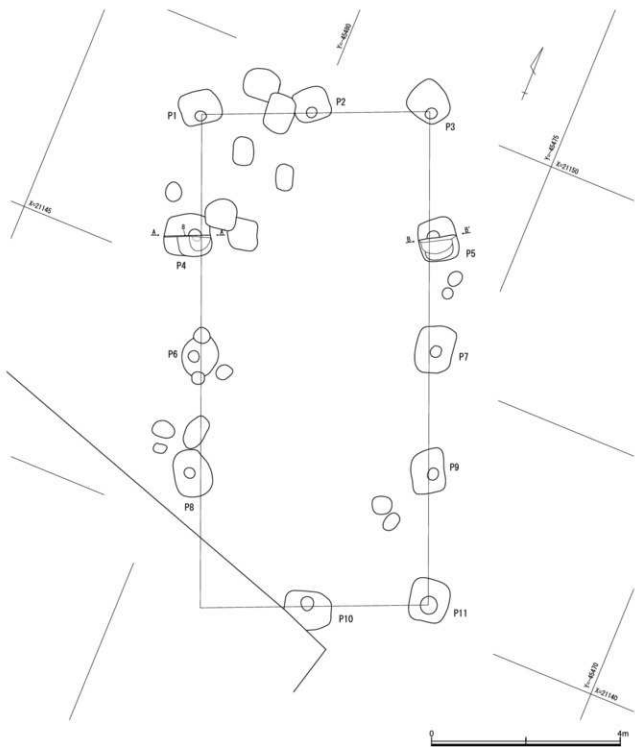
遺構の時期は、9世紀と推定される。

第61号建物跡（第10・14図、第2表）

B区南東部に位置する。側柱式掘立柱建物跡で、桁行2間（5.1m）×梁行2間程度（4.8m程度）、柱間は桁行が2.55m、梁行が2.4mを測る。主軸方位はN-3°-Wである。



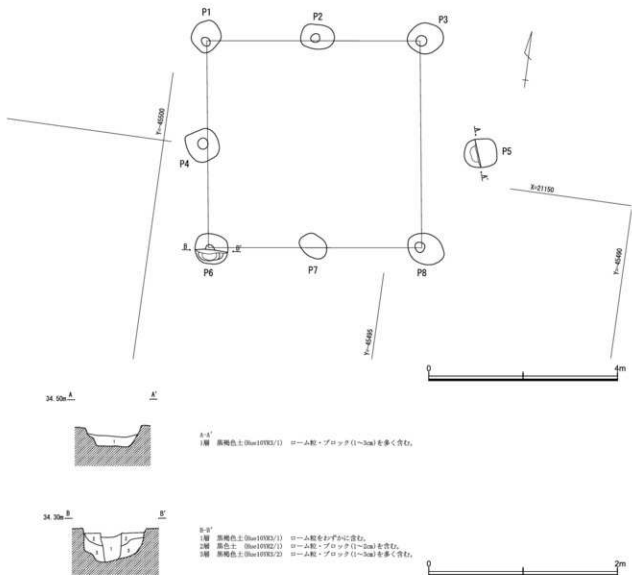
第7図 第20次調査区全体測量図



- 1層 黒褐色土 (0ka10193/2) ローム殻をわずかに含む。しまり強い。
- 2層 黒褐色土 (0ka10193/1) ローム殻を含む。
- 3層 黄褐色土 (0ka10194/2) ローム殻を多く含む。
- 4層 黒色土 (0ka10192/1) ローム殻をわずかに含む。しまり強い。
- 5層 黄褐色土 (0ka10192/3) ローム殻をやや多く含む。
- 6層 明黄褐色土 (0ka10196/0) ロームを主体とし、赤褐色土ブロックを少し含む。



第 8 図 第59号建物跡



第9図 第60号建物跡

柱の掘方は、一辺50～90cmの隅丸方形を基本とするが、円形に近いものが多い。確認面からの深さは、P1が50cm、P2が60cmを測る。埋土は、ローム粒・焼土粒・炭化粒を含む黒色土である。焼土粒を特に多く含む。柱は柱痕跡を残し、柱の直径は約15cmと推定される。

図示できた遺物は、第14図10～12である。10は土師器蓋で、内面が磨かれる。11・12は土師器裏である。10はP2、11はP1、12はP4から出土した。

遺構の時期は、9世紀と推定される。

d 竪穴建物跡

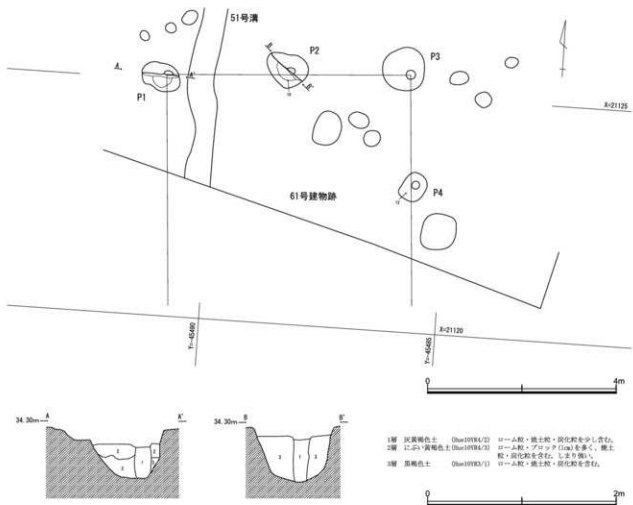
第101号竪穴建物跡 (第7図)

A区北東部に位置し、第567号土坑に切られる。主軸方位はN-42°-Wである。掘り下げはほとんど行なわなかった。

図示できる遺物は出土しなかった。

第102号竪穴建物跡 (第7・14図、第2表)

A区北東部に位置する。平面形態は方形で、一辺約6mを測る。主軸方位はN-23°-Wである。



第10図 第61号建物跡

掘り下げはほとんど行なわなかった。

図示できた遺物は、第14図13・14である。13は土師器甕、14は須恵器甕である。

第103号竪穴建物跡（第7・14図、第2表）

A区北東部に位置し、第104号竪穴建物跡を切り、第50号溝に切られる。平面形態は方形で、一辺約6mを測る。主軸方位は $N-23^{\circ}-W$ である。カマドは北西やや東寄りと北東やや南寄りに構築される。掘り下げはほとんど行なわなかった。

図示できた遺物は、第14図15～21である。15～18は土師器で、15は暗文坏、16～18は北武蔵型坏、19は須恵器蓋、20は須恵器甕、21は土師器甕である。

遺構の時期は、7世紀後半と推定される。

第104号竪穴建物跡（第7図）

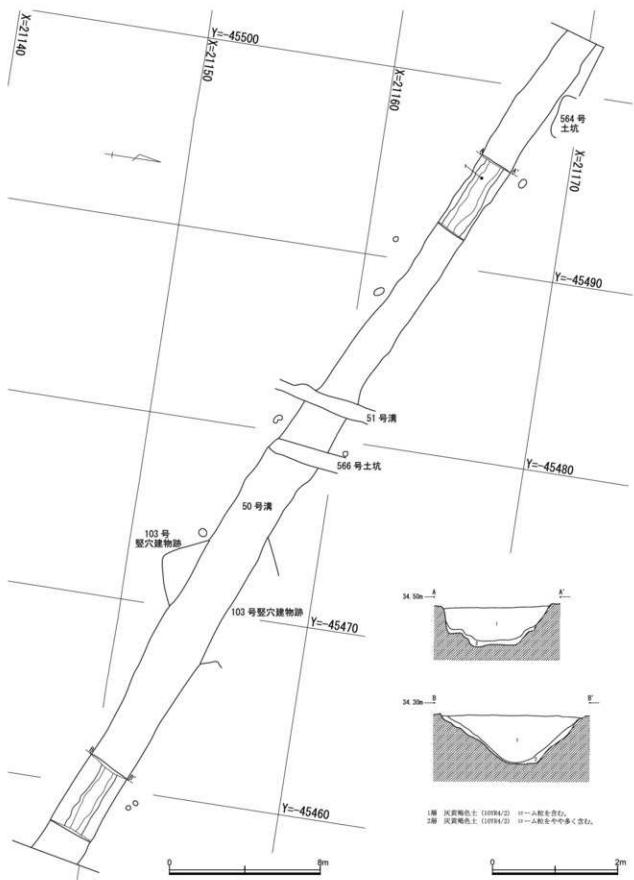
A区北東部に位置し、第103号竪穴建物跡に切られる。平面形態は方形で、一辺約5mを測る。主軸方位は $N-20^{\circ}-W$ である。掘り下げはほとんど行なわなかった。

図示できる遺物は出土しなかった。

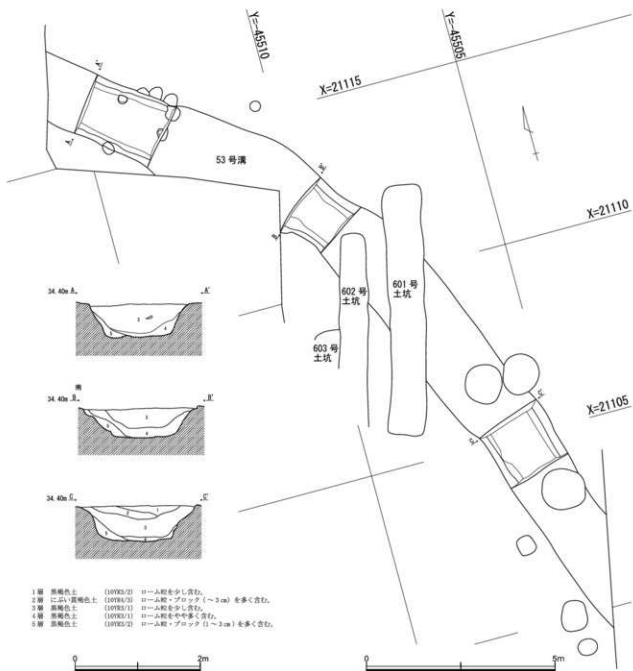
第105号竪穴建物跡（第7・14図、第2表）

A区中央部に位置する。平面形態は方形で、一辺約3.5mを測る。主軸方位は $N-27^{\circ}-W$ である。カマドは北西壁ほぼ中央に構築される。掘り下げはほとんど行なわなかった。

図示できた遺物は、第14図22～24である。22は土師器模倣坏、23は土師器甕、24は須恵器甕である。



第11図 第50号溝



第12図 第53号溝

遺構の時期は、7世紀後半と推定される。

図示できる遺物は出土しなかった。

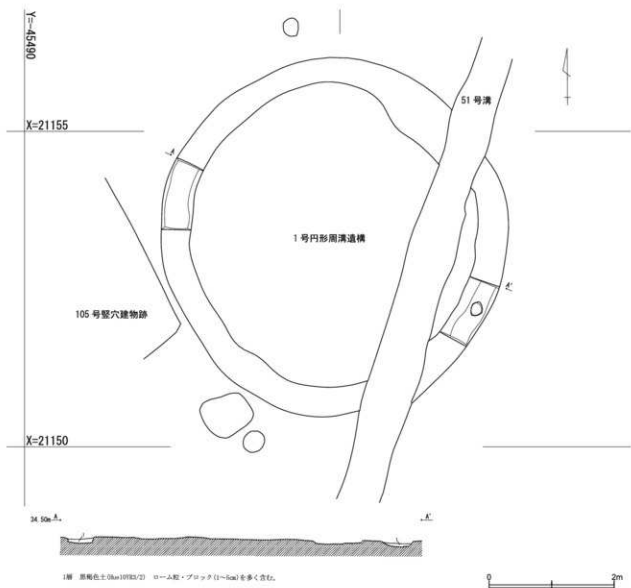
第106号竪穴建物跡 (第7図)

A区中央部に位置し、第51号溝に切られる。平面形態は方形で、長軸約4.5m、短軸約4mを測る。カマドは北壁ほぼ中央に構築される。主軸方位はN-12°-Wである。掘り下げはほとんど行なわなかった。

第107号竪穴建物跡 (第7図)

B区北東部に位置し、第52号溝、第583号土坑に切られる。平面形態は方形で、一辺約3mを測る。主軸方位はN-25°-Wである。掘り下げはほとんど行なわなかった。

図示できる遺物は出土しなかった。



第13図 第1号円形周溝遺構

第108号竪穴建物跡 (第7・14図、第2表)

B区中央部に位置する。平面形態は方形で、長軸約5m、短軸約4mを測る。カマドは北東壁ほぼ中央に構築される。主軸方位はN-58° - Eである。掘り下げはほとんど行なわなかった。

図示できた遺物は、第14図25の須恵器椀である。

第109号竪穴建物跡 (第7図)

B区西部に位置し、第113号竪穴建物跡を切り、第587・588号土坑に切られる。平面形態は方形で、長軸約6.5m、短軸約3.5mを測る。カマドは北壁ほぼ中央

に構築される。攪乱を受けていたが、先端部のみ確認された。主軸方位はN-20° - Wである。掘り下げはほとんど行なわなかった。

図示できる遺物は出土しなかった。

第110号竪穴建物跡 (第7図)

B区南部に位置する。平面形態は方形で、主軸方位はN-16° - Wである。掘り下げはほとんど行なわなかった。

図示できる遺物は出土しなかった。

第111号竪穴建物跡 (第7・15図、第2表)

B区北西部に位置し、第112号竪穴建物跡に切られる。平面形態は方形で、主軸方位はほぼ真北である。掘り下げはほとんど行なわなかった。

図示できた遺物は、第15図1の土師器暗文皿である。遺構の時期は、7世紀後半～末頃と推定される。

第112号竪穴建物跡 (第7・15図、第2表)

B区北西部に位置し、第111号竪穴建物跡を切り、第590・591号土坑に切られる。平面形態は方形で、一辺約3mを測る。主軸方位は $N-35^{\circ}-W$ である。掘り下げはほとんど行なわなかった。

図示できた遺物は、第15図2～6である。全て土師器で、2は模倣杯、3～5は甕、6は台付甕である。

遺構の時期は、7世紀後半と推定される。

第113号竪穴建物跡 (第7図)

B区北西部に位置し、第109号竪穴建物跡に切られる。主軸方位は $N-7^{\circ}-W$ である。掘り下げはほとんど行なわなかった。

図示できる遺物は出土しなかった。

第114号竪穴建物跡 (第7・15図、第2表)

C区北東部に位置し、第592号土坑に切られる。平面形態は方形で、一辺約4.5mを測る。主軸方位は $N-25^{\circ}-W$ である。掘り下げはほとんど行なわなかった。

図示できた遺物は、第15図7～12である。7～10は土師器杯で、7は暗文を有する。11・12は須恵器蓋である。

遺構の時期は、7世紀末頃と推定される。

第115号竪穴建物跡 (第7・15図、第2表)

C区北東部に位置し、第596号土坑に切られる。平面形態は方形で、一辺約4mを測る。カマドは北西壁や北寄り構築される。主軸方位は $N-29^{\circ}-W$ である。掘り下げはほとんど行なわなかった。

図示できた遺物は、第15図13～18である。全て土師器で、13は杯、14は高台付きの暗文杯、15は内面に磨かれた杯、16は内面に線刻がされた杯、17は甕、18は台付甕である。

遺構の時期は、7世紀後半～末頃と推定される。

第116号竪穴建物跡 (第7・15図、第2表)

C区北部に位置する。平面形態は方形で、主軸方位は $N-43^{\circ}-W$ である。掘り下げはほとんど行なわなかった。

図示できた遺物は、第15図19の土師器暗文杯である。

第117号竪穴建物跡 (第7・15図、第2表)

C区北西部に位置し、第24号特殊土坑を切る。平面形態は方形で、主軸方位は $N-30^{\circ}-W$ である。掘り下げはほとんど行なわなかった。

図示できた遺物は、第15図20の土師器有段口縁杯である。遺構の時期は、7世紀後半と推定される。

e 溝

第50号溝 (第11・16図、第3表)

A区北部を横断し、第103号竪穴建物跡を切り、第51号溝、第566号土坑に切られる。西に向かって幅狭となり、幅は1.6～3mを測る。主軸方位は $N-68^{\circ}-W$ である。一部掘り下げたところ、断面形態はV字状に近い部分と、片側に段を持つ逆台形に近い部分がある。確認面からの深さは60～80cmを測る。

図示できた遺物は、第16図1～8である。1～5は須恵器で、1は蓋、2～4は杯、5は甕である。6・7はロクロ土師器杯、8は刀子である。

遺構の時期は、10世紀と推定される。

第53号溝 (第12・16図、第3表)

C区中央部に位置し、第601・602号土坑に切られる。幡羅遺跡第22次調査、下郷遺跡第6・14次調査で確認された溝と同一のもので、幅は1.5～2mを測る。主

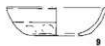
編文土器



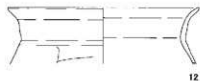
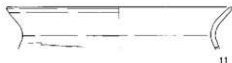
第59号建物跡



第60号建物跡



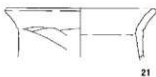
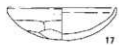
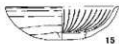
第61号建物跡



第102号竪穴建物跡



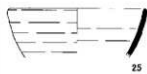
第103号竪穴建物跡



第105号竪穴建物跡



第108号竪穴建物跡

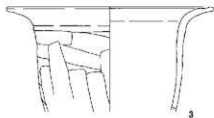


第14図 第20次調査区出土遺物(1)

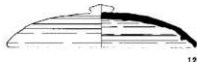
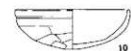
第 111 号竪穴建物跡



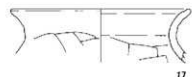
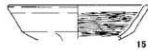
第 112 号竪穴建物跡



第 114 号竪穴建物跡



第 115 号竪穴建物跡



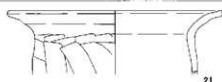
第 116 号竪穴建物跡



第 117 号竪穴建物跡



第 564 号土坑

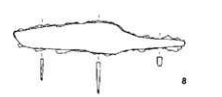
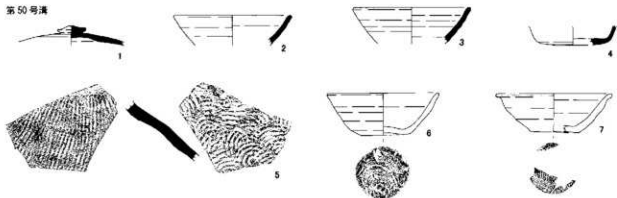


第 15 図 第 20 次調査区出土遺物 (2)

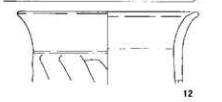
軸方位は $N-22^{\circ}-W$ であるが、北部でやや西に曲がる。北部の主軸方位は $N-53^{\circ}-W$ である。一部掘り下げたところ、断面形態は逆台形で、確認面からの深さは $50 \sim 60\text{cm}$ を測る。

図示できた遺物は、第 16 図 9～12 である。9 は土師器環、10 は須恵器環、11 は須恵器高台環、12 は土師器甕である。10 は底面に「×」の線刻が認められる。遺構の時期は、8 世紀と推定される。

第50号溝



第53号溝



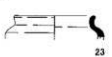
A区一括



B区一括



C区一括



第16図 第20次調査区出土遺物(3)

番号	遺構	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	備考	
14図	1	縄文土器	深鉢				A B C E	良	灰褐			
	2	縄文土器	深鉢				A C E H	普	黒褐			
	3	縄文土器	深鉢				A B C E H	普	橙			
	4	縄文土器	深鉢				A B C I	良	橙			
	5	縄文土器	深鉢				A B C E I	普	橙			
	6	縄文土器	深鉢				A B C D E H	普	橙			
	7	縄文土器	深鉢				A B C D E H	普	橙			
	8	SB59	S	坏	12.7			A C G	普	灰	30%	内面に朱墨痕
	9	SB60	H	坏	(10.4)	(3.0)		A C B I	普	にぶい橙	15%	
	10	SB61	H	蓋	(15.0)			A B C E	良	橙	15%	
	11		H	甕	(23.8)			A B C E H	普	にぶい赤褐		
	12		H	甕	(20.3)			A B C E	普	赤褐		
	13	SJ102	H	甕	(15.5)			A C E H	普	橙		
	14		S	甕				A C F H	良	青灰		
	15	SJ103	H	坏	(11.8)	(3.0)		A B C E H	普	橙	25%	
	16		H	坏	(10.0)			A B C E H	普	橙	15%	
	17		H	坏	11.5	3.5		A C E H	普	にぶい橙	95%	
	18		H	坏	(13.0)	(3.0)		A B C D E I	普	橙	25%	
	19		S	蓋	(17.8)			A C D F H	不良	灰	10%	
	20		S	甕				A C H	良	黒褐		
	21		H	甕	(15.5)			A C E H	普	にぶい橙		
	22	SJ105	H	坏	(12.0)			A C E H	良	橙	25%	
	23		H	甕	(20.8)			A B C E H I	普	橙		
	24		S	甕				A C G H	良	青灰		
	25	SJ108	S	椀	(14.4)			A C F H	普	青灰	10%	
15図	1	SJ111	H	皿	(21.2)	2.7		A B C E	普	橙	25%	
	2	SJ112	H	坏	(8.0)	(3.0)		A B C D E H	普	橙	15%	
	3		H	甕	(21.8)			A B C E H	普	橙	15%	
	4		H	甕	(22.0)			A B C E H	普	にぶい橙	10%	
	5		H	甕	(21.0)			A B C E H	普	橙	5%	
	6		H	台付甕			(14.5)	A B C E H	普	灰褐		
	7		SJ114	H	坏	(11.0)	(3.1)		A C E	良	橙	15%
	8	H		坏	(12.0)			A B C E I	普	橙	15%	
	9	H		坏	(13.2)	3.1		A C E	普	にぶい橙	55%	
	10	H		坏	11.9	4.2		A B C D E H	普	橙	55%	
	11	S		蓋	(15.8)			A C G	良	灰	15%	
	12	S	蓋	19.8	(4.6)		A C D F H	普	灰褐	90%		
	13	SJ115	H	坏	(11.9)		(10.0)	A B C E	普	橙	10%	
	14		H	高台坏				A B C E	良	橙	5%	
	15		H	坏	(14.7)			A C E	良	橙	15%	
	16		H	坏				A C E	普	橙		内面に稜刻
	17		H	甕	(18.8)			A B C E H	普	にぶい橙		
	18		H	台付甕			(9.1)	A B C E H	普	黒褐		
	19	SJ116	H	坏	(15.2)			A B C E	普	にぶい橙	15%	
	20	SJ117	H	坏	(11.7)			A C E	普	黒	20%	
	21	SK564	H	甕	(22.3)			A B C E H	普	橙	10%	

第2表 第20次調査区出土遺物観察表(1)

番号	遺構	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	備考	
16図 1	SD50	S	蓋				ACFH	不良	灰	20%		
2		S	坏	(12.3)			ACGH	普	灰	20%		
3		S	坏	(12.3)			ACGH	普	灰	20%		
4		S	坏				ACH	普	灰	15%		
5		S	費				ACDFH	良	青灰			
6		R	坏	11.7	4.5	5.0	ACEH	不良	灰褐	90%		
7		R	坏	(12.0)	4.0	(5.0)	ABCEH	普	にぶい橙	50%		
8				刀子	長 18.2	幅 3.4	厚 0.4					重さ 43.88g
9		SD53	H	坏	(12.4)			ACEH	普	にぶい橙		20%
10	S		坏			(7.3)	ACG	普	灰	15%		
11	S		高台坏			(6.7)	ACG	普	灰	15%		
12	H		費	(18.8)			ABCEH	普	橙	5%		
13	A区一括	H	坏	(12.0)			ACE	普	黒褐	20%		
14		H	坏	(14.0)			ACE	普	にぶい赤褐	20%		
15		H	費	23.3			ABCEH	普	橙			
16		H	甔			(9.2)	ABCE	普	にぶい橙			
17	B区一括	H	高台坏			(9.3)	ABCE	良	橙	15%		
18		S	坏			(7.4)	ACFH	良	青灰	15%		
19		S	坏				ACGH	普	灰	15%		
20		S	蓋	(19.7)			ACGH	良	青灰	5%		
21		S	費				ACFH	良	青灰			
22		S	費				ACFH	良	青灰			
23	C区一括	S	壺	(8.5)			AC	良	黒褐	5%	口縁付近に自然釉	
24		S	費				ACDH	不良	灰			
25		S	費				ACH	普	灰			

第3表 第20次調査区出土遺物観察表 (2)

f 円形周溝遺構

第1号円形周溝遺構 (第13図)

A区中央部に位置し、第51号溝に切られる。直径約5mの円形に溝が巡る。一部掘り下げたところ、溝の幅は50～80cm、確認面からの深さは10cmを測る。溝の底面に、底面からの深さ10cm程の浅いピットが確認された。

図示できる遺物は出土しなかった。

168グリッドに設けた。確認された古代の主な遺構は、竪穴建物跡3棟、溝1条等である。遺構や遺物の多くは中世のもので、遺構確認面及びその上層には、骨片や五輪塔等が集中している箇所が、特に調査区南西部でみられた。中世の墓地であったと考えられる。

調査区周辺の標高は約34.9mで、確認面までの深さは約50cmを測る。

b 竪穴建物跡

第132号竪穴建物跡 (第17図)

調査区西部に位置し、第631号土坑に切られる。平面形態は方形で、一辺6mを測る。主軸方位はN-25°-Wである。掘り下げはほとんど行なわなかった。

図示できる遺物は出土しなかった。

2 第22次調査区

a 概要

第22次調査区は、郡庁或いは実務的な官衙施設を確認する目的で、遺跡南西部のE-I-68～E-I-



第17図 第22次調査区全体測量図

第133号竪穴建物跡 (第17・19図、第4表)

調査区中央部に位置し、第638～641号土坑に切られる。平面形態は方形で、長軸5.3m、短軸5mを測る。主軸方位は $N-36^{\circ}-W$ である。掘り下げはほとんど行なわかった。

図示できた遺物は、第19図1～3である。1は土師器坏、2は土師器皿、3は須恵器甕である。

第134号竪穴建物跡 (第17・19図、第4表)

調査区南東部に位置し、第643号土坑に切られる。平面形態は方形で、主軸方位は $N-36^{\circ}-W$ である。掘り下げはほとんど行なわなかった。

図示できた遺物は、第19図4～6である。4・5は

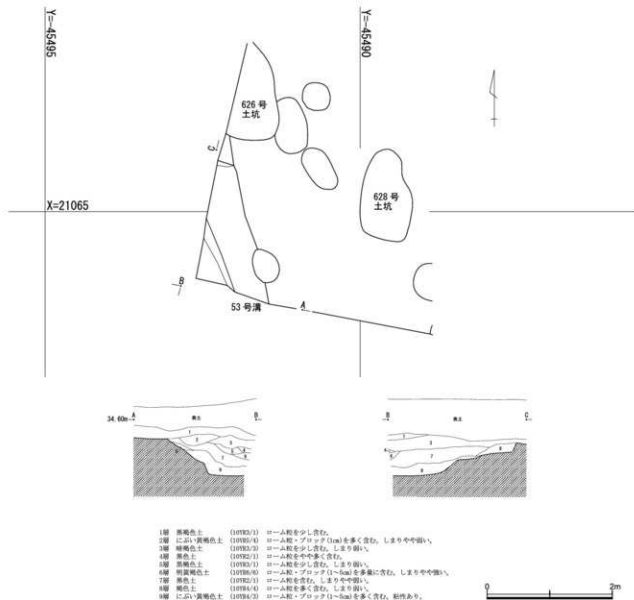
土師器で、4は坏、5は暗文坏、6は須恵器蓋である。

c 溝

第53号溝 (第18・19図、第4表)

調査区南西隅で確認された。幡羅遺跡第20次調査、下郷遺跡第6・14次調査で確認された溝と同一のものである。主軸方位は $N-22^{\circ}-W$ である。一部掘り下げたところ、断面形態は逆台形で、確認面からの深さは60cmを測る。

図示できた遺物は、第19図7の須恵器長頸瓶である。遺構の時期は、8世紀と推定される。



第18図 第53号溝

3 第28次調査区

a 概要

第28次調査区は、郡庁或いは実務的な官衙施設を確認する目的で、遺跡南西部のD-I-312~E-I-115グリッドに設けた。確認された古代の主な遺構は、竪穴建物跡12棟等である。4基の特殊土坑は、古代のもの可能性があるが、詳細は不明である。

調査区周辺の標高は約34.9mで、確認面までの深さは約50cmを測る。

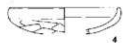
b 縄文土器

図示できた遺物は第22図1、2である。いずれも後期初頭のもので、1は称名寺1式、2は称名寺2式である。1は口縁部資料で、充填される縄文はLRである。2は列点が施される。

第133号壺穴建物跡



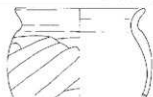
第134号壺穴建物跡



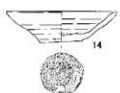
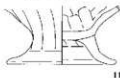
第53号溝



第644号土坑



調査区一括

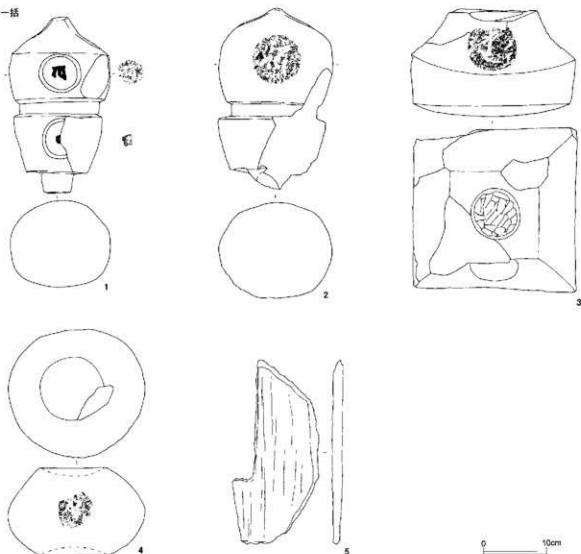


第19図 第22次調査区出土遺物(1)

番号	遺構	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	備考
19回 1	SJ133	H	坏	11.8	3.8		A B C E H	普	橙	80%	
2		H	皿	(15.7)	(3.8)		A C E H I	普	橙	20%	
3		S	蓋				A C F H	普	灰		
4	SJ134	H	坏	(11.7)			A B C E	普	橙	20%	
5		H	坏	(14.0)			A B C E	普	橙	15%	
6		S	蓋				A C F H	普	灰	25%	
7	SD53	S	長頸瓶				A C	良	灰		外面に自然釉
8	SK644	H	甕	(12.7)			A C E H	普	にぶい橙		
9		H	甕	(13.6)			A C E H	普	橙	20%	
10	調査区一括	H	皿	(20.0)	(3.3)		A C E	良	暗褐	20%	
11		H	台付甕			11.1	A C E	普	橙	20%	
12			カワラケ	(6.4)	2.0	4.0	A C E	普	橙	50%	口縁付近に油釉
13			カワラケ	9.8	3.3	4.8	A B C E	普	橙	60%	
14			カワラケ	11.5	3.2	4.5	A B C E H	良	赤褐	100%	
20回 1	調査区一括		五輪塔	長 28.2	幅 16.0	厚 13.8	石材：安山岩				
2			五輪塔	長 29.0	幅 18.2	厚 15.4	石材：安山岩				
3			五輪塔	長 25.7	幅 26.4	厚 17.0	石材：安山岩				
4			五輪塔	長 20.7	幅 22.0	厚 14.0	石材：安山岩				
5			板碑の台			厚 1.8	石材：緑泥片岩				

第4表 第22次調査区出土遺物観察表

調査区一括



第20図 第22次調査区出土遺物(2)

c 竪穴建物跡

第158号竪穴建物跡(第21・22図、第5表)

調査区東部に位置する。平面形態は方形で、一辺3.5mを測る。カマドは北壁ほぼ中央に構築され、東壁に約20cmの張り出し部が確認された。主軸方位はN-6°-Wである。掘り下げはほとんど行なわなかった。

図示できた遺物は、第22図3の土師器皿である。

第159号竪穴建物跡(第21・22図、第5表)

調査区中央部に位置する。平面形態は方形で、長軸4.5m、短軸3mを測る。カマドは北壁ほぼ中央に構

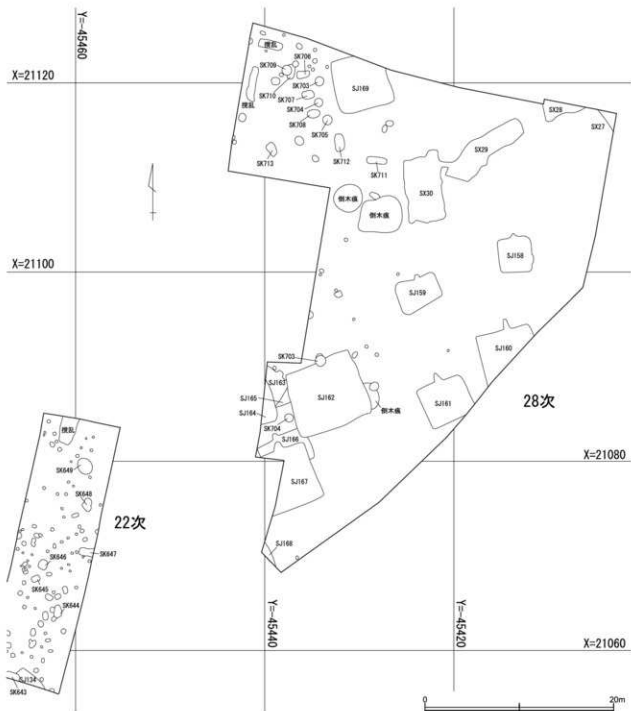
築される。主軸方位はN-20°-Wである。掘り下げはほとんど行なわなかった。

図示できた遺物は、第22図4・5の土師器坏である。

第160号竪穴建物跡(第21・22図、第5表)

調査区南東部に位置する。平面形態は方形で、一辺6mを測る。カマドは北壁ほぼ中央に構築される。主軸方位はN-15°-Wである。掘り下げはほとんど行なわなかった。

図示できた遺物は、第22図6~11である。6~9は土師器で、6は坏、7は暗文坏、8は台付甕、9は甕である。10は土製紡錘車、11は鉄釘である。



第21図 第28次調査区全体測量図

遺構の時期は、7世紀末頃と推定される。

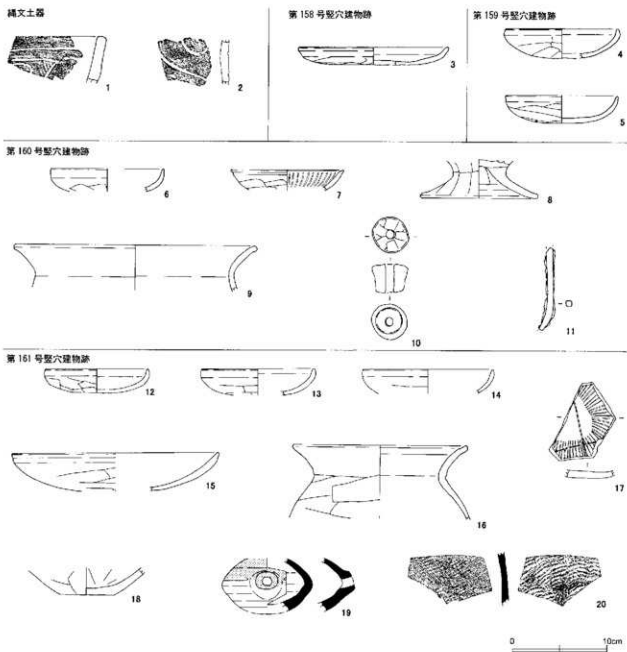
第161号竪穴建物跡 (第21・22図、第5表)

調査区南東部に位置する。平面形態は方形で、長軸5m、短軸4.5mを測る。カマドは北壁ほぼ中央に構築される。主軸方位はN-23°-Wである。掘り下げ

はほとんど行なわかった。

図示できた遺物は、第22図12～20である。12～18は土師器で、12～14は北武蔵型坏、15は皿、17は暗文坏、16・18は甕である。17は内面に「×」の線刻が認められる。19は須恵器甕、20は須恵器甕である。

遺構の時期は、7世紀末頃と推定される。



第22図 第28次調査区出土遺物 (1)

第162号竪穴建物跡 (第21・23・24図、第6・7表)

調査区南西部に位置し、第163・165・166号竪穴建物跡を切り、第703号土坑に切られる。平面形態は方形で、長軸7.8m、短軸7mを測る。カマドは北壁ほぼ中央に構築される。主軸方位はN-18°-Wである。掘り下げはほとんど行なわかった。

確認面付近から多量の遺物が出土し、図示できた遺物は、第23図1～37、第24図1～13である。第23図

1～19は土師器で、1～12は北武蔵型杯、13～17は暗文杯、18・19は皿である。20～26は蓋、27～29は杯、30・31は長頸瓶、32・33は甕である。34～37は土師器で、34は鉢、35～37は甕である。第24図1～10は土師器で、1～7は甕、8～10は台付甕である。11は土錘、12・13は鉄滓である。

遺構の時期は、7世紀末頃と推定される。

番号	遺構	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	備考	
22図	1	縄文土器	深鉢				A B C I	良	にぶい橙			
		縄文土器	深鉢				A B C D H I	普	橙			
	3	SJ158	H	皿	(15.8)	1.9		A B C E	普	橙	20%	
	4	SJ159	H	坏	(11.8)	(3.1)		A C E H	普	にぶい橙	25%	
	H		坏	(11.8)	2.9		A B C E	普	橙	30%		
	6	SJ160	H	坏	(11.8)			A C E H	普	橙	20%	
	7		H	坏	(11.8)			A B C H	普	橙	20%	
	8		H	台付甕			(12.2)	A B C E	普	赤褐	10%	
	9		H	甕	(25.4)			A B C E	普	橙		
	10			土製紡錘車	長 3.8	幅 3.8	厚 3.0	A C E	普	暗褐	100%	重さ 35.87g
	11			鉄釘		幅 0.7	厚 0.6					重さ 8.56g
	12		SJ161	H	坏	(10.9)	2.5		A C D I	普	橙	25%
	13	H		坏	(11.8)			A C D E H	普	橙	20%	
	14	H		坏	(13.8)			A C D E	普	橙	10%	
	15	H		皿	(21.8)			A B C E	普	赤褐	20%	
	16	H		甕	(18.2)			A B C E I	普	暗褐	10%	
	17	H		坏				A B C E	良	赤褐	15%	
	18	H		甕			5.5	A B C E	普	にぶい橙	5%	
	19	S		臙				A C	良	灰	20%	
	20	S		甕				A C H	普	灰		

第5表 第28次調査区出土遺物観察表(1)

第163号竪穴建物跡(第21図)

調査区南西部に位置し、第165号竪穴建物跡を切り、第162・164号竪穴建物跡に切られる。平面形態は方形で、カマドは北東壁に構築される。主軸方位はN-31°-Eである。掘り下げはほとんど行なわなかった。

図示できる遺物は出土しなかった。

第164号竪穴建物跡(第21図)

調査区南西部に位置し、第163・165号竪穴建物跡を切る。平面形態は方形で、主軸方位はN-16°-Wである。掘り下げはほとんど行なわなかった。

図示できる遺物は出土しなかった。

第165号竪穴建物跡(第21図)

調査区南西部に位置し、第162～164号竪穴建物跡に切られる。主軸方位はN-16°-Wである。掘り下げはほとんど行なわなかった。

図示できる遺物は出土しなかった。

第166号竪穴建物跡(第21図)

調査区南西部に位置し、第162・167号竪穴建物跡に切られる。平面形態は方形で、長軸5.4m、短軸3.5mを測る。カマドは北西壁に構築される。主軸方位はN-23°-Wである。掘り下げはほとんど行なわなかった。

図示できる遺物は出土しなかった。

第167号竪穴建物跡(第21・24図、第7表)

調査区南西部に位置し、第166号竪穴建物跡を切る。平面形態は方形で、一辺6.2mを測る。カマドは北西壁に構築される。主軸方位はN-20°-Wである。掘り下げはほとんど行なわなかった。

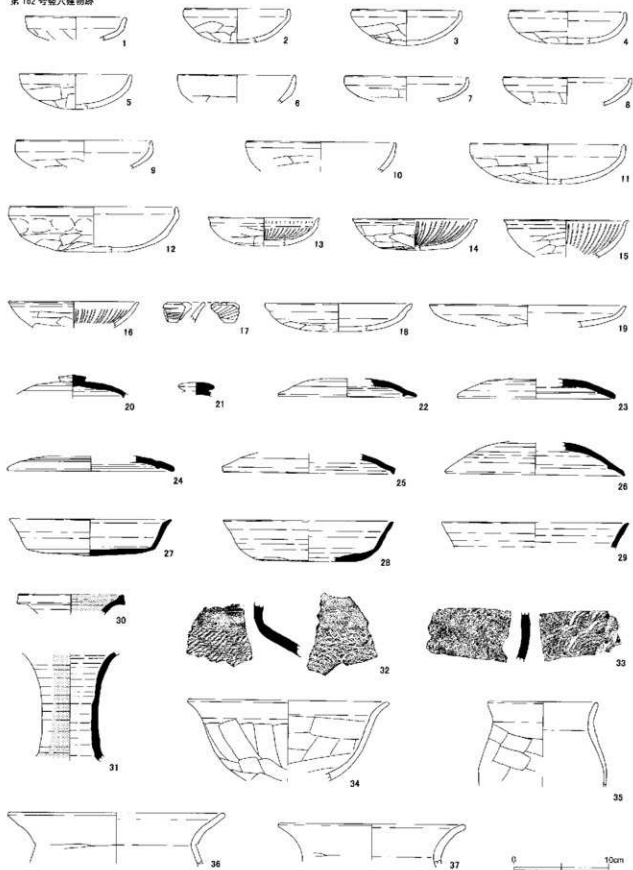
図示できた遺物は、第24図14～17である。全て土器で、14・15は坏、16・17は甕である。

第168号竪穴建物跡(第21図)

調査区南西部に位置し、主軸方位はN-23°-Wである。掘り下げはほとんど行なわなかった。

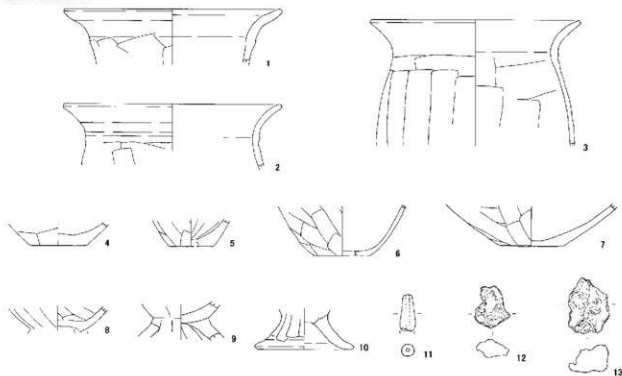
図示できる遺物は出土しなかった。

第162号竖穴墓跡

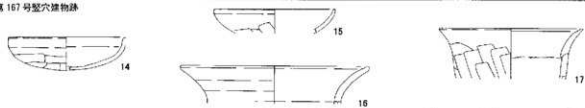


第23図 第28次調査区出土遺物(2)

第 162 号竖穴建物跡



第 167 号竖穴建物跡



第 30 号特殊土坑



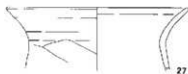
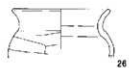
第 706 号土坑



第 712 号土坑



調査区一帯



第24図 第28次調査区出土遺物(3)

番号	遺構	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	備考
23図 1	SJ162	H	坏	(10.0)			ACDE	普	橙	15%	
2		H	坏	(11.0)	(3.6)		ACEH	普	橙	20%	
3		H	坏	(11.4)	3.8		ACEI	普	橙	25%	
4		H	坏	(12.2)	(3.5)		ACE	普	橙	20%	
5		H	坏	(11.8)	(3.7)		ABCE	普	橙	20%	
6		H	坏	(12.4)			ACE	普	橙	15%	
7		H	坏	(13.0)			ACEH	普	橙	20%	
8		H	坏	(13.5)			ACE	普	にぶい橙	20%	
9		H	坏	(14.3)			ABCE	普	橙	15%	
10		H	坏	(15.8)			ACEH	普	橙	10%	
11		H	坏	(16.3)	4.2		ABCEH	普	橙	25%	
12		H	坏	(17.6)	4.8		ACEH	普	にぶい橙	35%	
13		H	坏	(11.8)	(3.0)		ABCE	普	橙	15%	
14		H	坏	(13.1)	3.3		ACE	良	黒褐	45%	
15		H	坏	(13.0)			ABCE	普	橙	20%	
16		H	坏	(13.8)			ABCE	良	橙	15%	
17		H	坏				ABC	普	橙		
18		H	皿	(15.5)	(3.0)		ABCE	普	橙	20%	
19		H	皿	(20.8)			ABCE	普	にぶい橙	15%	
20		S	蓋				ABCFH	不良	灰褐	15%	
21		S	蓋				ACFH	普	灰	5%	
22		S	蓋	(14.6)			ACFH	不良	黒褐	15%	
23		S	蓋	(16.4)			ACFH	普	灰	25%	
24		S	蓋	(17.6)			ABCFH	不良	灰褐	15%	
25		S	蓋	(18.0)			ACH	良	青灰	10%	
26		S	蓋	(19.0)			ACFH	普	灰	25%	
27		S	坏	(17.0)	3.9		ACFH	普	灰	70%	
28		S	坏	(18.0)	4.3		ACFH	普	灰	40%	
29		S	坏	(19.8)			ABCFH	不良	黒褐	15%	
30		S	長頸瓶	(11.1)			AC	普	灰		内面に自然釉
31		S	長頸瓶				ACH	良	灰	15%	外面に自然釉
32		S	甕				ACFH	普	灰		
33		S	甕				ACFH	普	灰		
34		H	鉢	(21.0)			ACEH	良	橙	40%	
35		H	甕	(11.4)			ABCDE	普	赤褐	20%	
36		H	甕	(22.7)			ABCEI	普	橙		
37		H	甕	(19.7)			ABCE	普	橙		
24図 1	SJ162	H	甕	(22.7)			ABCE	普	橙	10%	
2		H	甕	(22.8)			ACEH	普	橙		
3		H	甕	22.0			ABCEH	普	橙	20%	
4		H	甕			5.9	ABCE	普	橙		
5		H	甕			4.6	ABCI	普	橙		
6		H	甕			(5.9)	ABCEI	普	橙	5%	
7		H	甕			(7.0)	ABCEI	普	にぶい橙	5%	
8		H	台付甕				ABCEH	普	にぶい橙	5%	
9		H	台付甕				ABCE	普	赤褐	5%	
10		H	台付甕			(9.6)	ABCE	普	橙	5%	
11			土掻			幅 1.4	ACE	普	橙	50%	重さ 6.88 g
12			鉄滓	長 4.5		幅 3.5 厚 1.9					重さ 21.80 g

第6表 第28次調査区出土遺物観察表(2)

番号	遺構	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	備考
24図13	SJ162		鉄滓	長6.0	幅4.2	厚2.9					重さ 56.80 g
14	SJ167	H	坏	12.3	3.6		A C E H	普	橙	45%	
15		H	坏	(12.8)			A C E	普	にぶい橙	15%	
16		H	甕	(19.8)			A B C E H	普	橙		
17		H	甕	(15.2)			A B C E I	普	暗褐	5%	
18	SX30	H	坏	11.9	3.8		A B C E	普	橙	55%	
19		H	皿	(18.8)			A B C E	普	灰褐	10%	
20	SK706		刀子		幅0.9	厚0.4					重さ 2.98 g
21	SK712	S	甕				A C F H	良	青灰		
22	調査区一括	H	坏	(14.0)			A B C E	普	橙	15%	
23		H	坏	(16.5)			A B C E	普	橙	15%	
24		S	蓋				A C D F H	不良	灰褐	5%	
25		S	坏	(11.6)	4.5		A C F H	普	灰	30%	
26		H	甕	(10.2)			A B C E	普	橙	20%	
27		H	甕	(19.4)			A C E	普	青灰	5%	

第7表 第28次調査区出土遺物観察表 (3)

第169号竪穴建物跡 (第21図)

調査区北部に位置し、平面形態は方形で、一辺5.8 mを測る。主軸方位はN-15°-Wである。掘り下げはほとんど行なわなかった。

図示できる遺物は出土しなかった。

IV 下郷遺跡 (周辺集落の調査)

1 下郷遺跡第3次調査区

a 概要

下郷遺跡第3次調査区は、遺跡南部の様相を確認する目的で、E-II-370～F-III-70グリッドに設けた。当初は幡羅遺跡の範囲に含めていなかったため、下郷遺跡として調査を行なった。確認された古代の主な遺構は、竪穴建物跡39棟である。

調査区周辺の標高は約35.3mで、確認面までの深さは約40cmを測る。

b 竪穴建物跡

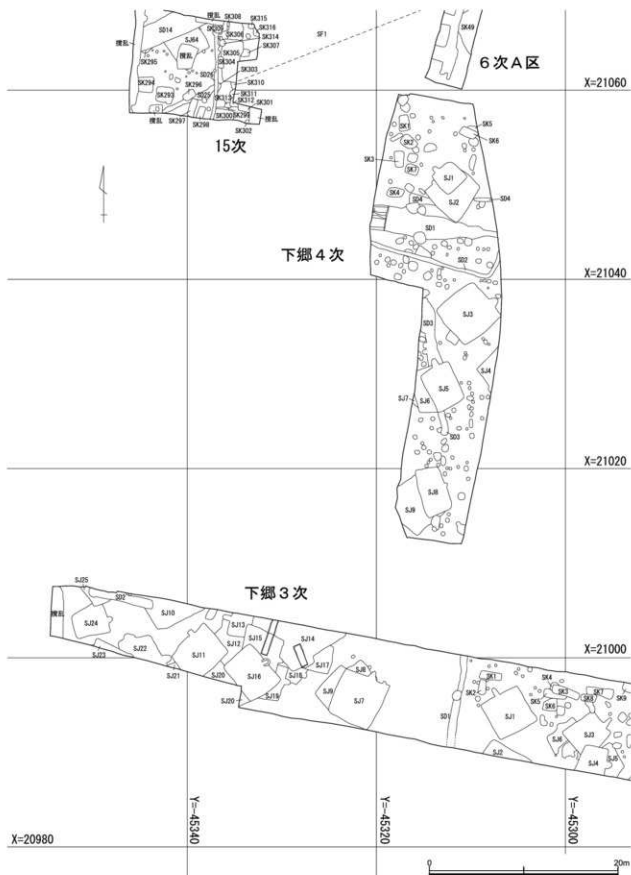
第1号竪穴建物跡 (第25図)

調査区中央部に位置する。平面形態は方形で、一辺4.3mを測る。カマドは北西壁ほぼ中央に構築される。主軸方位はN-30°-Wである。掘り下げはほとんど行なわなかった。

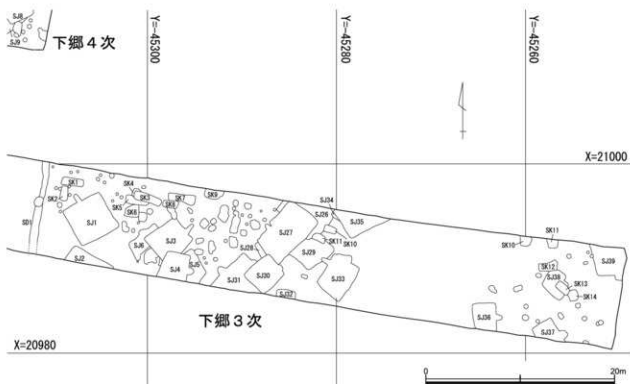
図示できる遺物は出土しなかった。

第2号竪穴建物跡 (第25図)

調査区中央部に位置する。平面形態は方形で、一辺4.7mを測る。主軸方位はN-60°-Wである。掘り



第25図 下郷遺跡第3・4次調査区全体測量図(1)



第26図 下郷遺跡第3・4次調査区全体測量図(2)

下げはほとんど行なわなかった。

図示できる遺物は出土しなかった。

第3号竪穴建物跡(第25・28図、第8表)

調査区中央部に位置し、第6号竪穴建物跡を切り、第4号竪穴建物跡に切られる。平面形態は方形で、長軸4m、短軸3.5mを測る。カマドは北東壁やや南寄りに構築される。主軸方位は $N-51^{\circ}-E$ である。掘り下げはほとんど行なわなかった。

図示できた遺物は、第28図1～3である。1は須恵器甕、2は土鍾、3は砥石である。

第4号竪穴建物跡(第25・28図、第8表)

調査区中央部に位置し、第3・5号竪穴建物跡を切る。平面形態は方形で、一辺3mを測る。カマドは東壁に構築される。主軸方位は $N-98^{\circ}-E$ である。掘り下げはほとんど行なわなかった。

図示できた遺物は、第28図4～11である。4は須恵器坏、5・7は須恵器高台坏、6は灰軸陶器高台坏、

8は土師器台付甕、9は土師器甕、10・11は土鍾である。遺構の時期は、10世紀頃と推定される。

第5号竪穴建物跡(第25図)

調査区中央部に位置し、第4号竪穴建物跡に切られる。平面形態は方形で、一辺3mを測る。主軸方位は $N-35^{\circ}-W$ である。掘り下げはほとんど行なわなかった。

図示できる遺物は出土しなかった。

第6号竪穴建物跡(第25・28図、第8表)

調査区中央部に位置し、第3号竪穴建物跡に切られる。平面形態は方形で、長軸3.6m、短軸1.6mを測る。カマドは北西壁ほぼ中央に構築される。主軸方位は $N-38^{\circ}-W$ である。掘り下げはほとんど行なわなかった。

図示できた遺物は、第28図12～17である。12～15は土師器で、12は坏、13は暗文坏、14は甕、15は甎、16は須恵器甕、17は土鍾である。

遺構の時期は、7世紀後半と推定される。

第7号竪穴建物跡 (第25・28図、第8表)

調査区西部に位置し、第8・9号竪穴建物跡を切る。平面形態は方形で、一辺5mを測る。カマドは北壁ほぼ中央に構築される。主軸方位は $N-23^{\circ}-E$ である。掘り下げはほとんど行なわなかった。

図示できた遺物は、第28図18～26である。18～22は土師器で、19は坏、20は暗文皿、21・22は甕である。18は小型甕であろうか。23～26は須恵器で、23・24は坏、25・26は甕である。

遺構の時期は、8世紀と推定される。

第8号竪穴建物跡 (第25・28図、第8表)

調査区西部に位置し、第7・9号竪穴建物跡に切られる。平面形態は方形で、主軸方位は $N-40^{\circ}-W$ である。掘り下げはほとんど行なわなかった。

図示できた遺物は、第28図27の須恵器坏である。遺構の時期は、8世紀と推定される。

第9号竪穴建物跡 (第25図)

調査区西部に位置し、第8号竪穴建物跡を切り、第7号竪穴建物跡に切られる。平面形態は方形で、一辺4mを測る。主軸方位は $N-41^{\circ}-E$ である。掘り下げはほとんど行なわなかった。

図示できる遺物は出土しなかった。

第10号竪穴建物跡 (第25・29図、第8表)

調査区西部に位置し、第2号溝に切られる。平面形態は方形で、主軸方位は $N-32^{\circ}-W$ である。掘り下げはほとんど行なわなかった。

図示できた遺物は、第29図1～3である。1は須恵器坏、2・3は鎌である。

第11号竪穴建物跡 (第25・29図、第8表)

調査区西部に位置し、第12・20・21号竪穴建物跡を切る。平面形態は方形で、長軸5m、短軸4.2mを測

る。カマドは北西壁やや北寄りに構築される。主軸方位は $N-38^{\circ}-W$ である。掘り下げはほとんど行なわなかった。

図示できた遺物は、第29図4～6である。4は須恵器坏、5はロクロ土師器高台坏、6は鉄釘である。

第12号竪穴建物跡 (第25・29図、第8表)

調査区西部に位置し、第20号竪穴建物跡を切り、第11・13・15・16号竪穴建物跡に切られる。平面形態は方形で、カマドは北西壁に構築される。主軸方位は $N-40^{\circ}-W$ である。掘り下げはほとんど行なわなかった。

図示できた遺物は、第29図7の土錘である。

第13号竪穴建物跡 (第25・29図、第8表)

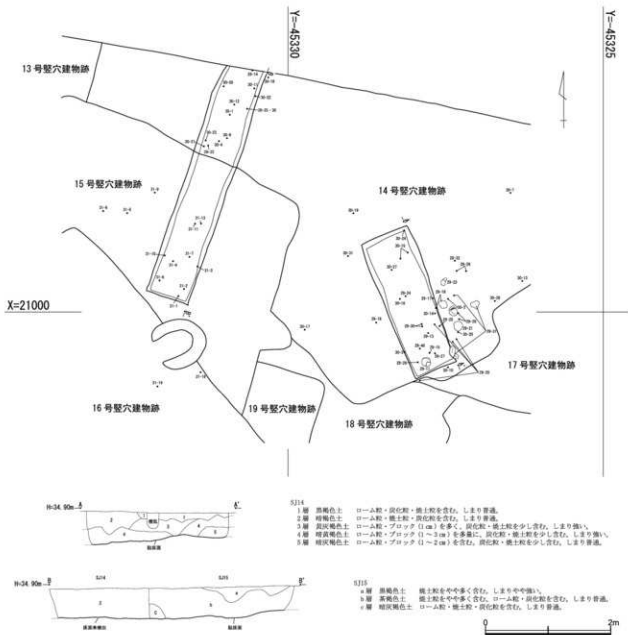
調査区西部に位置し、第12・14号竪穴建物跡を切り、第15号竪穴建物跡に切られる。平面形態は方形で、一辺2.2mを測る。カマドは西壁に構築される。主軸方位は $N-78^{\circ}-W$ である。掘り下げはほとんど行なわなかった。

図示できた遺物は、第29図8～10である。8は須恵器高台坏、9はロクロ土師器高台坏、10は鉄釘である。

第14号竪穴建物跡 (第25・27・29・30図、第8・9表)

調査区西部に位置し、第17・18号竪穴建物跡を切り、第13・15号竪穴建物跡に切られる。平面形態は方形で、一辺7mを測る。南隅に50cmの張り出しを有する。主軸方位は $N-35^{\circ}-W$ である。一部掘り下げたところ、床面までの深さは50cmを測る。

図示できた遺物は、第29図11～33、第30図1～31である。第29図11～33は土師器で、11～22は北武蔵型坏、23は暗文系無文坏、24～29・32は暗文坏、30・31・33は皿である。第30図1～7は須恵器で、1は蓋、2～6は坏、7は高台坏である。8～10は灰釉陶器で、8・9は高台坏、10は高台椀、11は須恵器甕、12・13は須恵器瓶である。14～17は土師器甕、18～



第27図 第14・15号竪穴建物跡

26は土錘、27・28は土製紡錘車、29は編物石、30は刀子、31は棒状鉄製品である。

新しい時期の遺物も混入するが、遺構の時期は7世紀後半と推定される。

第15号竪穴建物跡 (第25・27・31図、第9・10表)

調査区西部に位置し、第12～14・18・19号竪穴建物跡を切り、第16号竪穴建物跡に切られる。平面形態は方形で、一辺4mを測る。カマドは東壁に構築され

る。主軸方位はN-111°-Eである。一部掘り下げを行なったところ、床面までの深さは45cmを測る。

図示できた遺物は、第31図1～13である。1～3・5～7は須恵器で、1～3は高台杯、5は甌、6・7は甕である。6は焼成前に施されたと思われる「上」の線刻が外面に認められる。4は灰陶器椀、8は土師器甕、9はロクロ土師器高台杯、10は土師器台付甕、11・12は土錘、13は刀子である。

遺構の時期は、9世紀後半と推定される。

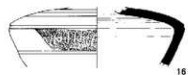
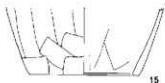
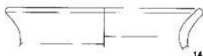
第3号竪穴建物跡



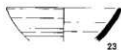
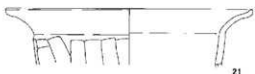
第4号竪穴建物跡



第6号竪穴建物跡



第7号竪穴建物跡



第8号竪穴建物跡

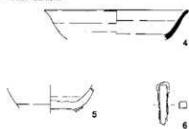


第28図 下郷遺跡第3次調査区出土遺物(1)

第10号型穴建物跡



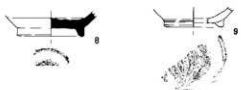
第11号型穴建物跡



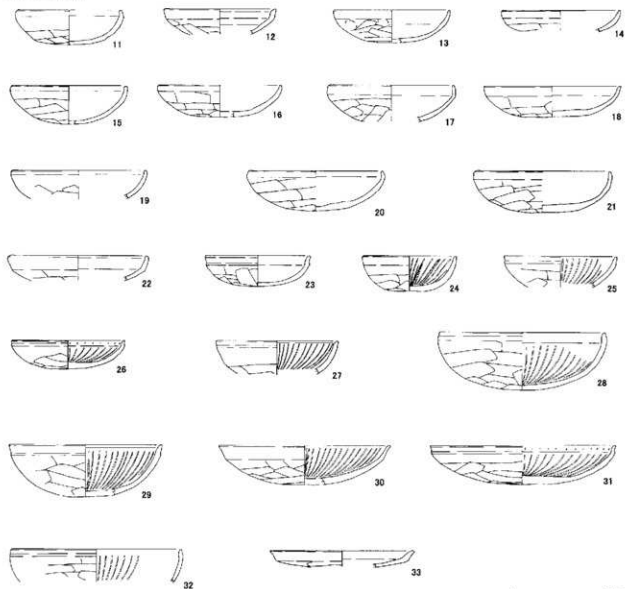
第12号型穴建物跡



第13号型穴建物跡

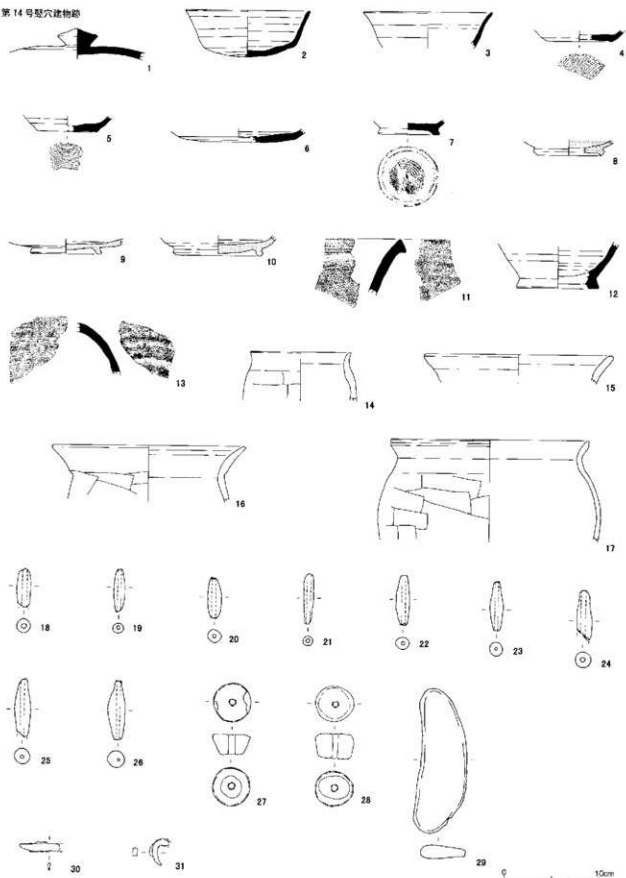


第14号型穴建物跡



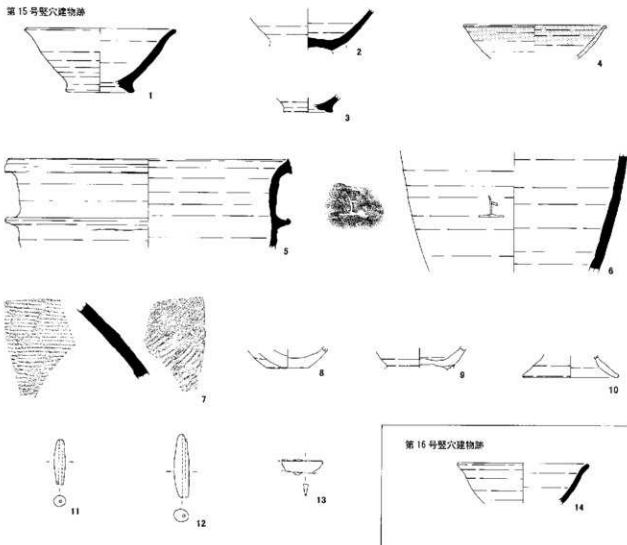
第29図 下郷遺跡第3次調査区出土遺物(2)

第14号竖穴建物跡

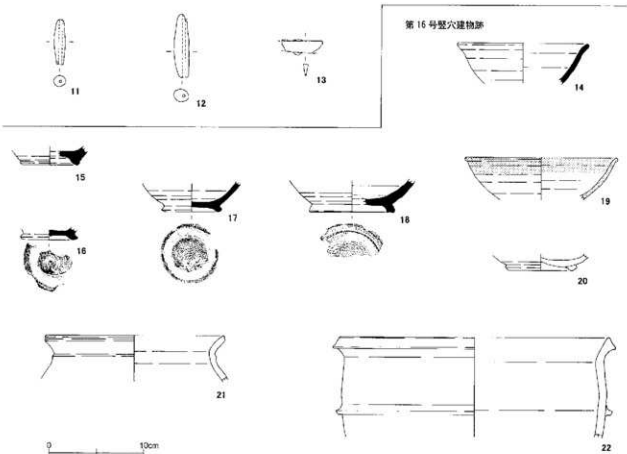


第30图 下郷遺跡第3次調査区出土遺物(3)

第 15 号竖穴建物跡



第 16 号竖穴建物跡



第31图 下郷遺跡第3次調査区出土遺物(4)

第17号壁穴建物跡



1

第18号壁穴建物跡



2



3



4

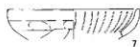


5



6

第19号壁穴建物跡



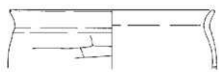
7



8



9



10



11



12

第22号壁穴建物跡



13



14



15

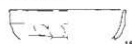


16



17

第24号壁穴建物跡



18



19



20

第26号壁穴建物跡



21



22

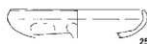
第27号壁穴建物跡



23



24



25



26



27



28



29



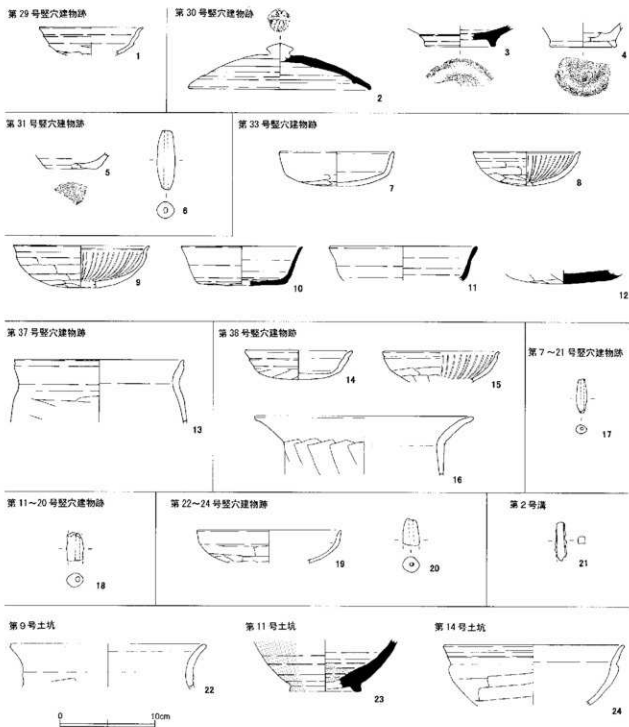
31



30



第32图 下郷遺跡第3次調査区出土遺物 (5)



第33図 下郷遺跡第3次調査区出土遺物 (6)

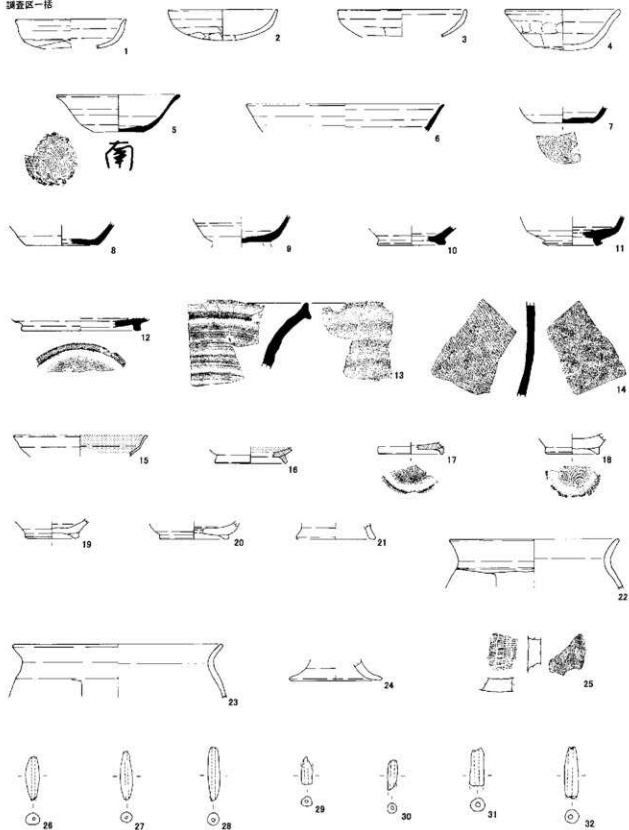
第16号竪穴建物跡 (第25・31図、第10表)

調査区西部に位置し、第12・15・19・20号竪穴建物跡を切る。平面形態は方形で、長軸5.2m、短軸4mを測る。カマドは北東壁はほぼ中央に粘土により構築される。主軸方位はN-54°-Eである。掘り下げはほ

とんど行なわなかった。

図示できた遺物は、第31図14~22である。14~18は須恵器で、14は坏、15~18は高台坏である。19は灰釉陶器椀、20はロクロ土師器高台坏、21は土師器裏、22は羽釜である。

調査区一括



第34図 下郷遺跡第3次調査区出土遺物(7)

番号	遺構	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	備考									
28回	1	SJ3	S	甕	長 5.8 長 6.8	幅 1.9 幅 4.0	厚 1.1 厚 1.8	A C F H A B C 石材：凝灰岩	良 普	青灰 橙	100%	重さ 8.23 g 重さ 85.18 g								
				土鍾																
				砥石																
	2	SJ4	S	坏	(7.8)	(7.8)	A C H A C A C A C A B C E A B C E A C	不良 不良 良 不良 普 普 普	灰 灰 灰 灰 にぶい橙 にぶい橙 橙	20% 15% 15% 15% 5% 80% 25%	内面に灰軸 重さ 6.03 g 重さ 2.27 g									
	高台坏																			
	高台皿																			
	高台坏																			
	台付甕																			
	甕																			
	土鍾																			
	土鍾																			
	3			SJ6								H	坏	(13.3) (18.8) (20.4)	(3.7) (5.2)	A C H A C E A B C E I A B C E H A C F H A B C	普 普 普 普 良 普	橙 にぶい赤褐 橙 橙 青灰 にぶい橙	25% 25% 5% 10% 90%	重さ 15.72 g
	坏																			
	甕																			
	甕																			
	甕																			
	甕																			
	土鍾																			
	土鍾																			
	4	SJ7	H		小型甕	(6.6) (11.8) (15.8) (26.0) (12.0)	幅 1.7	A B C D H I A B C A B C I A B C H A C E H A B C H A C F H A C F H A C H	普 普 普 普 普 普 良 良 良	橙 橙 橙 にぶい橙 灰褐 灰褐 灰 青灰 灰	25% 15% 15% 5% 15% 20%		内面に自然軸							
	坏																			
	皿																			
	甕																			
	甕																			
	坏																			
	坏																			
	甕																			
甕																				
甕																				
5	SJ8	S	坏	(12.2)	3.9	6.8	A C G H	普	灰褐	55%										
坏																				
29回	1	SJ10	S	坏	(12.4)	幅 3.3 幅 2.4	厚 0.4 厚 0.3	A C H	普	灰	20%	重さ 23.05 g 重さ 13.27 g								
				鎌																
				鎌																
	2	SJ11	S	坏	(15.1)	幅 0.8	厚 0.7	A C F H A B C E	普 普	灰 橙	15% 15%	重さ 7.03 g								
	高台坏																			
	鉄釘																			
	土鍾																			
	3	SJ12	S	高台坏	(7.0) (5.8)	幅 1.6	厚 1.6	A C E A C F H A C E	良 良 不良	黒褐 青灰 にぶい橙	50% 15% 10%	重さ 6.86 g								
	土鍾																			
	4	SJ13	R	高台坏	幅 0.8	厚 0.7	A C E A C F H A C E	良 良 不良	青灰 にぶい橙	15% 10%	重さ 6.07 g									
	鉄釘																			
	5			SJ14								H	坏	11.0 (11.7) (12.2) (12.4) (12.0) (12.7) (13.1) 14.4 (14.0) 14.2 14.2 (14.4)	3.6 3.4 4.0 3.4 3.3 4.4	A C E H A C E A C E A C E A C I A B C E I A B C E A C E H I A C E H A C E H I A C I	普 普 普 普 普 普 良 普 普 普 普	橙 橙 にぶい橙 橙 橙 にぶい橙 橙 赤褐 橙 橙 にぶい橙 にぶい橙	95% 20% 25% 25% 30% 25% 25% 75% 15% 50% 95% 15%	
	坏																			
	坏																			
	坏																			
	坏																			
	坏																			
	坏																			
	坏																			
	坏																			
	坏																			
	坏																			
坏																				

第 8 表 下郷遺跡第 3 次調査区出土遺物観察表 (1)

番号	遺構	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	備考
29図 23	S114	H	坏	10.8	3.2		A C E	普	橙	50%	
24		H	坏	(9.7)	3.7		A B C E	良	橙	30%	
25		H	坏	(11.8)			A C E	普	にぶい橙	15%	
26		H	坏	(11.8)	3.0		A C E	普	橙	40%	
27		H	坏	(12.8)			A C E	普	にぶい橙	20%	
28		H	坏	(17.5)	6.1		A B C E	普	橙	50%	
29		H	坏	(16.0)	(5.5)		A B C E	普	橙	20%	
30		H	皿	(18.0)	4.2		A B C E H	普	橙	40%	
31		H	皿	19.5	4.1		A C E	良	橙	80%	
32		H	坏	(17.9)			A B C E	普	橙	10%	
33		H	皿	(14.9)			A B C I	普	にぶい橙	10%	
30図 1	S114	S	蓋				A B C H	不良	灰	15%	
2		S	坏	13.1	4.9		A B C H	普	灰褐	85%	
3		S	坏	(13.6)			A B C F H	不良	灰褐	15%	
4		S	坏			(6.8)	A C D H	普	灰	15%	
5		S	坏			(6.3)	A C G	普	灰	15%	
6		S	坏				A C F H	普	灰	15%	
7		S	高台坏			6.3	A B C F H	不良	灰	20%	
8		K	高台皿			(6.6)	A C	良	灰	10%	内面に灰軸
9		K	高台皿			7.4	A C	良	灰	25%	
10		K	高台椀			8.6	A C	普	灰	25%	
11		S	甕				A C F H	良	灰		
12		S	瓶			(8.6)	A C G H	普	灰		
13		S	瓶				A C F H	普	灰		
14		H	甕	(10.5)			A C E	普	にぶい橙	5%	
15		H	甕	(19.6)			A B C E	普	橙		
16		H	甕	(20.0)			A C E	普	にぶい橙		
17		H	甕	(20.8)			A C E	普	橙	15%	
18			土錘		幅 1.5	厚 1.5	A C H	普	黒褐	70%	重さ 7.42g
19			土錘	長 4.4	幅 1.2	厚 1.0	A B C E	普	赤褐	100%	重さ 3.86g
20			土錘	長 4.3	幅 1.5	厚 1.4	A B C F H	普	灰褐	100%	重さ 8.82g
21			土錘	長 5.3	幅 1.0	厚 1.0	A B C E	良	橙	95%	重さ 4.61g
22		土錘	長 5.2	幅 1.5	厚 1.3	A B C E	良	橙	100%	重さ 8.52g	
23		土錘	長 5.2	幅 1.4	厚 1.5	A B C E H	普	にぶい橙	100%	重さ 9.69g	
24		土錘		幅 1.7	厚 1.6	A C H	普	黒褐	70%	重さ 9.93g	
25		土錘		幅 1.7	厚 1.7	A C H	普	黒褐	90%	重さ 15.81g	
26		土錘	長 6.1	幅 1.8	厚 1.8	A B C H	普	橙	100%	重さ 17.71g	
27		土製紡錘車	長 4.1	幅 4.0	厚 2.1	A C	普	暗褐	100%	重さ 30.96g	
28		土製紡錘車	長 3.7	幅 4.0	厚 2.6	A C E	普	にぶい橙	100%	重さ 45.37g	
29		編物石	長 15.0	幅 4.9	厚 1.5	石材：片岩				重さ 185.29g	
30		刀子		幅 0.8	厚 0.3					重さ 2.84g	
31		棒状鉄製品		幅 0.5	厚 0.8					重さ 3.52g	
31図 1	S115	S	高台坏	(15.5)	6.7	(6.6)	A C E	不良	灰褐	40%	
2		S	高台坏				A C E	不良	灰褐	50%	
3		S	高台坏			(4.8)	A C E H	不良	黒褐	10%	
4		K	椀	(14.9)			A C	良	灰	5%	内外面に灰軸
5		S	瓶	(29.6)			A C F H	良	青灰	5%	
6		S	甕				A C E	不良	灰褐	10%	外面に「上」の磨刻
7		S	甕				A C F H	良	青灰		
8		H	甕			(4.4)	A B C E H	普	橙		
9		R	高台坏				A C E	普	橙	25%	

第9表 下郷遺跡第3次調査区出土土物観察表 (2)

番号	遺構	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	備考
31図10	SJ15	H	台付甕			(9.8)	A B C	普	にぶい橙		
11			土鍾	長 4.7	幅 1.3	厚 1.2	A B C E	良	にぶい橙	100%	重さ 6.52g
12			土鍾	長 6.6	幅 1.6	厚 1.4	A B C H	普	にぶい橙	95%	重さ 15.67g
13			刀子		幅 1.3	厚 0.4					重さ 5.03g
14	SJ16	S	坏	(13.6)			A C F H	普	青灰	15%	
15		S	高台坏			(5.8)	A C E	普	灰	10%	
16		S	高台坏			(5.2)	A C D F H	不良	黒褐	15%	
17		S	高台坏			5.8	A C F H	普	青灰	30%	
18		S	高台坏			(8.8)	A C F H	普	灰	20%	
19		K	梅	(15.9)			A C	不良	灰褐	15%	内外面に灰釉
20		R	高台坏			(6.8)	A B C F H	不良	黒褐	15%	
21		H	甕	(18.7)			A B C E	普	橙		
22			羽釜	(28.2)			A B C E	普	にぶい橙	5%	
32図1	SJ17	H	坏	(14.2)			A C E	普	橙	15%	
2	SJ18	H	坏	(9.4)	2.6		A C E	普	橙	15%	
3		H	坏	(12.2)			A B C E	普	暗褐	15%	
4		S	蓋	(12.4)	(2.2)		A C D F H	良	灰	25%	
5			土鍾	長 4.2	幅 1.4	厚 1.4	A C	良	橙	100%	重さ 6.94g
6			鉄釘		幅 0.7	厚 0.6					重さ 5.43g
7	SJ19	H	坏	(13.8)			A C E	普	橙	15%	
8		R	高台坏			(7.8)	A C E	普	灰褐	15%	
9		H	甕	(12.4)			A B C D I	普	にぶい橙	10%	
10		H	甕	(21.4)			A B C E	普	橙	5%	
11			土鍾	長 3.9	幅 1.1	厚 1.1	A B C	良	灰褐	100%	重さ 4.61g
12			土鍾		幅 1.4	厚 1.3	A B C E	普	橙	80%	重さ 6.69g
13	SJ22	H	坏	(13.2)			A B C E	普	橙	10%	
14		H	坏	(13.2)	3.6		A C E	普	にぶい橙	20%	
15		S	高台坏			(11.0)	A C D F H	普	灰	20%	
16			土鍾		幅 1.3	厚 1.1	A B C E	普	橙	80%	重さ 3.89g
17			土鍾	長 5.1	幅 1.5	厚 1.5	A B C E I	普	橙	100%	重さ 9.44g
18	SJ24	H	坏	(12.2)			A B C E	普	橙	10%	
19		S	坏			(6.0)	A C G	良	灰	20%	
20		S	瓶				A C G H	良	灰褐		
21	SJ26	H	坏	(15.0)			A B C E	普	黒褐	15%	
22		H	坏				A C E	普	にぶい橙	10%	内面に「X」の線刻
23	SJ27	H	坏	(11.9)			A C E	普	黒褐	20%	
24		H	坏	(11.2)	(3.3)		A B C E	普	にぶい橙	25%	
25		H	坏	(14.0)			A B C E H	普	橙	20%	
26		H	坏	(16.8)			A C E I	普	橙	20%	
27		H	坏	(11.6)	3.7	(3.8)	A C E H	普	橙	25%	内面黒色処理
28		S	蓋				A C G H	良	青灰	5%	
29		S	甕				A C F H	不良	灰		
30		H	甕	(12.7)			A B C E	普	橙		
31		H	甕	(21.8)			A B C E I	普	橙		
33図1	SJ29	H	坏	(10.8)			A C E	普	黒褐	20%	
2	SJ30	S	蓋	(19.0)	(4.8)		A C F H	不良	灰褐	25%	
3		S	高台坏			(7.0)	A C H	不良	灰	20%	
4		R	高台坏			(6.6)	A C E	普	にぶい橙	20%	
5	SJ31	R	坏			(5.0)	A C E	普	にぶい橙	10%	

第10表 下郷遺跡第3次調査区出土遺物観察表(3)

番号	遺構	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	備考
33図 6	SJ31		土罎	長 6.2	幅 1.9	厚 1.8	A B C E	普	橙	95%	重さ 19.56 g
7	SJ33	H	坏	(12.0)	3.6		A B C E 1	普	黒褐	45%	
8		H	坏	(11.3)	3.6		A B C E	良	橙	25%	
9		H	坏	(14.2)	4.4		A B C E	普	橙	25%	
10		S	坏	(12.8)	4.1	(8.8)	A C F H	良	青灰	40%	
11		S	坏	(15.4)			A C F H	普	灰	15%	
12		S	甕				A C D F H	普	灰	5%	
13	SJ37	H	甕	(17.8)			A B C E	普	にぶい橙	5%	
14	SJ38	H	坏	(11.2)	3.0		A B C E	普	にぶい橙	45%	
15		H	坏	(12.2)			A C E H	普	橙	20%	
16		H	甕	(23.0)			A B C E H	普	橙	5%	
17	SJ 7 ~ 21		土罎	長 3.6	幅 1.1	厚 0.9	A B C D H	普	灰褐	100%	重さ 3.01 g
18	SJ11 ~ 20		土罎		幅 1.8	厚 1.5	A C E	普	黒褐	50%	重さ 8.06 g
19	SJ22 ~ 24	H	坏	(15.0)			A B C E	普	にぶい橙	20%	
20			土罎		幅 1.8	厚 1.6	A C E	普	にぶい橙	40%	重さ 7.35 g
21	SD 2		鉄釘		幅 0.8	厚 0.7					重さ 7.36 g
22	SK 9	H	甕	(20.4)			A B C H	普	橙		
23	SK11	S	瓶			(7.4)	A C	良	灰	10%	内外面に自然釉
24	SK14	H	鉢	(18.8)			A C E	普	暗褐	10%	
34図 1	調査区一括	H	坏	(11.6)			A B C E H	普	橙	20%	
2		H	坏	(11.4)	3.2		A B C E 1	普	橙	15%	
3		H	坏	(13.6)			A C E	普	にぶい橙	10%	
4		H	坏	12.0	4.3	6.2	A B C E	普	にぶい橙	100%	
5		S	坏	(12.7)	3.9	5.3	A C H	不良	灰褐	50%	底面に「南」の墨書
6		S	坏	(20.6)			A C H	良	青灰	5%	
7		S	坏			(6.2)	A C G	良	青灰	10%	
8		S	坏			(7.6)	A C F H	不良	灰褐	15%	
9		S	高台坏				A C F H	良	青灰	15%	
10		S	高台坏			(7.0)	A C E	不良	灰	10%	
11		S	高台坏			5.2	A C D F H	良	青灰	20%	
12		S	高台坏			(12.2)	A C D F H	普	灰	15%	
13		S	甕				A C F H	普	灰褐		
14		S	甕				A C H	良	灰		
15		K	椀	(13.8)			A C	良	灰	5%	内面に灰釉
16		K	高台椀			(7.4)	A C	良	灰	5%	内面に灰釉
17		K	高台椀			(6.7)	A C	良	灰	10%	
18		R	高台坏			5.4	A C H	不良	灰褐	15%	
19		R	高台坏			(4.9)	A C E F H 1	普	にぶい橙	15%	
20		R	高台坏			(7.0)	A C E H 1	不良	にぶい橙	15%	
21		R	高台坏			8.2	A B C E	普	橙	5%	
22		H	甕	(17.7)			A B C E	普	橙	5%	
23		H	甕	(21.8)			A B C E	普	にぶい赤褐	5%	
24		H	台付甕			(9.2)	A B C E	普	橙		
25			瓦				A B C	不良	橙		
26			土罎	長 4.6	幅 1.5	厚 1.2	A B C E	普	にぶい橙	100%	重さ 7.37 g
27			土罎	長 5.1	幅 1.3	厚 1.1	A B C E	普	青灰	100%	重さ 6.15 g
28			土罎	長 3.7	幅 1.3	厚 1.3	A C	普	橙	100%	重さ 7.95 g
29			土罎		幅 1.1	厚 1.0	A B C E	普	橙	50%	重さ 3.01 g
30			土罎		幅 1.0	厚 1.0	A B C	普	橙	50%	重さ 2.76 g

第11表 下郷遺跡第3次調査区出土遺物観察表 (4)

番号	遺構	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	備考
34図 31 32	調査区一括		土鍾		幅 1.5	厚 1.4	A C E	普	橙	60%	重さ 7.63g
			土鍾		幅 1.5	厚 1.4	A B C	普	にぶい橙	70%	重さ 10.28g

第12表 下郷遺跡第3次調査区出土遺物観察表(5)

遺構の時期は、9世紀後半と推定される。

図示できる遺物は出土しなかった。

第17号竪穴建物跡(第25・32図、第10表)

調査区西部に位置し、第18号竪穴建物跡を切り、第14号竪穴建物跡に切られる。平面形態は方形で、一辺3mを測る。主軸方位はN-10°-Eである。掘り下げはほとんど行なわなかった。

図示できた遺物は、第32図1の土師器杯である。

第21号竪穴建物跡(第25図)

調査区西部に位置し、第11・22号竪穴建物跡に切られる。主軸方位はN-28°-Wである。掘り下げはほとんど行なわなかった。

図示できる遺物は出土しなかった。

第18号竪穴建物跡(第25・32図、第10表)

調査区西部に位置し、第14・15・17・19号竪穴建物跡に切られる。平面形態は方形で、カマドは南東壁に構築される。主軸方位はN-123°-Eである。掘り下げはほとんど行なわなかった。

図示できた遺物は、第32図2～6である。2・3は土師器暗文杯、4は須恵器蓋、5は土鍾、6は鉄釘である。

遺構の時期は、7世紀後半と推定される。

第22号竪穴建物跡(第25・32図、第10表)

調査区西部に位置し、第21号竪穴建物跡を切り、第23号竪穴建物跡に切られる。また、北西部に土坑が重複するとみられる。平面形態は方形で、一辺3.5mを測る。カマドは北東壁に構築され、主軸方位はN-72°-Eである。掘り下げはほとんど行なわなかった。

図示できた遺物は、第32図13～17である。13は土師器暗文杯、14は土師器杯、15は須恵器高台杯、16・17は土鍾である。

第19号竪穴建物跡(第25・32図、第10表)

調査区西部に位置し、第18号竪穴建物跡を切り、第15・16号竪穴建物跡に切られる。平面形態は方形で、一辺3.6mを測る。カマドは東壁やや南寄りに構築される。主軸方位はN-101°-Eである。掘り下げはほとんど行なわなかった。

図示できた遺物は、第32図7～12である。7は土師器暗文杯、8はクロロ土師器高台杯、9・10は土師器裏、11・12は土鍾である。

第23号竪穴建物跡(第25図)

調査区西部に位置し、第22号竪穴建物跡を切る。平面形態は方形で、一辺4.4mを測る。主軸方位はN-64°-Wである。掘り下げはほとんど行なわなかった。

図示できる遺物は出土しなかった。

第20号竪穴建物跡(第25図)

調査区西部に位置し、第11・12・16号竪穴建物跡に切られる。掘り下げはほとんど行なわなかった。

第24号竪穴建物跡(第25・32図、第10表)

調査区西部に位置し、第25号竪穴建物跡に切られる。平面形態は方形で、長軸3.6m、短軸3mを測る。カマドは北東壁やや南寄りに構築される。主軸方位はN-76°-Eである。掘り下げはほとんど行なわなかった。

図示できた遺物は、第32図18～20である。18は土師器杯、19は須恵器杯、20は須恵器瓶である。

第25号竪穴建物跡 (第25図)

調査区西部に位置し、第24号竪穴建物跡を切り、第2号溝に切られる。平面形態は方形で、主軸方位は $N-38^{\circ}-W$ である。掘り下げはほとんど行なわなかった。

図示できる遺物は出土しなかった。

第26号竪穴建物跡 (第26・32図、第10表)

調査区中央部に位置し、第29号竪穴建物跡を切り、第27・34・35号竪穴建物跡、第10・11号土坑に切られる。平面形態は方形で、一辺5.2mを測る。主軸方位は $N-53^{\circ}-W$ である。掘り下げはほとんど行なわなかった。

図示できた遺物は、第32図21・22である。共に土師器で、21は暗文坏、22は内面に「×」の線刻がある坏である。

遺構の時期は、7世紀後半と推定される。

第27号竪穴建物跡 (第26・32図、第10表)

調査区中央部に位置し、第26・28・29号竪穴建物跡を切り、第30号竪穴建物跡に切られる。平面形態は方形で、長軸6m、短軸3.8mを測る。カマドは北西壁やや南寄りに構築され、主軸方位は $N-53^{\circ}-W$ である。掘り下げはほとんど行なわなかった。

図示できた遺物は、第32図23～30である。23～27は土師器坏、28は須恵器蓋、29は須恵器甕、30・31は土師器甕である。

遺構の時期は、7世紀後半と推定される。

第28号竪穴建物跡 (第26図)

調査区中央部に位置し、第27・30号竪穴建物跡に切られる。平面形態は方形で、主軸方位は $N-26^{\circ}-W$ である。掘り下げはほとんど行なわなかった。

図示できる遺物は出土しなかった。

第29号竪穴建物跡 (第26・33図)

調査区中央部に位置し、第26・27・33号竪穴建物跡、

第11号土坑に切られる。平面形態は方形で、一辺3.6mを測る。主軸方位は $N-53^{\circ}-W$ である。掘り下げはほとんど行なわなかった。

図示できた遺物は、第33図1の土師器有段口縁坏である。

遺構の時期は、7世紀後半と推定される。

第30号竪穴建物跡 (第26・33図、第10表)

調査区中央部に位置し、第27・28・31号竪穴建物跡を切る。平面形態は方形で、長軸3.4m、短軸3mを測る。カマドは北東壁やや南寄りに構築される。主軸方位は $N-47^{\circ}-E$ である。掘り下げはほとんど行なわなかった。

図示できた遺物は、第33図2～4である。2は須恵器蓋、3は須恵器高台坏、4はロクロ土師器高台坏である。

第31号竪穴建物跡 (第26・33図、第10・11表)

調査区中央部に位置し、第30号竪穴建物跡に切られる。平面形態は方形で、一辺4.6mを測る。カマドは北西壁に構築される。主軸方位は $N-44^{\circ}-W$ である。掘り下げはほとんど行なわなかった。

図示できた遺物は、第33図5・6である。5はロクロ土師器坏、6は土錘である。

第32号竪穴建物跡 (第26図)

調査区中央部に位置する。平面形態は方形で、一辺2mを測る。主軸方位は $N-82^{\circ}-W$ である。掘り下げはほとんど行なわなかった。

図示できる遺物は出土しなかった。

第33号竪穴建物跡 (第26・33図、第11表)

調査区中央部に位置し、第29号竪穴建物跡を切る。また、北東壁に土坑が重複するとみられる。平面形態は方形で、長軸4m、短軸3.2mを測る。カマドは北西壁に構築される。主軸方位は $N-59^{\circ}-W$ である。掘り下げはほとんど行なわなかった。

図示できた遺物は、第33図7～12である。7～9は土師器で、7は模倣坏、8・9は暗文坏、10～12は須恵器坏である。

遺構の時期は、7世紀後半と推定される。

第34号竪穴建物跡 (第26図)

調査区中央部に位置し、第26号竪穴建物跡を切り、第35号竪穴建物跡に切られる。掘り下げはほとんど行なわなかった。

図示できる遺物は出土しなかった。

第35号竪穴建物跡 (第26図)

調査区中央部に位置し、第26・34号竪穴建物跡を切る。平面形態は方形で、一辺3.6mを測る。主軸方位は $N-32^{\circ}-W$ である。掘り下げはほとんど行なわなかった。

図示できる遺物は出土しなかった。

第36号竪穴建物跡 (第26図)

調査区東部に位置する。平面形態は方形で、一辺2.4mを測る。カマドは東壁に構築される。主軸方位は $N-89^{\circ}-E$ である。掘り下げはほとんど行なわなかった。

図示できる遺物は出土しなかった。

第37号竪穴建物跡 (第26・33図、第11表)

調査区東部に位置する。平面形態は方形で、一辺2.4mを測る。カマドは北東壁に構築される。主軸方位は $N-59^{\circ}-E$ である。掘り下げはほとんど行なわなかった。

図示できた遺物は、第33図13の土師器甕である。

第38号竪穴建物跡 (第26・33図、第11表)

調査区東部に位置し、第12・13号土坑に切られる。平面形態は方形で、長軸2.8m、短軸2.4mを測る。主軸方位は $N-35^{\circ}-E$ である。掘り下げはほとんど行なわなかった。

図示できた遺物は、第33図14～16である。全て土師器で、14は有段口縁坏、15は暗文坏、16は甕である。遺構の時期は、7世紀後半と推定される。

第39号竪穴建物跡 (第26図)

調査区東部に位置する。平面形態は方形で、南壁に50cmの張り出し部が認められる。主軸方位は $N-15^{\circ}-W$ である。掘り下げはほとんど行なわなかった。

図示できる遺物は出土しなかった。

2 下郷遺跡第4次調査区

a 概要

下郷遺跡第4次調査区は、遺跡南部の様相を確認する目的で、E-III-177～E-III-358グリッドに設けた。当初は幡羅遺跡の範囲に含めていなかったため、下郷遺跡として調査を行なった。確認された古代の主な遺構は、竪穴建物跡9棟等である。

調査区周辺の標高は約35mで、確認面までの深さは30～40cmを測る。

b 竪穴建物跡

第1号竪穴建物跡 (第25・36図、第13表)

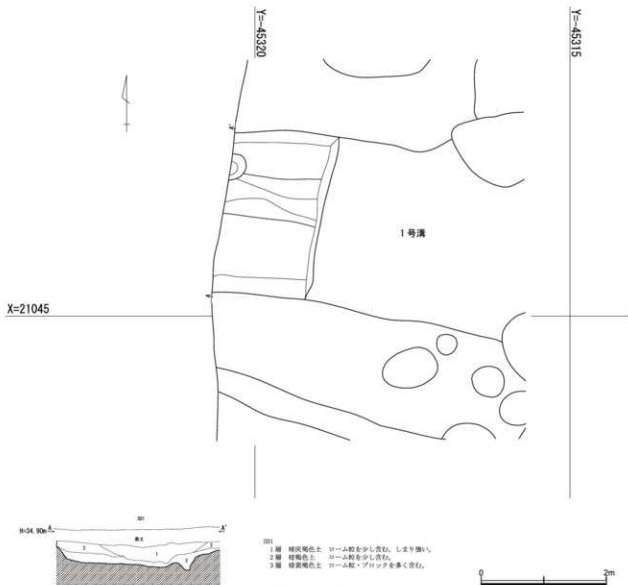
調査区北部に位置し、第2号竪穴建物跡を切る。平面形態は方形で、一辺2.6mを測る。カマドは北西壁や南寄りに構築される。主軸方位は $N-40^{\circ}-W$ である。掘り下げはほとんど行なわなかった。

図示できた遺物は、第36図1の土師器暗文皿である。

第2号竪穴建物跡 (第25図)

調査区北部に位置し、第4号溝を切り、第1号竪穴建物跡に切られる。平面形態は方形で、一辺4.8mを測る。主軸方位は $N-45^{\circ}-W$ である。掘り下げはほとんど行なわなかった。

図示できる遺物は出土しなかった。



第35図 第1号溝

第3号竪穴建物跡 (第25・36図、第13表)

調査区中央部に位置する。平面形態は方形で、一辺5mを測る。カマドは北東壁やや南寄りに構築される。主軸方位は $N-50^{\circ}-E$ である。掘り下げはほとんど行なわなかった。

図示できた遺物は、第36図2～7である。2は土師器暗文系無文杯、3・4は須恵器甕、5は土製支脚、6・7は土錘である。

第4号竪穴建物跡 (第25・36図、第13表)

調査区中央部に位置する。平面形態は方形で、南

西壁に30cmの張り出し部が認められる。主軸方位は $N-42^{\circ}-E$ である。掘り下げはほとんど行なわなかった。

図示できた遺物は、第36図8・9の土師器暗文杯である。

遺構の時期は、7世紀後半と推定される。

第5号竪穴建物跡 (第25・36図、第13表)

調査区中央部に位置し、第6号竪穴建物跡、第3号溝を切る。平面形態は方形で、長軸4.5m、短軸3.2mを測る。カマドは北西壁ほぼ中央に構築される。主軸

第1号竖穴建物跡



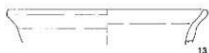
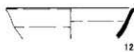
第3号竖穴建物跡



第4号竖穴建物跡



第5号竖穴建物跡



第6号竖穴建物跡



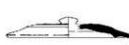
第8号竖穴建物跡



第2号溝



調査区一括



第36図 下郷遺跡第4次調査区出土遺物

番号	遺構	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	備考	
1	SJ1	H	皿	(19.8)			A C E	普	橙	15%		
2	SJ3	H	坏	(15.8)	3.8		A B C E	普	橙	25%	外面に自然釉	
3		S	甕				A C F H	良	灰			
4		S	甕				A C H	良	灰			
5		土製支脚					A B C E	普	橙	15%		
6		土罎			幅 1.8	厚 1.7	A B C	普	橙	70%		重さ 10.69 g
7		土罎		長 5.6	幅 1.4	厚 1.4	A B C E	普	にぶい橙	100%		重さ 8.29 g
8		SJ4	H	坏	(11.4)	2.8		A C E	普	橙		20%
9	H		坏	(15.6)	4.3		A B C E	普	橙	50%		
10	SJ5	H	皿	(21.8)			A C E	普	灰褐	10%		
11		H	坏	(19.4)			A B C E	普	橙	20%		
12		S	坏	(13.4)			A C G	普	灰	10%		
13		H	甕	(21.0)			A B C E H	普	橙			
14		瓦					A C F H	普	灰	10%		
15	SJ6	H	坏	(11.4)	3.5		A B C E	普	橙	30%		
16	SJ8		鉄釘		幅 0.8	厚 0.7					重さ 10.95 g	
17	SD2	S	甕				A C F H	良	青灰			
18	調査区一括	H	坏	(10.2)			A B C E	普	黒褐	10%		
19		H	坏	(12.6)	3.0		A B C E	普	橙	20%		
20		S	蓋	(9.4)			A C	良	青灰	20%		
21		S	蓋	(12.8)	(2.2)		A B C F H	不良	にぶい橙	25%		
22		S	坏			(6.0)	A C F H	普	灰	10%		
23		S	坏			(7.4)	A C F H	普	灰	15%		
24		S	甕				A C D F H	良	黒褐			
25		H	甕	(19.6)			A B C E	普	橙			
26		H	甕			5.5	A B C H I	普	にぶい橙			
27			土罎			幅 1.7	A B C	普	にぶい橙	40%	重さ 8.22 g	

第13表 下郷遺跡第4次調査区出土遺物観察表

方位はN-24°-Wである。掘り下げはほとんど行なわなかった。

図示できた遺物は、第36図10～14である。10・11は土師器暗文皿、12は須恵器坏、13は土師器甕、14は瓦である。

遺構の時期は、7世紀末頃と推定される。

第6号竪穴建物跡 (第25・36図、第13表)

調査区中央部に位置し、第7号竪穴建物跡、第3号溝を切り、第5号竪穴建物跡に切られる。平面形態は方形で、一辺4.5mを測る。主軸方位はN-13°-Wである。掘り下げはほとんど行なわなかった。

図示できた遺物は、第36図15の土師器有段口径縁坏である。

遺構の時期は、7世紀後半と推定される。

第7号竪穴建物跡 (第25図)

調査区中央部に位置し、第6号竪穴建物跡に切られる。主軸方位はN-53°-Wである。掘り下げはほとんど行なわなかった。

図示できる遺物は出土しなかった。

第8号竪穴建物跡 (第25・36図、第13表)

調査区南部に位置し、第9号竪穴建物跡を切る。平面形態は方形で、長軸4.8m、短軸2.8mを測る。カマドは東壁ほぼ中央に構築される。主軸方位はN-72°-Eである。掘り下げはほとんど行なわなかった。

図示できた遺物は、第36図16の鉄釘である。

第9号竪穴建物跡 (第25図)

調査区南部に位置し、第8号竪穴建物跡に切られる。平面形態は方形で、一辺5mを測る。主軸方位はN-46°-Eである。掘り下げはほとんど行なわなかった。図示できる遺物は出土しなかった。

c 溝

第1号溝 (第25・35図)

調査区北部に位置する。主軸方位はN-82°-Wである。幅は西部が2.7m、東部は急激に狭くなり、0.6mを測る。底面は緩く傾斜し、壁は斜めに立ち上がる。確認面からの深さは約30cmを測る。

図示できる遺物は出土しなかった。

3 下郷遺跡第5次調査区

a 概要

平成17年5月27日、深谷市東方字北下郷2743-5、

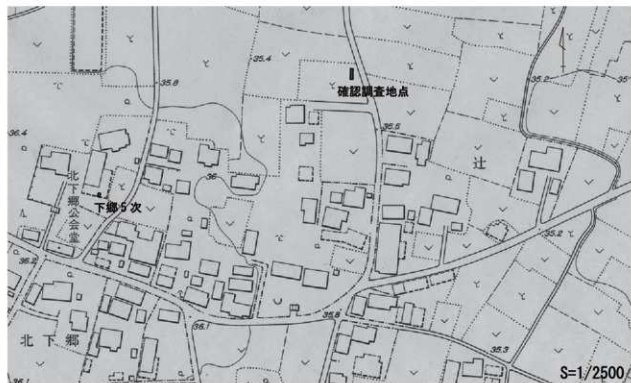
2766-3、-4に個人住宅が建設される計画があることが明らかになった。市教育委員会では、平成17年7月22日に確認調査を行ない、遺構・遺物を確認した。そのため、市教育委員会と原因者である持田美由紀氏とで協議を行い、現状保存ができない浄化槽部分について発掘調査を行なうこととした。

市教育委員会は、文化財保護法第99条の規定に基づき、発掘調査通知(平成17年7月22日付深教生発第242号)を提出した。発掘面積は5㎡で、発掘調査期間は、平成17年7月22日～7月26日である。確認された遺構は、竪穴建物跡2棟、土坑1基である。調査区周辺の標高は約35.6mで、確認面までの深さは約80cmを測る。

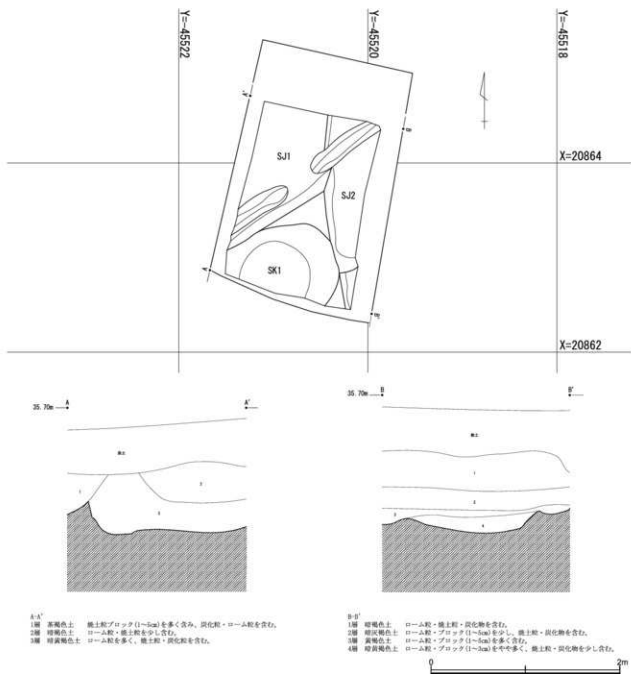
b 遺構と遺物

第1号竪穴建物跡 (第38・39図、第14表)

第2号竪穴建物跡、第1号土坑に切られる。底面はやや凹凸があり、壁はほぼ垂直に立ち上がる。掘り込み面からの深さは70cmを測る。幅20cm、床面からの



第37図 下郷遺跡第5次調査区及び確認調査地点



第38図 下郷遺跡第5次調査区遺構測量図

深さ5cmの壁溝が断続的に確認された。

図示できた遺物は、第39図1~4である。全て土師器坏で、1は暗文坏である。

遺構の時期は、8世紀前半と推定される。

第2号竪穴建物跡 (第38図)

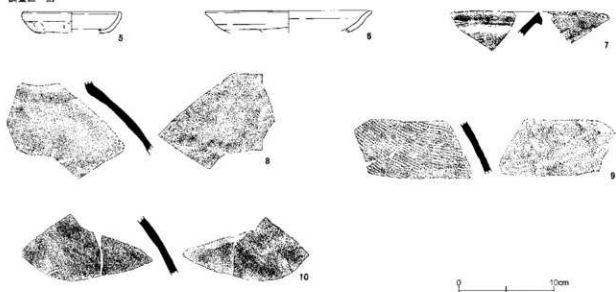
第1号竪穴建物跡を切る。3層が貼床部分、その下層は掘方とみられる。掘方は南部が一段浅くなり、掘り込み面からの深さ80cm、南部では65cmを測る。床面と思われる3層上面までの深さは60cmである。

図示できる遺物は出土しなかった。

第1号竪穴建物跡



調査区一括



第39図 下郷遺跡第5次調査区出土遺物

番号	遺構	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	備考
1	SJ 1	H	坏	(13.4)			ABCE	普	橙	15%	
2		H	坏	12.0	3.3		ACEH	普	にぶい橙	75%	
3		H	坏	(14.0)			ACE	普	にぶい橙	20%	
4		H	坏	14.0	3.8		ABCE	普	橙	60%	
5	調査区一括	H	坏	(10.1)			ACEH	普	橙	15%	
6		H	皿	(17.4)			ABCE	普	橙	15%	
7		S	甕				ACH	良	灰		
8		S	甕				ACH	良	灰		
9		S	甕				ACFH	普	にぶい赤褐		
10		S	甕				ACH	良	灰		

第14表 下郷遺跡第5次調査区出土遺物観察表

第1号土坑 (第38図)

第1号竪穴建物跡を切る。平面形態は円形で、壁は斜めに立ち上がる。掘り込み面からの深さは60cmである。

図示できる遺物は出土しなかった。

4 下郷遺跡第9次調査区

a 概要

平成19年9月21日、深谷市東方字川足1930-2に個人住宅及び倉庫が建設される計画があることが明らかになった。市教育委員会では、平成20年1月14日に確認調査を行ない、遺構・遺物を確認した。そのため、市教育委員会と原因者である萩原稔氏とで協議を行い、



第40図 下郷遺跡第9次調査区

現状保存ができない部分について発掘調査を行なうこととした。

市教育委員会は、文化財保護法第99条の規定に基づき、発掘調査通知（平成20年1月15日付深教生発第1006号）を提出した。発掘面積は80㎡で、発掘調査期間は、平成20年1月16日～1月25日である。確認された遺構は、竪穴建物跡1棟、土坑1基、溝1条である。調査区周辺の標高は約35.8mで、確認面までの深さは約70cmを測る。

b 遺構と遺物

第1号竪穴建物跡（第42～51図、第15～18表）

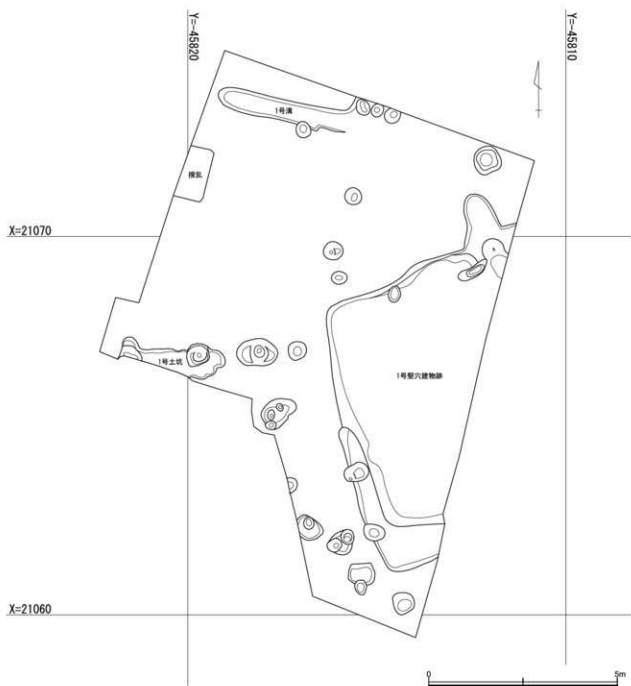
調査区東部に位置する。平面形態は方形である。南部に、確認面からの深さ25cmと床面より一段浅い掘り込みがみられた。当初、別の竪穴建物跡と考えたが、土層断面や第1号竪穴建物覆土内に貼り床が認められないこと等から、本竪穴建物跡に伴う掘り込みの可能性が高いと判断した。確認面から床面までの深さ

は60cm、竪穴建物の規模は一辺6.5mを測る。浅い掘り込み部分を含めると、一辺7.2mである。主軸方位はN-18°-Wである。

カマドは北壁に構築され、袖は粘土で造られる。燃焼部は幅50cm、奥行60cmで、中央には長さ35cmの縦長に割られた礎が支脚として設置されていた。煙道は長さ1.2m、幅0.8mを測る。

掘方は、北半を中心に大小の土坑が連続しており、北壁は壁を挟って掘り込まれる。カマド袖の部分にも掘り込みがある。これらの大部分は竪穴掘削時の土取り穴と捉えられるが、竪穴建物廃絶後に床面が掘り込まれたものも含まれる可能性がある。

図示できた遺物は、第46図1～51図132である。1～18・20は土師器環、19は皿である。18は螺旋状の暗文が施される。20は内面に漆と思われるものが付着する。21は灰釉葉陶器椀である。22～98は須恵器で、22・23は蓋、24～67は坏、68～85は高台坏、86～88は皿、89は高台皿、90～98は甕である。99～117は土師器甕、118～122は土師器台付甕、123～127は



第41図 下郷遺跡第9次調査区全体測量図

土錘である。128～131は鉄製品で、128は鉄、129は鎌、130・131は鉄釘、132は編物石である。

遺構の時期は、9世紀中葉～後半と推定される。

第1号土坑 (第52図)

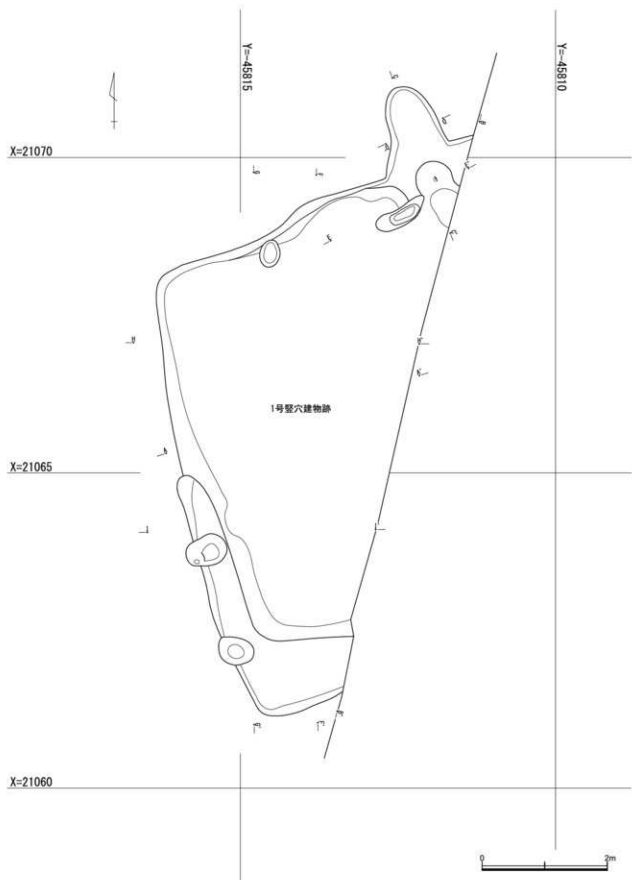
調査区西部に位置する。平面形態は楕円形で、長軸2.8m、短軸0.7mを測る。断面形態は皿状で、確認

面からの深さ20cmを測る。西端部に底面からの深さ25cmのビットが確認された。主軸方位はほぼ真北である。

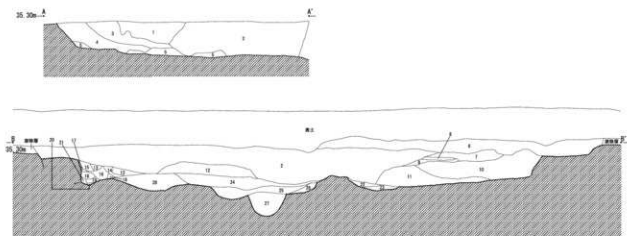
図示できる遺物は出土しなかった。

第1号溝 (第53図)

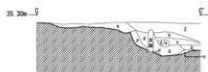
調査区北部に位置し、東部は遺存しない。主軸方位



第42図 第1・2号竖穴建物跡



- 51) 黒褐色土 (109K2/2) ローム殻、炭化剤、機土粒を中々多く含む。粘・しまり強い。
- 2) 黒褐色土 (109K2/2) ローム殻、炭化剤、機土粒を中々多く含む。粘・しまり強い。
- 3) 灰黄褐色土 (109H2/2) ローム殻、炭化剤、機土粒を中々多く含む。粘・しまり強い。
- 4) 黒褐色土 (109K2/1) ローム殻、炭化剤、機土粒を中々多く含む。粘・しまり強い。
- 5) 灰黄褐色土 (109H2/2) ローム殻、ブロック(1~5cm)を多く含む。機土粒を含む。粘・しまり強い。
- 6) 黒褐色土 (109K2/2) ローム殻、炭化剤、機土粒を中々多く含む。粘・しまり強い。
- 7) 黒褐色土 (109K2/1) ローム殻、ブロック(1~5cm)を多く含む。機土粒を含む。粘・しまり強い。
- 8) 黒褐色土 (109K2/2) ローム殻、炭化剤、機土粒を中々多く含む。粘・しまり強い。
- 9) 黒褐色土 (109K2/2) ローム殻、炭化剤、機土粒を中々多く含む。粘・しまり強い。
- 10) 灰黄褐色土 (109H2/2) ローム殻、ブロック(1~5cm)を多量に含む。機土粒を含む。粘・しまり強い。
- 11) 黒褐色土 (109K2/1) ローム殻、機土粒を含む。粘・しまり強い。
- 12) 黒褐色土 (109K2/2) ローム殻、ブロック(1~5cm)を多量に、炭化剤、機土粒を多く含む。粘・しまり強い。
- 13) 灰黄褐色土 (109H2/2) ロームブロック(10cm)・機土粒、炭化剤を多く含む。粘・しまり強い。
- 14) 黒褐色土 (109K2/2) ローム殻、機土粒、炭化剤を含む。粘・しまり強い。
- 15) におい・黄褐色土 (109H2/2) ローム殻、機土粒、炭化剤を多く含む。粘・しまり強い。
- 16) 灰黄褐色土 (109H2/2) ローム殻、機土粒、炭化剤を多く含む。粘・しまり強い。
- 17) 黒褐色土 (109K2/1) ローム殻、炭化剤を少し含む。粘・しまり強い。
- 18) におい・黄褐色土 (109H2/2) ローム殻、機土粒を多く含む。粘・しまり強い。
- 19) 黒褐色土 (109K2/1) ローム殻、機土粒、炭化剤を中々多く含む。粘・しまり強い。
- 20) 褐色土 (109H2/4) ローム殻を多く含む。粘・しまり強い。
- 21) 褐色土 (109H2/1) ローム殻、機土粒を含む。粘・しまり強い。
- 22) 黒褐色土 (109K2/2) ローム殻、ブロック(1cm)・機土粒を含む。粘・しまり強い。
- 23) 褐色土 (109H2/1) ローム殻、機土粒を含む。粘・しまり強い。
- 24) 黒褐色土 (109K2/2) ローム殻、ブロック(1~5cm)を多量に含む。機土粒を中々多く含む。粘・しまり強い。
- 25) におい・黄褐色土 (109H2/2) ローム殻、ブロック(5~10cm)を多量に、機土粒、炭化剤を中々多く含む。粘・しまり強い。
- 26) 黒褐色土 (109K2/2) ローム殻、ブロック(5cm)・機土粒を多く含む。粘・しまり強い。
- 27) 黒褐色土 (109K2/1) ローム殻、ブロック(1~5cm)・機土粒を多く含む。粘・しまり強い。
- 28) 黒褐色土 (109K2/2) ローム殻、ブロック(1~2cm)を多量に含む。粘・しまり強い。



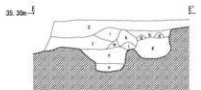
- 51) 黒褐色土 (109K2/1) ローム粒を含む。機土粒を少し含む。
- 6) 黒褐色土 (109K2/1) ローム殻、機土粒、炭化剤を中々多く含む。
- 7) におい・黄褐色土 (109H2/4) ローム殻、ブロック(1~5cm)を多く含む。機土粒、炭化剤を含む。
- 8) 黄褐色土 (109H2/3) 機土粒を多量に含む。
- 9) 黒褐色土 (109K2/1) 機土粒、炭化剤を含む。
- 10) 灰黄褐色土 (109H2/2) ローム殻、機土粒を多く含む。炭化剤を少し含む。
- 11) 褐色土 (109H2/1) ローム殻、機土粒、炭化剤を含む。
- 12) 灰黄褐色土 (109H2/2) ローム殻、ブロック(3cm)を多く含む。機土粒、炭化剤を含む。
- 13) 黒褐色土 (109K2/1) ローム殻、機土粒、炭化剤を中々多く含む。
- 14) 黄褐色土 (109H2/2) 黄褐色粘土ブロック(3cm)・機土粒、炭化剤を多く含む。

カマド跡

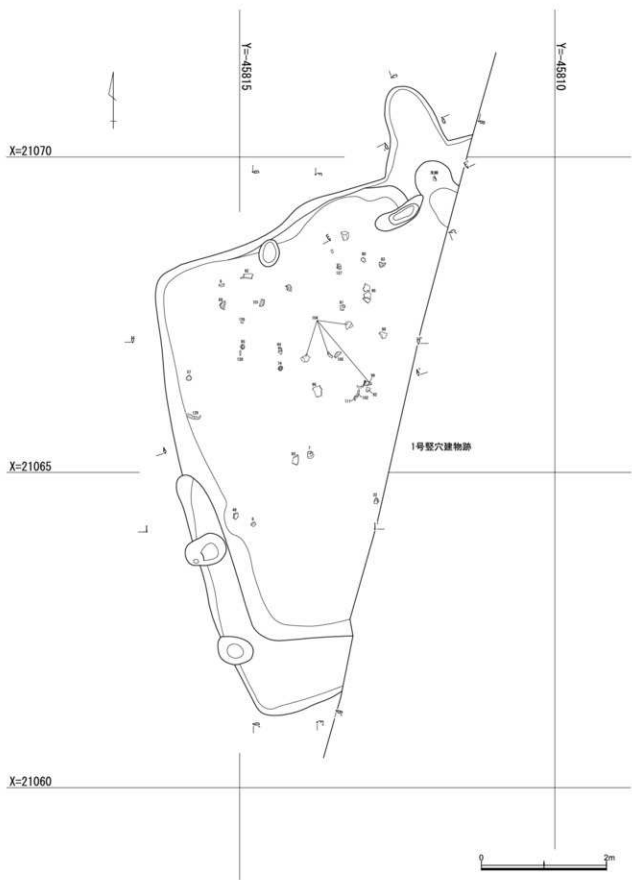
- 1) 黄褐色土 (109H2/4) 粘土で構成される。機土粒を含む。
- 1) 黄褐色土 (109H2/4) 粘土で構成される。機土粒を含む。
- 1) 黄褐色土 (109H2/1) 黄褐色粘土ブロック・機土粒を含む。

灰土層

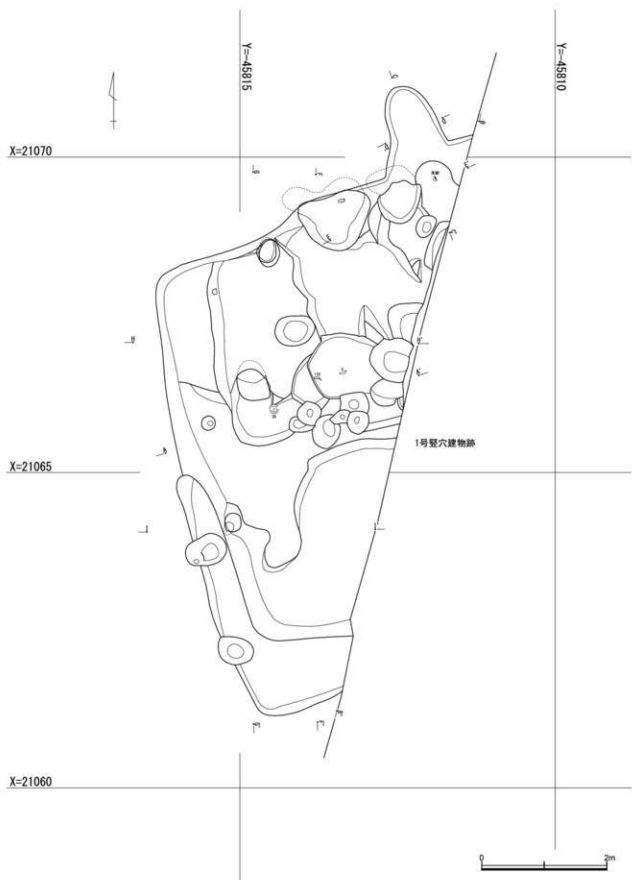
- 1) 黄褐色土 (109H2/2) ローム殻、ブロック(3cm)を多く含む。機土粒を含む。
- 1) 黒褐色土 (109K2/1) ローム殻、機土粒を含む。



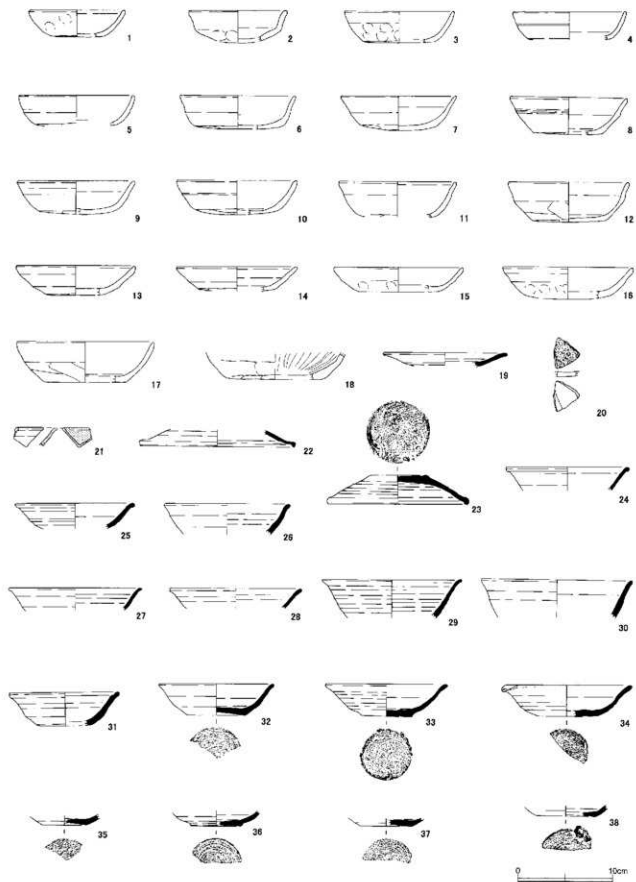
第43図 第1号壁穴建物跡土層断面



第44图 第1号竖穴建物跡遺物出土状況



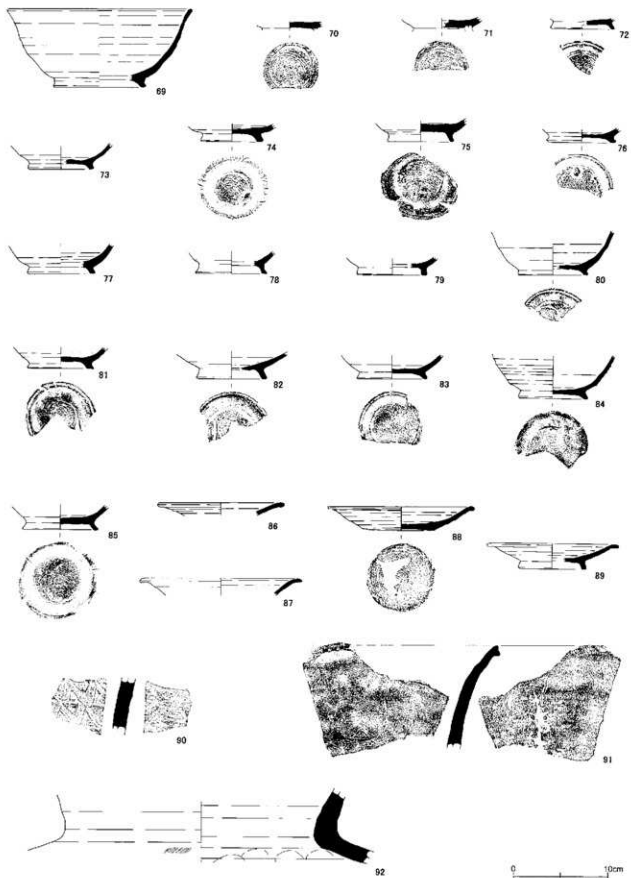
第45图 第1号竖穴建物跡掘方



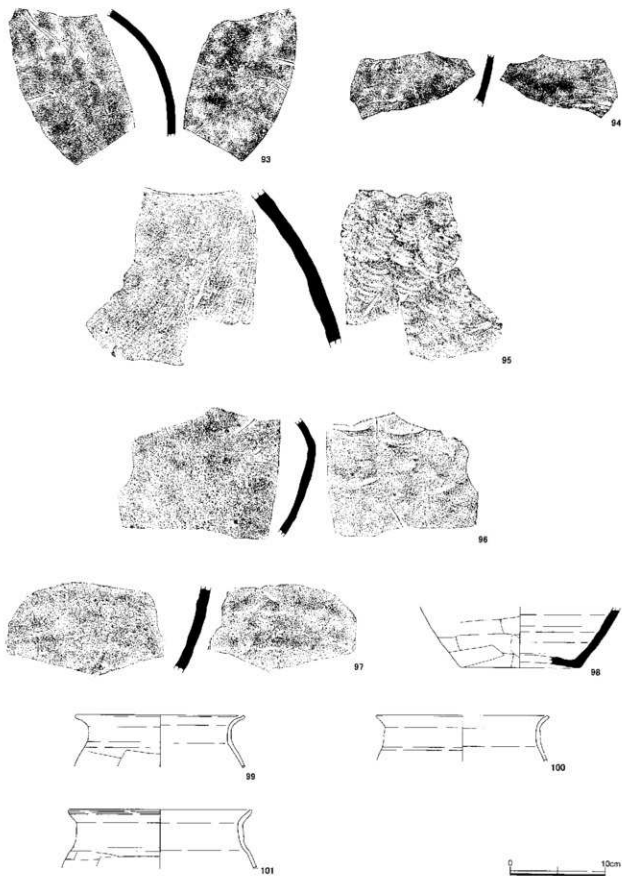
第46图 第1号竖穴建物跡出土遺物(1)



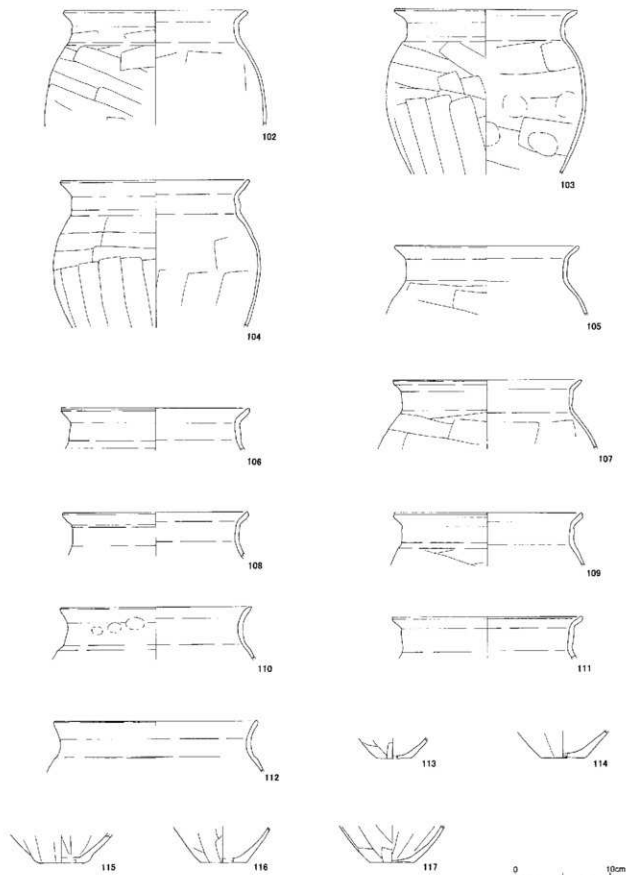
第47图 第1号竖穴建物跡出土遺物(2)



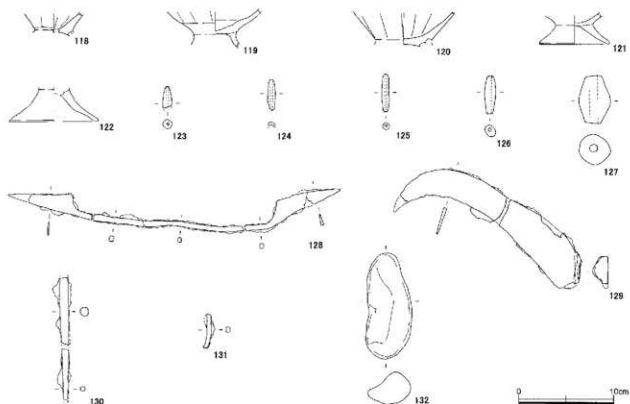
第48图 第1号竖穴建物跡出土遺物(3)



第49图 第1号竖穴建物跡出土遺物(4)



第50图 第1号竖穴建物跡出土遺物(5)



第51図 第1号竪穴建物跡出土遺物(6)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	備考
1	H	環	(10.2)	3.1	(5.2)	ABCH	普	橙	20%	
2	H	環	(10.0)	(3.4)		ABCI	普	にぶい橙	20%	
3	H	環	(11.5)	3.3	(7.0)	ABCH	普	橙	25%	
4	H	環	(11.8)			ABCE	普	橙	20%	
5	H	環	(12.0)			ACEI	普	橙	25%	
6	H	環	(12.2)	3.5		ACEH	普	橙	25%	
7	H	環	12.2	3.7		ACH1	普	橙	75%	
8	H	環	(12.3)	3.9	(7.4)	ACDH	普	橙	30%	
9	H	環	(12.3)	3.5		ACH	普	橙	40%	
10	H	環	(12.6)	3.6		ACDEH	普	橙	30%	
11	H	環	(12.2)			ABCE	普	橙	15%	
12	H	環	12.6	4.2	7.7	ABCE	普	橙	50%	
13	H	環	(12.6)	3.1		ABC	普	橙	20%	
14	H	環	(12.6)			ABCH	普	橙	20%	
15	H	環	(13.5)	2.6	(7.6)	ACH	普	橙	20%	
16	H	環	(13.6)	(3.0)		ABC	普	橙	20%	
17	H	環	(14.5)	4.3	(8.7)	ABC	普	橙	25%	
18	H	環				ABCEH	普	橙	15%	
19	S	皿	(12.8)			ACFH	良	灰	20%	
20	H	環				ACE	普	橙		内面に漆
21	K	椀				AC	良	灰		内面に灰軸
22	S	蓋	(16.3)			ACDH	普	灰	10%	
23	S	蓋	14.5	3.0	6.0	ACFH	良	灰	90%	

第15表 第1号竪穴建物跡出土遺物観察表(1)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	備 考
24	S	坏	(13.0)			A C	普	灰	10%	
25	S	坏	(12.4)			A C	普	灰	10%	
26	S	坏	(13.0)			A C G	普	灰	15%	
27	S	坏	(13.7)			A C F H	普	灰	10%	
28	S	坏	(13.8)			A C F H	普	灰	10%	
29	S	坏	(14.0)			A C F H	不良	灰褐	10%	
30	S	坏	(15.8)			A C F H	不良	灰褐	10%	
31	S	坏	(11.5)	3.5	(5.0)	A C F H	普	青灰	15%	
32	S	坏	(12.0)	3.3	(6.2)	A C F H	普	灰	45%	
33	S	坏	12.7	13.4	5.4	A C F H	良	青灰	90%	
34	S	坏	(13.6)	3.3	(6.0)	A C F H	良	青灰	30%	
35	S	坏			(4.8)	A C F H	普	灰	10%	
36	S	坏			(5.4)	A C H	良	青灰	10%	
37	S	坏			(5.4)	A C F H	良	青灰	15%	
38	S	坏			(6.2)	A C F H	不良	灰褐	15%	
39	S	坏			(6.5)	A C F H	不良	灰	10%	
40	S	坏			6.3	A B C H	不良	にぶい赤褐	15%	内面に漆
41	S	坏			(6.2)	A C H	普	灰	15%	
42	S	坏			6.0	A B C F H	不良	にぶい橙	20%	
43	S	坏			(6.2)	A C F H	良	青灰	15%	
44	S	坏			(6.2)	A C H	不良	灰褐	15%	
45	S	坏			6.2	A C G H	良	灰	30%	
46	S	坏			(6.5)	A C F H	不良	灰褐	20%	
47	S	坏			(7.0)	A C F H	良	青灰	10%	
48	S	坏			(6.5)	A B C H	不良	灰褐	10%	
49	S	坏			6.4	A C F H	普	灰	25%	
50	S	坏			6.1	A C F H	普	灰	30%	
51	S	坏			6.2	A C F H	普	灰	20%	
52	S	坏			(6.6)	A C F H	普	青灰	20%	
53	S	坏			(6.9)	A B C H	不良	にぶい橙	15%	
54	S	坏			(6.8)	A C F H	不良	灰褐	15%	
55	S	坏			(7.0)	A C F H	良	青灰	15%	
56	S	坏			(6.8)	A C F H	不良	灰	15%	
57	S	坏			6.8	A B C F H	普	灰	30%	
58	S	坏			(7.0)	A B C F H	普	灰	15%	
59	S	坏			(7.4)	A C F H	普	灰	20%	
60	S	坏			(7.6)	A C D F H	普	灰	15%	
61	S	坏			(7.2)	A C H	普	灰	15%	
62	S	坏			(8.0)	A C F H	普	黒褐	15%	
63	S	坏			7.8	A B C D F H	不良	灰褐	40%	
64	S	坏			(8.0)	A B C F H	不良	灰褐	15%	
65	S	坏			(7.9)	A C F H I	不良	にぶい橙	20%	
66	S	坏			(8.0)	A C F H	普	灰	15%	
67	S	坏			(8.4)	A B C F H	普	灰	15%	
68	S	高台坏	(13.4)	5.0	6.7	A C F H	良	灰褐	55%	
69	S	高台坏	(19.5)	8.3	(9.4)	A C F H	不良	灰褐	30%	
70	S	高台坏				A C F H	普	灰	15%	
71	S	高台坏				A B C H	不良	橙	15%	
72	S	高台坏			(6.7)	A B C H	普	灰	10%	

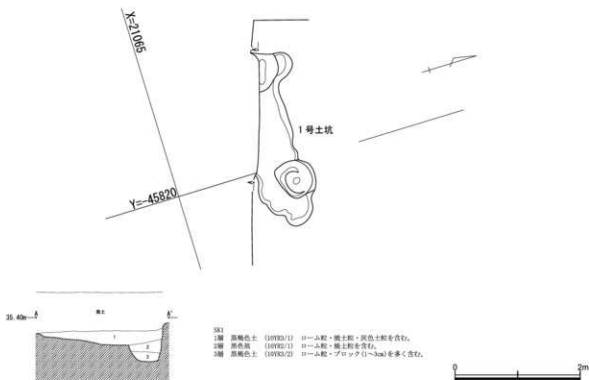
第16表 第1号竪穴建物跡出土遺物観察表(2)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	備考
73	S	高台坏			(6.2)	ABCH	不良	にぶい橙	20%	
74	S	高台坏			6.4	ACFH	普	灰	25%	
75	S	高台坏			6.5	ABCDPH	不良	にぶい橙	25%	
76	S	高台坏			(6.8)	ACFH	良	灰	15%	
77	S	高台坏			(7.0)	ACH	普	灰	15%	
78	S	高台坏			(7.0)	ACFH	良	青灰	10%	
79	S	高台坏			(7.4)	ACH	普	灰	15%	
80	S	高台坏			(7.3)	ACFH	良	黒褐	20%	
81	S	高台坏			7.0	ACFH	普	灰	25%	
82	S	高台坏			(7.4)	ABCFH	普	灰	20%	
83	S	高台坏			(7.4)	ACDFH	不良	灰	25%	
84	S	高台坏			7.1	ABCFH	不良	灰褐	25%	
85	S	高台坏			8.0	ABCH	普	灰	30%	
86	S	皿	(13.0)			ACFH	普	灰	10%	
87	S	皿	(16.5)			ACH	良	青灰	10%	
88	S	皿	15.4	2.5	6.7	ACDFH	普	灰	90%	
89	S	高台皿	(13.8)	2.7	(7.2)	ACH	良	青灰	20%	
90	S	甕				ACFH	良	黒褐		
91	S	甕				ACFH	普	灰	5%	
92	S	甕				ACFH	良	灰	5%	
93	S	甕				ACGH	良	灰	5%	
94	S	甕				ACFH	良	青灰	5%	
95	S	甕				ACFH	良	青灰	5%	
96	S	甕				ACH	良	灰	5%	
97	S	甕				ACFH	良	黒褐	5%	外面に自然釉
98	S	甕			(12.6)	ACFH	良	青灰	5%	
99	H	甕	(17.8)			ABCE	普	橙	5%	
100	H	甕	(18.1)			ABCE	普	橙		
101	H	甕	19.2			ABCE	普	橙	10%	
102	H	甕	19.4			ABCEH	普	橙	20%	
103	H	甕	19.4			ABCE	普	橙	25%	
104	H	甕	19.9			ABCE	普	橙	40%	
105	H	甕	(19.4)			ABCEH	普	橙	15%	
106	H	甕	(19.8)			ABCE	普	にぶい橙		
107	H	甕	(20.0)			ABCEH	普	橙	15%	
108	H	甕	(19.6)			ABCE	普	橙		
109	H	甕	(19.7)			ABCEI	普	橙	5%	
110	H	甕	(20.0)			ABCE	普	橙	5%	
111	H	甕	(20.0)			ABCE	普	橙	5%	
112	H	甕	(21.4)			ABCEHI	不良	にぶい橙	5%	
113	H	甕			(3.4)	ABCE	普	橙		
114	H	甕			(4.6)	ABCI	普	橙		
115	H	甕			(4.8)	ABCE	普	橙		
116	H	甕			(4.8)	ABCEH	普	にぶい橙		
117	H	甕			4.5	ABCE	普	橙	10%	
118	H	台付甕				ABCE	普	橙		
119	H	台付甕				ABCE	普	橙	5%	
120	H	台付甕				ABCE	普	橙		
121	H	台付甕			7.3	ACEH	普	橙	5%	

第17表 第1号竪穴建物跡出土遺物観察表(3)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	備考
122	H	台付甕			(9.4)	ABCEH	普	橙		
123		土罐		幅 1.0	厚 1.0	AC	普	にぶい橙	50%	重さ 1.87g
124		土罐		幅 0.8		ABC	普	橙	40%	重さ 0.77g
125		土罐	長 4.0	幅 0.8	厚 0.8	ABCE	普	にぶい橙	100%	重さ 2.14g
126		土罐	長 4.1	幅 1.2	厚 1.2	ABCE	普	にぶい橙	100%	重さ 5.20g
127		土罐	長 5.1	幅 3.4	厚 3.2	ABCFHI	普	橙	100%	重さ 43.60g
128		鉄		幅 2.1	厚 0.3					重さ 35.87g
129		鎌		幅 4.2	厚 0.4					重さ 106.50g
130		鉄釘		幅 1.0	厚 0.9					重さ 23.72g
131		鉄釘		幅 0.5	厚 0.5					重さ 2.90g
132		編物石	長 11.2	幅 4.5	厚 3.4	石材：砂岩				重さ 250.00g

第18表 第1号竪穴建物跡出土遺物観察表(4)



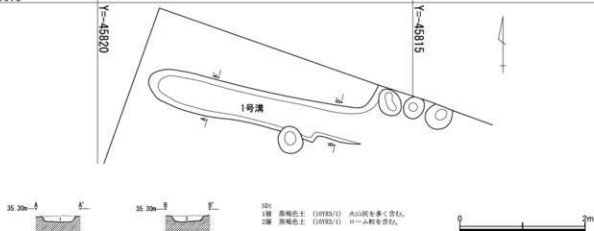
はN-77°-Wである。幅は55cm、確認面からの深さは10cmを測る。

図示できる遺物は出土しなかった。

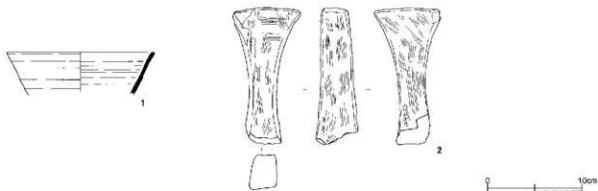
X=21075

Y=45820

Y=45815



第53図 第1号溝



第54図 下郷遺跡第9次調査区出土遺物

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	備考
1	S	坏	(15.4)			A CFH	普	灰	15%	
2		砥石			幅 2.9 厚 3.5	石材:凝灰岩				重さ 363.17g

第19表 下郷遺跡第9次調査区出土遺物観察表

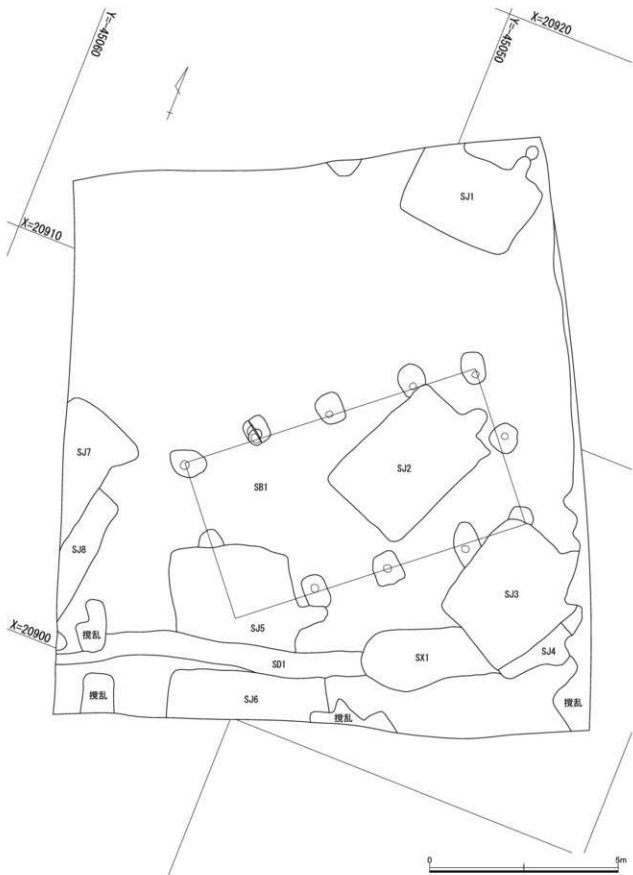
5 下郷遺跡第13次調査区

a 概要

平成21年8月28日、深谷市東方字大竹3113-2に電波塔が建設される計画があることが明らかになった。市教育委員会では、平成21年9月8日に確認調査を行ない、遺構・遺物を確認した。工事予定地は、史跡指定を目指して調査中の幡羅遺跡に隣接している。そのため、文化庁の判断を仰ぎつつ、市教育委員会と原因者

であるKDDI株式会社とで協議を重ねた。また並行して、より詳細な確認調査を実施した。協議の結果、工事予定地を移転することは難しいこととなったが、幸いなことに、予定地の北西部に遺構の無い部分があり、電波塔はこの部分に建てることとする設計変更がなされた。また、近接する遺構に影響の無い様、平面が方形の基礎から円形の基礎へと設計変更された。なお、平成22年2月26日に工事時の立会いを行い、変更された設計通りの施工を確認した。

発掘面積は200㎡で、発掘調査期間は、平成21年10



第55図 下郷遺跡第13次調査区全体測量図

月29日～12月24日である。確認された遺構は、建物跡1棟、竪穴建物跡8棟、特殊土坑1基、溝1条である。調査区周辺の標高は約33.8mで、確認面までの深さは約50cmを測る。

b 遺構と遺物

第1号建物跡 (第56・57図、第20表)

調査区中央部に位置し、第3・5号竪穴建物跡に切られる。側柱式掘立柱建物跡で、桁行4間(8.15m)×梁行2間(4.05m)、柱間はばらつきがあり、対向する柱の位置がずれる。また、柱の位置が外に張り出す傾向があり、柱の通りが良くない。桁行の柱間は、P5からP1が1.65m-2.4m-2.0m-2.1m、梁行の柱間はP5からP11が1.8m-2.25mである。主軸方位はN-51°-Eである。

柱の掘方は、一辺60～90cmの隅丸方形を基本とする。P2を掘り下げたところ、外側が段をもって斜めに立ち上がり、確認面からの深さは50cmを測る。柱は柱痕跡を残し、柱の直径は20cmと推定される。

図示できた遺物は、第57図1の須恵器甕口縁部破片である。

第1号竪穴建物跡 (第55・57図、第20表)

調査区北部に位置する。平面形態は方形で、北西隅に張り出し部、又は重複する遺構が確認された。長軸3.3m、短軸2.2mを測り、主軸方位はN-6°-Eである。カマドは北壁東寄りに構築される。掘り下げはほとんど行なわなかった。

図示できた遺物は、第57図2・3である。焼成の悪い須恵器で、2は坏、3は高台坏である。

遺構の時期は、10世紀と推定される。

第2号竪穴建物跡 (第55・57図、第20表)

調査区中央部に位置し、第1号建物跡を切る。平面形態は方形で、長軸3.7m、短軸2.5mを測る。主軸方位はN-25°-Eである。カマドは北東壁やや東寄りに

に構築される。掘り下げはほとんど行なわなかった。

図示できた遺物は、第57図4の灰釉陶器高台皿である。

第3号竪穴建物跡 (第55・57図、第20表)

調査区東部に位置し、第1号建物跡、第4号竪穴建物跡、第1号特殊土坑を切る。平面形態は方形で、長軸3.2m、短軸2.9mを測る。主軸方位はN-28°-Eである。カマドは北東壁やや東寄りに構築される。掘り下げはほとんど行なわなかった。

図示できた遺物は、第57図5～7である。5は土師器坏、6はロクロ土師器坏、7は土鍾である。

遺構の時期は、10世紀と推定される。

第4号竪穴建物跡 (第55・57図、第20表)

調査区東部に位置し、第1号特殊土坑を切り、第3号竪穴建物跡に切られる。主軸方位はN-115°-Eである。掘り下げはほとんど行なわなかった。カマドは南東壁やや北寄りに構築される。

図示できた遺物は、第57図8・9の土師器甕である。遺構の時期は、10世紀と推定される。

第5号竪穴建物跡 (第55・57図、第20表)

調査区南部に位置し、第1号建物跡を切り、第1号溝に切られる。平面形態は方形で、長軸3.2m、短軸2.6mを測る。主軸方位はN-64°-Eである。カマドは北東壁やや南寄りに構築される。掘り下げはほとんど行なわなかった。

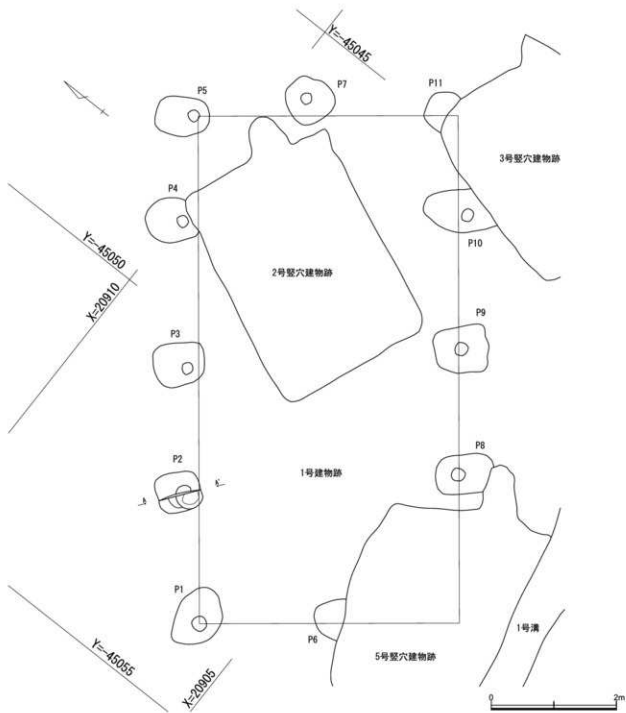
図示できた遺物は、第57図10・11である。10は須恵器坏、11は須恵器高台坏である。

遺構の時期は、9世紀後半と推定される。

第6号竪穴建物跡 (第55・57図、第20表)

調査区南部に位置し、第1号溝と重複する。平面形態は方形で、一辺4.1mを測る。主軸方位はN-68°-Eである。掘り下げはほとんど行なわなかった。

図示できた遺物は、第57図12～17である。12・13



H=33.50m



- | | | |
|------------|----------|------------------------|
| 1層 黒褐色土 | (109K/1) | ☐—ム靴を含む。 |
| 2層 黒色土 | (109K/1) | ☐—ム靴・ブロッタ(1cm)を中や多く含む。 |
| 3層 黒褐色土 | (109K/1) | ☐—ム靴を多く含む。しまり強い。 |
| 4層 灰黄褐色土 | (109K/2) | ☐—ム靴を多く含む。 |
| 5層 黒色土 | (109K/1) | ☐—ム靴を少し含む。 |
| 6層 灰い・黄褐色土 | (109K/3) | ☐—ム靴を多く含む。 |

0 2m

第56図 第1号建物跡

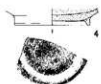
第1号建物跡



第1号竪穴建物跡



第2号竪穴建物跡



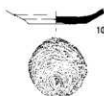
第3号竪穴建物跡



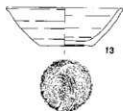
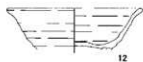
第4号竪穴建物跡



第5号竪穴建物跡



第6号竪穴建物跡

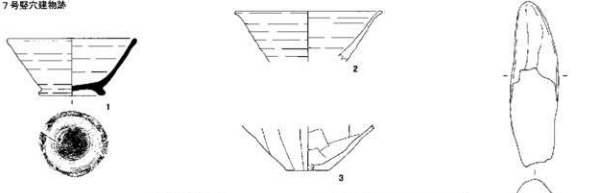


16

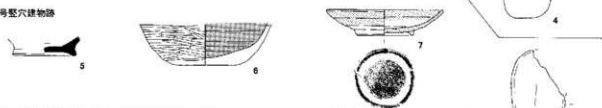
0 10cm

第57図 下郷遺跡第13次調査区出土遺物 (1)

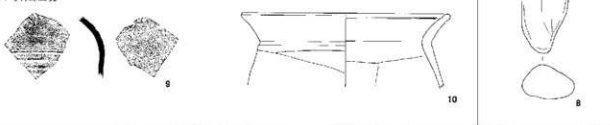
第7号窑穴建物跡



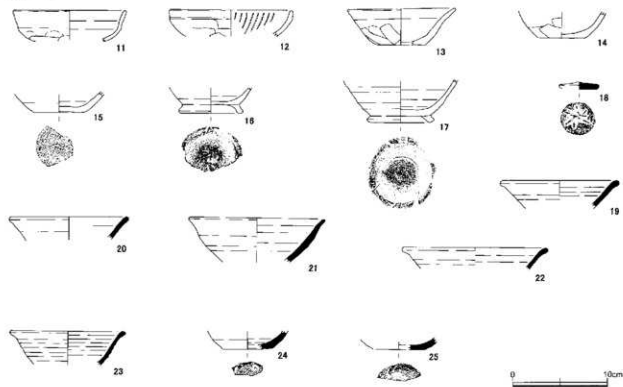
第8号窑穴建物跡



第1号特殊土坑

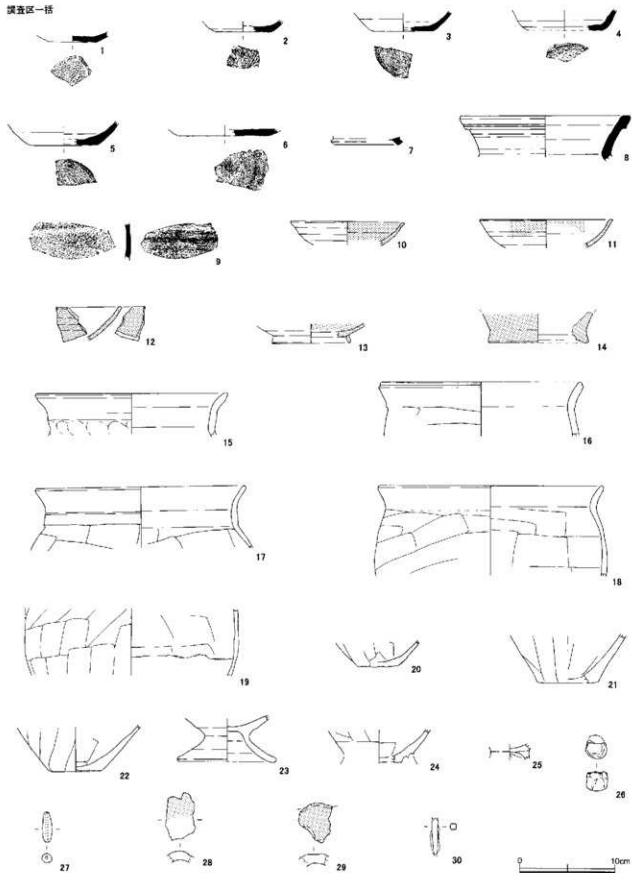


調査区一括



第58図 下郷遺跡第13次調査区出土遺物(2)

調査区一括



第59図 下郷遺跡第13次調査区出土遺物(3)

番号	遺構	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	備考
57図	1	SB 1	S 甕				A C H	良	黒褐		内外面に自然釉
	2	SJ1	S 坏	(11.7)	5.2	5.8	A C E	不良	灰褐	50%	
	3		S 高台坏	13.4	5.6	6.0	A B C E	不良	灰褐	50%	
	4	SJ2	K 高台皿			(7.8)	A C H	普	灰	15%	内面に灰釉
	5	SJ3	H 坏	(12.2)	4.3	4.5	A B C E	普	橙	55%	
	6		R 坏			(7.1)	A B C E	普	橙	15%	
	7		土鉢		幅 1.7	厚 1.4	A C E	普	暗褐	60%	重さ 9.47 g
	8	SJ4	H 甕	(11.8)			A B C E	普	暗褐	5%	内面に黒色付着物
	9		H 甕	(23.4)			A B C E	普	黒褐	5%	
	10	SJ5	S 坏			6.0	A C H	普	灰褐	20%	
	11		S 高台坏			7.2	A C D H	普	灰	25%	
	12	SJ6	R 高台坏	(14.0)			A C E H I	普	灰褐	25%	
	13		R 坏	12.0	4.1	5.0	A B C E H	普	橙	100%	
	14		K 椀	(14.4)			A C	良	灰	15%	内外面に灰釉
	15		緑釉 椀	(15.4)			A C	良	緑	15%	
	16		H 甕	(23.6)			A B C D E	普	暗褐	15%	
	17		縄文土器 深鉢				(10.8)	A B C H	普	橙	
58図	1	SJ7	S 高台坏	(13.4)	6.0	6.4	A C E	不良	灰褐	30%	高台坏
	2		R 坏	(15.2)			A B C E	普	橙	20%	
	3		H 甕			(4.4)	A B C E	普	にぶい橙		
	4		編物石		幅 4.9	厚 5.2	石材:砂岩				重さ 661.71 g
	5	SJ8	S 高台坏			(6.2)	A C	普	灰	20%	
	6		H 坏			(6.3)	A C	良	橙	20%	内面黒色処理
	7		K 高台皿	12.2	2.7	5.8	A C H	良	灰	75%	内外面に灰釉
	8		編物石	長 13.9	幅 5.5	厚 3.7	石材:砂岩				重さ 369.03 g
	9	SK 1	S 甕				A C I	普	灰		
	10		H 甕	(21.8)			A B C E H	普	橙	5%	
	11	調査区一括	H 坏	(11.8)			A C E I	普	橙	15%	
	12		H 坏	(12.8)			A B C E	良	橙	10%	
	13		H 坏	11.4	3.8	5.2	A B C E	普	橙	50%	
	14		H 坏			(5.0)	A C E H	普	橙	20%	
	15		R 坏			(5.2)	A B C E	普	橙	15%	
	16		R 高台坏			(6.4)	A B C E	不良	にぶい橙	20%	
	17		R 高台坏			6.2	A B C E I	普	橙	30%	
	18		S 蓋				A C	普	灰	5%	
	19		S 坏	(12.2)			A C E	不良	灰褐	10%	
	20		S 坏	(12.2)			A C E	不良	灰褐	10%	
	21		S 坏	(14.4)			A C I	不良	灰褐	20%	
	22		S 坏	(15.2)			A B C E	不良	灰褐	5%	
	23		S 坏	(12.0)			A C F H	普	灰	15%	
	24		S 坏			(5.2)	A C E	不良	黒褐	10%	
	25	S 坏			(5.4)	A C F H	普	灰	10%		
59図	1	調査区一括	S 坏			(5.2)	A C F H	普	灰	10%	
	2		S 坏			(5.6)	A C F H	普	灰	10%	
	3		S 坏			(6.4)	A C F H	普	青灰	15%	
	4		S 坏			(8.0)	A C F H	普	灰	10%	
	5		S 坏			(7.2)	A C E	不良	灰褐	15%	
	6		S 坏			(9.6)	A C G H	普	灰	10%	
	7		S 高台坏			(6.8)	A C E	普	灰		

第20表 下郷遺跡第13次調査区出土遺物観察表(1)

番号	遺構	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	備考
59図 8	調査区一括	S	甕	(17.8)			A B C F H	普	灰褐		
9		S	瓶				A C G	良	灰		外面に自然釉
10		K	椀	(12.0)			A C	良	灰	10%	内面に灰釉
11		K	椀	(14.0)			A C	普	灰褐	10%	内外面に灰釉
12		K	椀				A C	良	灰	5%	内外面に灰釉
13		K	高台椀			(8.2)	A C	良	灰褐	10%	内面に灰釉
14		K	瓶			(10.2)	A C	良	灰		外面に灰釉
15		H	甕	(20.0)			A B C E	普	橙	5%	
16		H	甕	(21.0)			A B C E H	普	橙		
17		H	甕	(22.0)			A B C E H	普	橙	15%	
18		H	甕	(23.6)			A B C E	普	橙	10%	
19		H	甕				A B C E	普	橙	10%	
20		H	甕			4.4	A B C E	普	黒褐		
21		H	甕			(6.4)	A B C E	普	黒褐		
22		H	甕			5.3	A B C E H	普	橙	5%	
23		H	台付甕			(10.0)	A B C E	普	赤褐	10%	
24		H	台付甕				A B C E	普	にぶい赤褐		
25		H	台付甕				A C E	普	灰褐		
26		H	不明				A C	普	橙		
27			土鏝	長 3.2	幅 1.1	厚 1.0	A B C E	普	にぶい橙	100%	重さ 3.16g
28			羽口				A B C	良	橙		外面に鉄分
29			羽口				A B C	良	橙		外面に鉄分
30			鉄釘		幅 0.6	厚 0.6					重さ 3.36g

第21表 下郷遺跡第13次調査区出土遺物観察表 (2)

はロクロ土器で、12は高台杯、13は杯である。14は灰軸陶器椀、15は緑軸陶器椀、16は土師器甕である。17は縄文土器の底部である。

遺構の時期は、10世紀と推定される。

第7号竪穴建物跡 (第55・57図、第20表)

調査区西部に位置し、第8号竪穴建物跡を切る。平面形態は方形で、長軸3.5m以上、短軸2mを測る。カマドは東壁北隅に構築される。主軸方位は $N-108^{\circ}-E$ である。掘り下げはほとんど行なわなかった。

図示できた遺物は、第58図1～4である。1は須恵器高台杯、2はロクロ土器高台杯、3は土師器甕、4は編物石である。

遺構の時期は、10世紀と推定される。

第8号竪穴建物跡 (第55・58図、第20表)

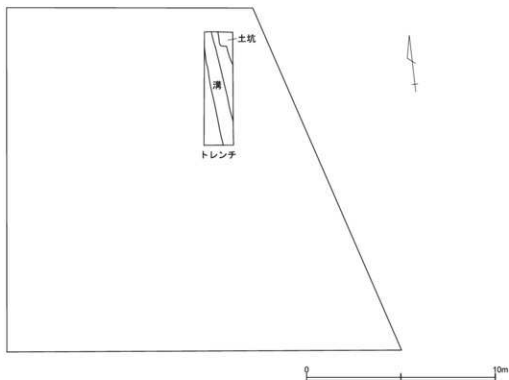
調査区西部に位置し、第7号竪穴建物跡に切られる。平面形態は方形で、主軸方位は $N-6^{\circ}-E$ である。掘り下げはほとんど行なわなかった。

図示できた遺物は、第58図5～8である。5は須恵器高台杯、6は土師器杯で内面は黒色処理、外面にはミガキが施される。7は灰軸陶器高台皿、8は編物石である。

遺構の時期は、10世紀と推定される。

第1号特殊土坑 (第55・58図、第20表)

調査区東部に位置し、第3・4号竪穴建物跡に切られ、第1号溝と重複する。平面形態は楕円形で、長径3.6m以上、短径1.6mを測る。主軸方位は $N-65^{\circ}-E$ である。掘り下げはほとんど行なわなかった。



第60図 下郷遺跡確認調査概要図

図示できた遺物は、第58図9・10である。9は須恵器瓶、10は土師器甕である。

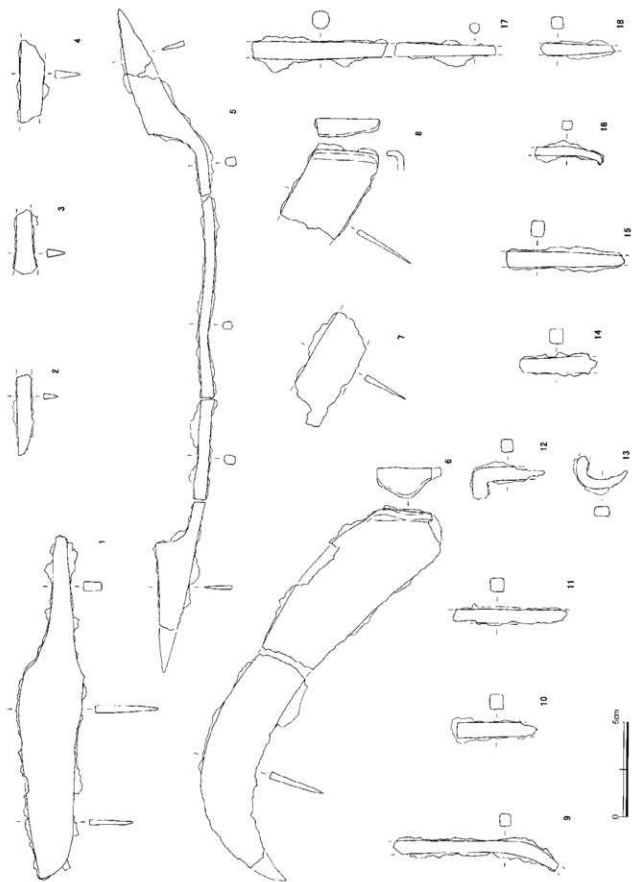
第1号溝（第55図）

調査区南部に位置し、第5号竪穴建物跡を切り、第6号竪穴建物跡、第1号特殊土坑と重複する。幅60cmで、西部では30cmと狭くなる。主軸方位はN-70°-Eである。掘り下げはほとんど行なわなかった。

図示できる遺物は出土しなかった。

6 下郷遺跡試掘・確認調査

平成20年12月25日、深谷市東方字北下郷2732-5で個人住宅の建設が明らかとなり、平成21年7月13日に試掘・確認調査を行なった。調査位置は、第37図に示した通りである。その結果、現地表面から約50cmの面から、溝、土坑が確認された（第60図）。溝は幅約1m、確認面からの深さ約20cmを測り、古代のものと思われる。土坑は確認面からの深さ30cm以上で、中世のものと思われる。なお、工事に当たっては遺構保護層が十分に確保されるため、現状保存となった。



第61図 金属製品集成図

番号	種別	出土遺構	長さ	幅	厚さ	重さ	挿図番号
1	刀子	幡羅20次SD50	18.2	3.4	0.4	43.88g	第16図 8
2	刀子	下郷3次SJ14		0.8	0.3	2.84g	第30図 30
3	刀子	幡羅28次SK706		0.9	0.4	2.98g	第24図 20
4	刀子	下郷3次SJ15		1.3	0.4	3.03g	第31図 13
5	鉄	下郷9次SJ1		2.1	0.3	35.87g	第51図 128
6	鎌	下郷9次SJ1		4.2	0.4	106.50g	第51図 129
7	鎌	下郷3次SJ10		3.3	0.4	23.05g	第29図 2
8	鎌	下郷3次SJ10		2.4	0.3	13.27g	第29図 3
9	鉄釘	幡羅28次SJ160		0.7	0.6	8.56g	第22図 11
10	鉄釘	下郷3次SJ11		0.8	0.7	7.03g	第29図 6
11	鉄釘	下郷3次SJ13		0.8	0.7	6.07g	第29図 10
12	鉄釘	下郷3次SJ18		0.7	0.6	5.43g	第32図 6
13	棒状鉄製品	下郷3次SJ14		0.5	0.8	3.52g	第30図 31
14	鉄釘	下郷3次SD2		0.8	0.7	7.36g	第33図 21
15	鉄釘	下郷4次SJ8		0.8	0.7	10.95g	第36図 16
16	鉄釘	下郷9次SJ1		0.5	0.5	2.90g	第51図 131
17	鉄釘	下郷9次SJ1		1.0	0.9	23.72g	第51図 130
18	鉄釘	下郷13次調査区一括		0.6	0.6	3.36g	第59図 30

第22表 金属製品一覧表

V 調査のまとめ

今回報告したのは、郡家の周辺域であり、遺構は大部分が堅穴建物群である。時期は7世紀後半～10世紀にかけてのもので、今回報告した区域においては、ほぼ継続して集落が営まれる。一方、これまで報告してきた郡家域においては、堅穴建物跡の分布に時期的な偏りが認められる。

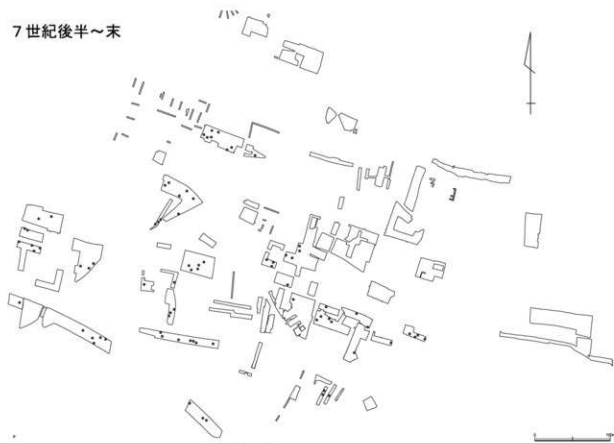
堅穴建物跡の時期別分布は、第62・63図に示した。幡羅遺跡が成立するのは7世紀後半であるが、堅穴建物は遺跡全体に分布している。こうした中に、掘立柱建物が混在する状況である。倉庫も点在するが、2×2間程度の小規模なものが多い。こうした状況は7世紀末まで続き、7世紀末を境に堅穴建物の分布は状況を一変させる。それと共に、正倉院や道路、その他実務官衙施設等が造営されると考えられる。堅穴建物群のほとんどは郡家域から除かれ、郡家域と周辺集落域とは区分されていく。そうした区画の役目を果たすもの一つとして、道路の北西に沿う区画溝が挙げられるであろう。なお周辺集落は、郡家の西や南に大きく広がっている。遺物の分布等から、西には約

300m、南には1km近く集落が広がる可能性がある。郡家域内で確認されている8世紀代の堅穴建物は4棟あるが、その内の2棟は鍛冶工房である。他に電屋等が存在することも想定できるが、8世紀のもので郡家域に存在する堅穴建物には、そうした特別な機能があった可能性が高いと思われる。9世紀になってもこうした分布状況はほとんど変わらない。しかし、9世紀後半になると、実務官衙域の施設に構造の変化が生じることは注意しなければならない。10～11世紀になると、堅穴建物の分布状況は再び大きく変化し、郡家域内に分布の中心が移る。

これらの変化は、地方における律令制の成立と変遷、解体の過程を示す一つの現象と捉えることができる。幡羅郡家を取り巻く周辺の調査は、今後に残された課題の一つである。そうした調査を通じてこそ、幡羅郡家と古代社会をより明らかにしていくことができると考えられる。

発掘調査から報告書の刊行を行なうにあたり、埼玉県発掘調査評価・指導委員会の須田勉氏、山中敏史氏、佐藤信氏を始めとする多くのの方々より多大なるご教示

7世紀後半～末

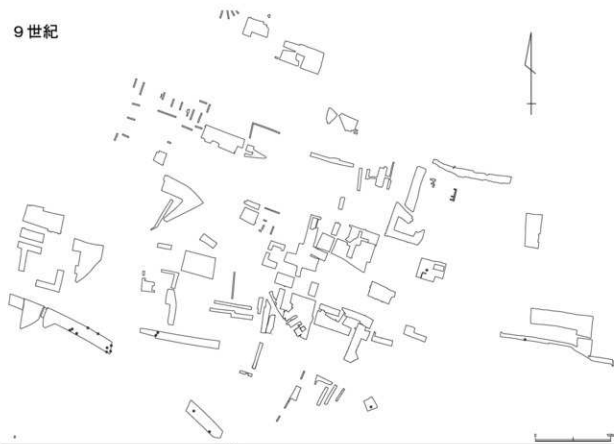


8世紀

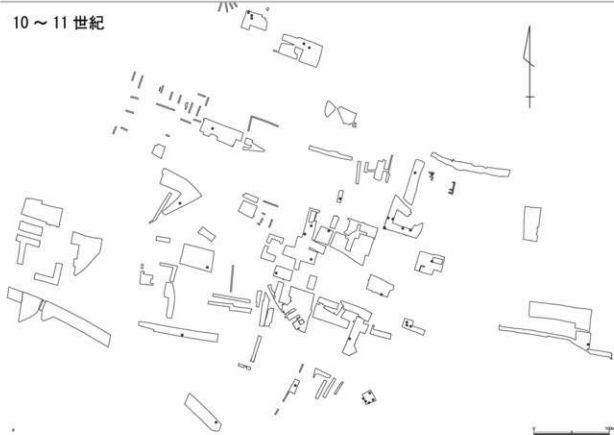


第62図 竪穴建物時期別分布図(1)

9世紀



10~11世紀



第63圖 竪穴建物時期別分布圖(2)

を頂いた。感謝申し上げたい。

整理作業に携わり、文化財を後世に残すことにご尽力

最後に改めて、この発掘調査に深いご理解とご協力を
頂いた地権者の方々を始め、幡羅遺跡の発掘調査、

いただいた皆様に敬意を表したい。

〈参考文献〉

- 青木克尚 2004 『下郷遺跡Ⅱ』埼玉県深谷市埋蔵文化財発掘調査報告書第72集
青木克尚他 2006 『幡羅遺跡Ⅰ』埼玉県深谷市埋蔵文化財発掘調査報告書第75集
知久裕昭 2007 『幡羅遺跡Ⅱ』埼玉県深谷市埋蔵文化財発掘調査報告書第88集
知久裕昭 2007 『居立（第2次）／森古古墳／下郷』埼玉県深谷市埋蔵文化財発掘調査報告書第92集
知久裕昭 2008 『幡羅遺跡Ⅲ』埼玉県深谷市埋蔵文化財発掘調査報告書第99集
知久裕昭 2009 『幡羅遺跡Ⅳ』埼玉県深谷市埋蔵文化財発掘調査報告書第104集
知久裕昭 2009 『幡羅遺跡Ⅴ』埼玉県深谷市埋蔵文化財発掘調査報告書第109集
知久裕昭 2010 『幡羅遺跡Ⅵ』埼玉県深谷市埋蔵文化財発掘調査報告書第111集
知久裕昭 2010 『下郷遺跡Ⅲ』埼玉県深谷市埋蔵文化財発掘調査報告書第118集
知久裕昭 2010 『下郷遺跡Ⅳ』埼玉県深谷市埋蔵文化財発掘調査報告書第120集
鳥羽政之他 2001 『熊野遺跡Ⅰ』岡部町遺跡調査会埋蔵文化財調査報告書第9集
鳥羽政之他 2004 『熊野遺跡Ⅲ』岡部町教育委員会埋蔵文化財調査報告書第9集
鳥羽政之 2008 『深谷市内遺跡XV』埼玉県深谷市埋蔵文化財発掘調査報告書第94集
富田和夫 2002 『熊野遺跡（A・C・D区）』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第172集
山中敏史 1994 『古代地方官衙遺跡の研究』塙書房
山中敏史他 2003 『古代の官衙遺跡Ⅰ遺構編』奈良文化財研究所
山中敏史他 2004 『古代の官衙遺跡Ⅱ遺物・遺跡編』奈良文化財研究所

写真図版



幡羅20次調査区遠景



幡羅20次調査A区(1)



幡羅20次調査B・C区

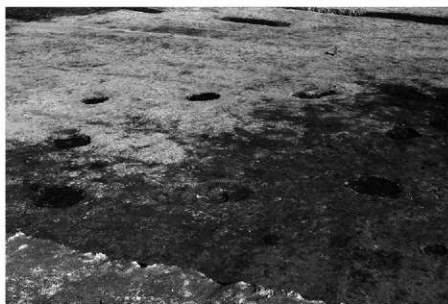
图版 2



幅羅20次調査A区(2)



幅羅20次第59号建物跡



幅羅20次第60号建物跡



幡羅20次調査B区



幡羅20次第61号建物跡



幡羅20次調査C区(1)

图版 4



幅羅20次第59号建物跡 P 4



幅羅20次第59号建物跡 P 5



幅羅20次第60号建物跡 P 6



幅羅20次第61号建物跡 P 1



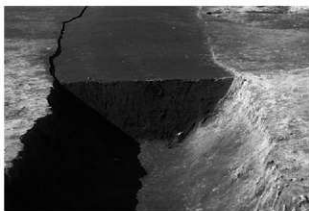
幅羅20次第61号建物跡 P 2



幅羅20次第50号溝 (1)



幅羅20次第50号溝 (2)



幅羅20次第50号溝 (3)



幡羅20次調査C区 (2)



幡羅20次調査C区 (3)



幡羅20次第53号溝 (1)



幡羅20次第53号溝 (2)



幡羅20次第53号溝 (3)



幡羅20次調査A区中央部



幡羅20次調査風景



幡羅22次調査区東部

図版 6



幡羅22次調査区南部（東から）



幡羅22次調査区南部（西から）



幡羅22次第53号溝（1）



幡羅22次第53号溝（2）



幡羅22次第53号溝（3）



幡羅22次調査風景



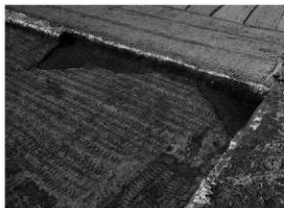
幡羅28次調査区（1）



幡羅28次調査区（2）



幡羅28次調査区南部



幡羅28次調査区北東部



幡羅28次調査区北部



下郷3次調査区(1)



下郷3次調査区(2)



下郷3次第3～6号竪穴建物跡

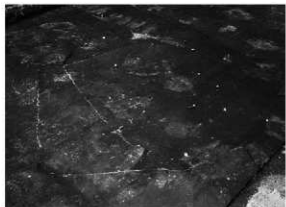


下郷3次第13～20号竪穴建物跡



下郷3次第14号竪穴建物跡遺物出土状況

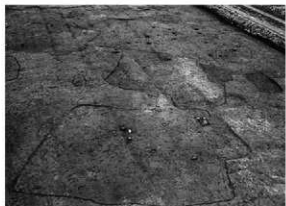
図版 8



下郷3次第7～9号竪穴建物跡



下郷3次第26～33号竪穴建物跡(1)



下郷3次第26～33号竪穴建物跡(2)



下郷3次調査風景



下郷4次調査区(1)



下郷4次調査区(2)



下郷5次調査区



下郷5次東壁



下郷9次調査区(1)



下郷9次第1号竪穴建物跡



下郷9次第1号竪穴建物跡遺物出土状況(1)

図版 10



下郷9次第1号竪穴建物跡カマド (1)



下郷9次第1号竪穴建物跡掘方 (1)



下郷9次第1号竪穴建物跡掘方 (2)



下郷9次調査区 (2)



下郷9次第1号竪穴建物跡遺物出土状況 (2)



下郷9次第1号竪穴建物跡遺物出土状況 (3)



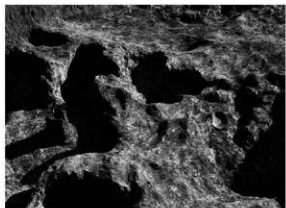
下郷9次第1号竪穴建物跡カマト (2)



下郷9次第1号竪穴建物跡カマト (3)



下郷9次第1号竪穴建物跡カマト (4)



下郷9次第1号竪穴建物跡掘方 (3)



下郷9次第1号土坑

図版 12



下郷9次第1号溝



下郷9次調査風景 (1)



下郷9次調査風景 (2)



下郷9次調査風景 (3)



下郷13次調査区遠景



下郷13次調査区



下郷13次第1号建物跡 P 2 (1)



下郷13次第1号建物跡 P 2 (2)



下郷13次第1号建物跡

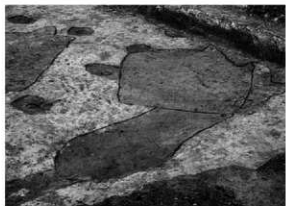
図版 14



下郷13次調査区北壁際ピット



下郷13次第1号竪穴建物跡



下郷13次調査区南東部



下郷13次調査区西部



下郷13次調査区南部



下郷13次調査区南西部



下郷遺跡確認調査 (1)



下郷遺跡確認調査 (2)



幡羅20次調査区出土縄文土器



第14図 8 (幡羅20次 S B 59)



第14図 17 (幡羅20次 S J 103)



第15図 9 (幡羅20次 S J 114)



第15図 10 (幡羅20次 S J 114)



第15図 12 (幡羅20次 S J 114)



第16図 6 (幡羅20次 S D 50)



第16図 7 (幡羅20次 S D 50)



第16図 10 (幡羅20次 S D 53)



第19図 1 (幡羅22次 S J 133)



第19図 11 (幡羅22次)



第19図 12 (幡羅22次)



第19図 13 (幡羅22次)



第19図 14 (幡羅22次)

図版 16



第20図 1 (幡羅22次)



第20図 2 (幡羅22次)



第20図 3 (幡羅22次)



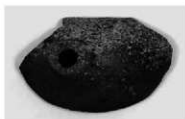
第20図 4 (幡羅22次)



第20図 5 (幡羅22次)



第22図17 (幡羅28次 S J 161)



第22図19 (幡羅28次 S J 161)



第23図14 (幡羅28次 S J 162)



第23図27 (幡羅28次 S J 162)



第23図28 (幡羅28次 S J 161)



第23図31 (幡羅28次 S J 162)



第23図34 (幡羅28次 S J 162)



第24図 3 (幡羅28次 S J 162)



第24図14 (幡羅28次 S J 162)



第24図18 (幡羅28次 S X 30)



第28図3 (下郷3次S J 3)



第28図16 (下郷3次S J 6)



第28図18 (下郷3次S J 7)



第28図27 (下郷3次S J 8)



第29図11 (下郷3次S J 14)



第29図18 (下郷3次S J 14)



第29図20 (下郷3次S J 14)



第29図21 (下郷3次S J 14)



第29図23 (下郷3次S J 14)



第29図28 (下郷3次S J 14)



第29図30 (下郷3次S J 14)



第29図31 (下郷3次S J 14)



第30図2 (下郷3次S J 14)



第31図2 (下郷3次S J 15)



第31図5 (下郷3次S J 15)



第31図6 (下郷3次S J 15)



第32図22 (下郷3次S J 26)



第33図7 (下郷3次S J 33)

図版 18



第33図10 (下郷3次S J 33)



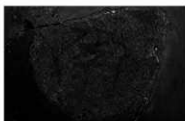
第33図14 (下郷3次S J 38)



第34図4 (下郷3次)



第34図5① (下郷3次)



第34図5② (下郷3次)



第39図2 (下郷5次S J 1)



第39図4 (下郷5次S J 1)



第46図7 (下郷9次S J 1)



第46図12 (下郷9次S J 1)



第46図23 (下郷9次S J 1)



第46図32 (下郷9次S J 1)



第46図33 (下郷9次S J 1)



第47図68 (下郷9次S J 1)



第48図69 (下郷9次S J 1)



第48図88 (下郷9次S J 1)



第49図101 (下郷9次S J 1)



第50図102 (下郷9次S J 1)



第50図103 (下郷9次S J 1)



第50図104 (下郷9次S J 1)



第57図2 (下郷13次S J 1)



第57図3 (下郷13次S J 1)



第57図5 (下郷13次S J 3)



第57図10 (下郷13次S J 5)



第57図11 (下郷13次S J 5)



第57図13 (下郷13次S J 6)



第57図15 (下郷13次S J 6)



第58図1 (下郷13次S J 7)



第58図6 (下郷13次S J 8)



第58図7 (下郷13次S J 8)



第58図13 (下郷13次)

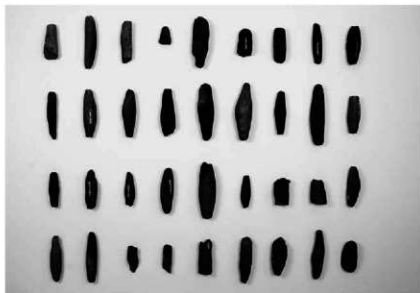


第58図17 (下郷13次)

図版 20



第59回23 (下郷13次)



土錘 (幡羅28次、下郷3・4次)



土錘 (下郷9・13次)



土製紡錘車 (幡羅28次、下郷3次)



鉄製品 (幡羅20・28次、下郷3・4次)



鉄製品、羽口（下郷9・13次）



第51図128（下郷9次S J 1）



カマド支脚（下郷9次S J 1）



第54図2（下郷9次）

報告書抄録

ふりがな	はらいせき なな/しもごういせき ご								
書名	幡羅遺跡 VII/下郷遺跡 V								
副書名	遺跡南西部の調査/周辺集落の調査								
巻次									
シリーズ名	埼玉県深谷市埋蔵文化財発掘調査報告書								
シリーズ番号	第123集								
編著者名	知久裕昭								
編集機関	深谷市教育委員会								
所在地	〒366-0823 埼玉県深谷市本住町17-3 TEL 048-572-9581								
発行年月日	2011年3月31日								
ふりがな	ふりがな	コ ー ド		北 緯	東 経	調 査 期 間	調 査 面 積	調 査 原 因	
所収遺跡名	所 在 地	市町村	遺跡番号	(° ' ")	(° ' ")				
幡羅遺跡 (20次)	深谷市東方 字伊丹2829-1,-4, 2831-4	11218	271	36 19 27	139 32 43	20060904 ∫ 20061113	2,000 m ²	保存目的	
幡羅遺跡 (22次)	深谷市東方 字伊丹2809-2	11218	271	36 19 20	139 32 45	20070614 ∫ 20070626	370 m ²		
幡羅遺跡 (28次)	深谷市東方 字伊丹2809-1, 2811-1	11218	271	36 19 24	139 32 50	20070703 ∫ 20070926	350 m ²		
下郷遺跡 (3次)	深谷市東方 字辻3091,3092	11218	029	36 19 14	139 32 61	20040421 ∫ 20040527	1,000 m ²		
下郷遺跡 (4次)	深谷市東方 字辻3072-1	11218	029	36 19 17	139 32 61	20040622 ∫ 20040630	1,000 m ²		
下郷遺跡 (5次)	深谷市東方 字北下郷2743-5, 2766-3,-4	11218	029	36 19 01	139 32 39	20050722 ∫ 20050726	5 m ²	個人住宅	
下郷遺跡 (9次)	深谷市東方 字川足1930-2	11218	029	36 19 20	139 32 06	20080116 ∫ 20080125	80 m ²	個人住宅	
下郷遺跡 (13次)	深谷市東方 字大竹3113-2	11218	029	36 19 05	139 32 91	20091029 ∫ 20091224	200 m ²	保存目的	
所収遺跡名	種 別	主な時代		主な遺構		主な遺物			特 記 事 項
幡羅遺跡 下郷遺跡	官衙跡 集落跡	古墳時代 奈良時代 平安時代		掘立柱建物跡 4棟 竪穴建物跡 91棟 円形周溝遺構 1基 溝 11条		土師器 須恵器 ロクロ土師器 鉄製品			

埼玉県深谷市埋蔵文化財発掘調査報告書 第123集

幡羅遺跡 VII / 下郷遺跡 V

印刷 平成23年3月28日

発行 平成23年3月31日

発行 埼玉県深谷市教育委員会
